

事業報告書

平成20年度

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

学校法人 慈恵大学

目 次

以下の各目次をクリックすると、該当ページへ移動することが可能です。

I. 学校法人慈恵大学	
1. 慈恵大学行動憲章	2
2. 慈恵大学行動規範	2
建学の精神・病院の理念・病院の基本方針	3
3. 慈恵大学の沿革	4
4. 設置する学校・学部・学科等	4
5. 平成20年度事業報告	5
1) 平成20年度の事業概要	5
2) 主な建設工事	8
6. 平成20年度決算	10
7. 関連当事者等との取引等の状況	17
8. 学校法人慈恵大学の体制	18
1) 学校法人慈恵大学	18
2) 東京慈恵会医科大学	18
3) 看護専門学校	18
9. 学校法人慈恵大学組織図	19
10. 理事会	20
11. 評議員会	24
12. 監査室	24
II. 東京慈恵会医科大学	
1. 教授、その他の人事	26
1) 平成21年3月31日退任教授	26
2) 新任教授	26
3) 新任客員教授	27
4) 特任教授	27
5) 叙位・叙勲	27
6) 訃報	27
2. 教職員数	28
1) 教員数（医学科・看護学科）	28
2) 初期臨床研修医数	28
3) 職員数（看護師を含む）	28
4) 看護師数	28
3. 教 育	29
1) 医学部医学科学生数など	29
2) 医学部看護学科学学生数など	29
3) 大学院学生数（医学系専攻博士課程）	30
4) 大学院学生数（看護学専攻修士課程）	30
5) 大学および大学院など	30
(1) 医 学 科	30
(2) 看護学科	34
(3) 大 学 院	36

6)	慈恵看護専門学校	36
	看護専門学校学生数	36
(1)	慈恵看護専門学校	37
(2)	慈恵青戸看護専門学校	38
(3)	慈恵第三看護専門学校	39
(4)	慈恵柏看護専門学校	40
7)	卒後臨床研修	41
8)	生涯学習センター	42
4.	研 究	44
1)	教育研究助成委員会・大型プロジェクト対策委員会・発明委員会	44
2)	総合医科学研究センター	45
5.	診 療	48
1)	病院概況	48
(1)	本 院	48
(2)	青戸病院	53
(3)	第三病院	55
(4)	柏 病 院	57
(5)	総合健診・予防医学センター	59
(6)	病床数および外来患者数	60
2)	派遣・関連病院関係	60
(1)	大学協力病院	60
(2)	教室等関連病院	61
(3)	特殊派遣機関	63
(4)	特殊派遣機関（海外派遣機関）	63
6.	学術情報センター	64
7.	教育センター	66
8.	その他	68
1)	成 医 会	68
2)	各種行事	69
3)	印刷物等の発行	69
〔付〕		
1.	平成20年度 事業計画に対する実施結果一覧	71
2.	中期目標・中期計画・平成21年度事業計画	89

I . 学校法人慈惠大学

1. 慈恵大学 行動憲章

H16. 9. 24 制定

H17. 2. 24 改正

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。

全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に貢献します。
5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

2. 慈恵大学 行動規範

H17. 3. 24 制定

H21. 4. 1 改定

(目的)

第1条 慈恵大学（以下「大学」という）が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

(基本理念)

第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

(法令の遵守)

第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

(人間の尊重)

第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

(取引業者との関係)

第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

(反社会的勢力との関係)

第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

(過剰な接待接受の禁止)

第7条 正常な取引関係（患者関係含む）に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の接受を禁止する。

(環境保護)

第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

(公私の区別)

第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

(日常の業務処理)

第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。

また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。

2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
4. 会計処理にあたって、不明朗、不透明な処理を行ってはならない。

(虚偽の報告・隠蔽)

第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。

(教育・指導)

第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

(告発)

第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案(告発)窓口にて提案することができる。

2. 提案者(告発者)については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

(監査・報告)

第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

(違反の処理)

第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

附 則 1. 本規範は、平成21年4月1日から実施する。

2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

【建学の精神】

「病気を診ずして 病人を診よ」

私達は病気の治療のみではなく、病者の不安や悩みなどを取り除き、つねに患者さんのための真の医療を考えております。

また、病者の痛みに共感することができる「医の心」を持つ医師と「看護の心」を持つ看護師の養成をめざしております。

【病院の理念】

「病気を診ずして 病人を診よ」の教えに基づき、質の高い医療を実践し、医療人を育成することにより、社会に貢献し、患者さんや家族から信頼される病院をめざす。

【病院の基本方針】

1. 患者さんや家族が満足する良質な医療を実践する。
2. 先進医療の開発・導入など、日々、医療水準の向上に努める。
3. 優れた技能を身につけ、豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた医療人を育成する。
4. 地域社会と連携し、きめ細かな医療サービスを提供する。
5. 全職員が誇りをもって働ける職場づくりを実践する。

3. 学校法人慈恵大学の沿革

年 月	学校法人・学校・学部・学科・課程等の新增設等
明治14年 5月	成医会講習所を開設した
明治23年 1月	成医会講習所を成医学校に改める
明治24年 9月	成医学校を改め、東京慈恵医院医学校となる
明治36年 6月	専門学校令により私立東京慈恵医院医学専門学校となる
明治41年 5月	東京慈恵会が設立され東京慈恵会医院医学専門学校と改称した
大正10年10月	財団法人東京慈恵会医科大学を設置した
大正10年10月	大学予科を新設した
大正11年 2月	東京病院（開設：明治24年 2月）を附属病院とした
大正14年 3月	東京慈恵会医院医学専門学校自然廃校とした
昭和19年 4月	東京慈恵会医科大学附属医学専門部を開設した
昭和19年 4月	中川堤診療所（入手：昭和18年）を総合病院とし、東京慈恵会医科大学附属青砥分院（現：附属青戸病院）を開設した
昭和25年11月	東京慈恵会医科大学附属第三分院（現：附属第三病院）を開設した
昭和26年 3月	大学予科を閉校した
昭和26年 3月	財団法人東京慈恵会医科大学は、学校法人慈恵大学に変更。同法人が東京慈恵会医科大学を経営する
昭和27年 3月	附属医学専門部を閉校した
昭和27年 4月	学制改革により医学専門課程をもつ新制大学として発足した
昭和31年 4月	大学院医学研究科を開設した
昭和35年 4月	医学科（入学定員80名）を調布市国領町に開設し、6年制の一貫教育を開始した
昭和39年 4月	医学科の入学定員を100名とした
昭和46年 4月	慈恵第三高等看護学院（現：慈恵第三看護専門学校）を開設した
昭和50年 4月	医学科の入学定員を120名とした
昭和50年 4月	慈恵青戸高等看護学院（現：慈恵青戸看護専門学校）を開設した
昭和62年 4月	東京慈恵会医科大学附属柏病院を開設した
昭和62年 4月	慈恵柏看護専門学校を開設した
平成 4年 4月	医学部看護学科（定員：30名）を調布市国領町に開設し、4年制の一貫教育を開始した
平成 4年 4月	医学科の入学定員を100名とした
平成14年 4月	慈恵医大晴海トリトンクリニックを開設した
平成19年 4月	看護学科の入学定員を40名とした
平成21年 4月	医学科の入学定員を105名とした
平成21年 4月	大学院医学研究科看護学専攻修士課程（定員：10名）を開設した

4. 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等	摘要
東京慈恵会医科大学	昭和31年 4月	大学院医学研究科博士課程	
	平成21年 4月	大学院医学研究科看護学専攻修士課程	
	昭和27年 4月	医学部医学科	
	平成 4年 4月	医学部看護学科	
慈恵青戸看護専門学校	昭和50年 4月	3年課程	平成20年 4月募集停止
慈恵第三看護専門学校	昭和46年 4月	3年課程	
慈恵柏看護専門学校	昭和62年 4月	3年課程	

5. 平成20年度 事業報告

理事長 栗原 敏

1) 平成20年度の事業概要

〔基本方針〕

平成20年度は下記の項目を基本方針と重点施策として取り組んだ。

1. 法令遵守の徹底

- 教職員の法令遵守精神を向上させる。
新入職員オリエンテーションおよび臨床研修医のオリエンテーションにおいて大学行動憲章と行動規範の徹底を図った。

2. 医療安全の推進

- 医療安全体制を検証し、より良い医療安全システムを構築する。
医療安全管理体制点検を継続し、特にシステム工学の視点での外来診療、初診受付、検査、放射線部の業務の流れ等をPFC（プロセスフローチャート）にて可視化し、問題点を抽出した。また、青戸病院の新棟建築計画においてもシステム工学的視点による検討を開始した。
迅速対応のために、医療安全と感染対策の管理部門として、医療安全管理部を設立し相互協力体制を確立した。また、Safe Master 導入により迅速な情報収集がされ、検証が必要な事例については速やかに会議を招集し改善策を立案し現場での実践に繋げた。
私立医科大学病院間の連携を密にし相互ラウンドを実施しているが、さらに、私立医科大学協会を通じて全国レベルの相互ラウンドを実施した。なお、感染対策作業部会を設立し、院内感染に特化したラウンド項目を追加し感染防止を徹底した。
今後の患者と医療者間での問題解決に向けて期待される「医療メディエーター」育成のための研修会を実施した。

3. 質の高い医療人の育成

- 卒前教育の改善と充実を図る。
 - ① カリキュラムを点検・評価して、教養教育のあり方を検討する。
医学科ではカリキュラムの点検評価を行い、報告書を作成中である。看護学科では平成21年度カリキュラム改訂の作業を予定通り終了した。また、教養教育のあり方についても検討を進めており、看護学科では教養科目をリベラルアーツとして位置付けることにした。
 - ② 医学科と看護学科の共修可能な科目を見直し、共修として履修可能な科目を増やした。
- 卒後教育を改善して研修医とレジデントの応募者増を図る。
 - ① 臨床研修センターを設置し、体制を強化した。また、研修医室を拡充した。
 - ② レジデント教育プログラムの見直しを行い、ホームページの内容を一部更新した。
- 大学病院連携型高度医療人養成推進事業に参画する。
本学では①北海道大学を中心とした計画に教育関連病院として参加する案、②京都府立医大と連携した全診療科を対象としたプログラム案、③都内4大学教育交流を診療に拡大するプログラム案を検討したが、北海道大学を中心とする「自立した専門医を育むオール北海道プラス1」が採択された。
また、平成20年度戦略的大学連携支援事業に本学が主管となり申請した、「東京都内4医療系大学連携によるカリキュラム開発と地域医療者生涯学習コース提供」が採択された。
- 看護学科および看護専門学校は、協働して卒業時の技術到達目標に関する評価を周知する。
共通レベルの評価表作成を検討している。21年度中に運用を開始する予定である。

4. 安定した財政基盤の構築

- ・医療収入の増加と医療経費の削減を図る。

疾病別の医療収入および原価率を把握し、改善を推進することが重要である。本院では医療構造分析・適正化タスク・フォースを設置し改善検討を開始し、青戸病院、第三病院、柏病院では、DPC 導入に伴い、分析ソフトおよびコンサルタントを活用し、疾病別の DPC と出来高比較分析結果をもとに、各診療科との面談を実施し収入改善に取り組んだ。また、疾病別・術式別の医療材料費を把握することにより改善を推進し、あわせて物流全般を慈恵実業に集約、購入組織を整備し、一括購入、物流効率化で経費を削減した。

- ・大学における経費の点検を行う。

予算実績管理体制を強化し効率的な運用推進の仕組みを策定するため、財務委員会を設置しての財務計画策定、およびその検証を予定したが、新財務システム導入の遅れから委員会立ち上げまでは至らなかった。

- ・機関別の中期財務計画を策定する。

中期財務計画案は素案の段階で財務部・企画部で継続的に検討する。

- ・収支状況の月次把握ができるようにする。

附属 4 病院の月次収支状況は、病院運営会議、4 病院院長・事務・看護部長会議で報告、分析を行った。情報の共有と改善に有効活用している。

新旧財務システムのデータ整合性を検証し、平成21年度より、新システムでのデータ把握が可能となる予定である。

- ・青戸病院、第三病院の収支構造の改善を図る。

青戸病院では、病院運営会議、DPC 対策委員会、リニューアル TF 等で経営改善策を検討・推進した結果、原価計算上 6 期ぶりの黒字を達成した。

第三病院では、7 月からの DPC 導入以後も大きな障害等もなく順調に稼働しており、出来高請求比で約 5 % のプラスとなった。DPC 導入に向けて院内に組織横断的なプロジェクトチームを設置し、検査やレントゲン、注射といった包括項目について、ジェネリックの使用促進、高額検査リスト作成による情報提供等を行ったことにより収支状況は改善された。

5. 医学・看護学研究の推進

- ・本学の各講座を中心に行われている特色ある伝統的研究と共に先進的研究を推進する。

① 臨床研究開発室を発展的に解消し、分子疫学研究室と臨床疫学研究室を設置した。

② 先端医療研究推進委員会では将来性のある研究課題を選定し、公開した。

③ 先端医療開発特区（スーパー特区）に ME 研究室古幡教授の「急性脳梗塞早期系統的治療のための分野横断的診断治療統合化低侵襲システムの開発」が採択され、大学としてバックアップすることになった。

- ・研究推進のための競争的研究資金の獲得を目指す。

補助金対象の調査を行い、イントラネット「研究推進のページ」などを活用するとともに、対象部署には個別に案内するなど応募申請の徹底を図った。私立大学等経常費補助金（特別補助）の増額に取組み、特別補助で約 1 億円の増額となった。

- ・看護学専攻修士課程申請の準備を進める。

申請の準備は予定通り進捗し 5 月に設置申請書を提出し、10月31日付けて文部科学省から認可された。平成21年 4 月 1 日に開講し12名が入学した。

6. 広報活動の充実

- ・広報誌、ホームページを充実させて、本学の教育・研究内容などを社会にアピールした。また、病診連携、病々連携、同窓会への情報発信に活用した。

本学の社会貢献、研究成果、医療貢献に関しての情報の収集は広報課で集約できる体制を整備したことによって、学内だけでなく、本学利用者をはじめとする学外にも広く提供できること

となった。その方法として、広報誌、ホームページ、イントラネット、オールユーザーメール、および高木会館1階ロビーの広報掲示板（各機関も同様に掲示場所を常設）を利用し、メディア露出を含め学内の情報をタイムリーに提供している。

同窓、教職員、学生父兄、関連医療機関等へは、「The JIKEI」を通じて本学の情報発信を行った。なお、「慈大新聞」との情報の共有と活用を進めている。

また、秋葉原無差別殺人事件を実例とした夜間・休日におけるマスコミ対応のマニュアルを関連各部署と連携し作成、これを基に周知徹底のための説明会を開催し、情報管理体制の確立を進めた。有事の際の広報体制確立と情報統制を確立する上で契機となった。

7. 平成21年に大学基準協会の大学評価を受けるための申請準備を行う。

大学自己点検評価委員会が中心となり全学的な協力のもとで申請書を作成した。2月12日付けで申請が受理され、21年度中に書面評価と実地視察が行われることとなった。

8. 青戸病院、第三病院、柏病院にDPCを導入する。

青戸病院では7月のDPC導入にあわせてクリパスの導入拡大等医療の効率化、標準化を図った。DPC対策委員会とクリニカルパス運営委員会を統合しクリニカルパス導入を推進している。

第三病院では、前述の通り、DPC導入に向けて院内に組織横断的なプロジェクトチームを設置し、円滑な導入を図り、収入増に繋げた。

柏病院では、DPC導入（7月）に合わせクリパスの導入拡大等医療の効率化、標準化を図った。DPC導入検討委員会およびクリニカルパス委員会を中心に医療の質と安全を基盤として、医療収支が確保できる体制の構築に努めた。オーダーリングシステムを利用した、収支の確保にも寄与する新たなクリニカルパスの策定もPDCAサイクルを継続しながら進めている。

なお、DPCの導入後は、DPCデータを用いた院内ベンチマーク分析の実施等が可能となり、併せてコンサルタント会社からの情報も利用しながら、医療の効率化、標準化による安全確保に寄与している。

9. 青戸病院リニューアル計画の建築着工に関する基本事項を決定する。

基本設計を完了し、詳細な実施設計段階に至っている。開発許可・総合設計に向け、対外折衝および整理は順調に進められている。

※なお、平成20年度 事業計画に対する実施結果については巻末の〔付〕1に掲載した。

2) 重要な契約

- ① 狛江市道34号線（通称：慈恵東通り）道路整備事業に伴う校地売買及び物件移転補償契約（平成21年3月13日付）

3) 20年度の主な建設工事

1. 法人事務局

- | | |
|---------------------------|-----------|
| ① 高木2号館前看護婦教育所創設の碑文修復工事 | 平成20年5月実施 |
| ② 看護学専攻修士課程開設に伴う管理棟5階改修工事 | 平成21年2月完了 |
| ③ 電話交換機更新工事 | 平成21年3月実施 |
| ④ 大学2号館横教職員用立体駐車場整備工事 | 平成21年3月実施 |

2. 西新橋校

- | | |
|--------------------------------------|------------|
| ① 小児科学講座井田教授室整備工事 | 平成20年5月実施 |
| ② 学術情報センター図書館書庫照明器具取替工事 | 平成20年8月実施 |
| ③ 高木会館6階形成外科学講座主任教授室の整備工事 | 平成20年8月実施 |
| ④ 大学1号館5階実習室実験台(2台)増設工事 | 平成20年8月実施 |
| ⑤ F棟3階薬理学講座教授室の整備工事 | 平成20年9月実施 |
| ⑥ 大学2号館10階研究室設置工事 | 平成20年11月実施 |
| ⑦ 大学1号館実験動物施設HEPAフィルター取替工事 | 平成20年12月実施 |
| ⑧ 大学2号館呼吸器内科研究室増設工事 | 平成21年2月実施 |
| ⑨ 大学1号館冷水・温水ポンプの運転制御改善(エコノパイロット導入)工事 | 平成21年3月実施 |
| ⑩ 大学2号館2階教職員喫煙室排気設備増強工事 | 平成21年3月実施 |

3. 国領校

- | | |
|-----------------|-----------|
| ① 本館他誘導灯取替工事 | 平成20年8月完了 |
| ② 6号館屋上防水修理工事 | 平成20年8月完了 |
| ③ プール館ろ過タンク取替工事 | 平成20年9月完了 |

4. 看護学科

- | | |
|----------------------------|-----------|
| ① 空冷ヒートポンプパッケージマルチ型空調機更新工事 | 平成20年9月完了 |
|----------------------------|-----------|

5. 本 院

- | | |
|--|------------|
| ① 芝郵便局脇「慈恵医大病院」案内看板設置他工事 | 平成20年5月実施 |
| ② フィットネステスト室移転工事 | 平成20年5月実施 |
| ③ 中央棟3階手術部OR-5血管撮影装置更新工事 | 平成20年5月実施 |
| ④ 研修医控室整備工事 | 平成20年8月完了 |
| ⑤ 外来棟2階一般点滴室整備工事 | 平成20年10月完了 |
| ⑥ 中央棟3階手術部OR-5ナビゲーションシステム設置工事 | 平成20年10月完了 |
| ⑦ 中央棟病院病理部移転に伴うE棟地下1階改修工事 | 平成20年10月完了 |
| ⑧ 中央棟8階当直室ITV設置工事 | 平成20年10月完了 |
| ⑨ 中央棟屋上「慈恵大学病院」看板設置工事 | 平成20年11月完了 |
| ⑩ 大学2号館臨床教育センター設置工事 | 平成20年11月完了 |
| ⑪ 病理支援システム並びに大学2号館オーダーリング室設置に伴う整備工事 | 平成21年1月実施 |
| ⑫ 外来棟4階患者支援・医療連携センター改修工事 | 平成21年1月実施 |
| ⑬ 新型インフルエンザ対策として、外来棟総合診療部並びにF棟旧ペインクリニック跡空調整備工事 | 平成21年2月実施 |
| ⑭ 中央棟、E棟各病棟病室窓の採風錠点検 | 平成21年2月実施 |
| ⑮ 中央棟外来患者用立体駐車場整備工事 | 平成21年3月実施 |
| ⑯ 女医ロッカー室整備工事 | 平成21年3月実施 |
| ⑰ 外来棟地下2階機械室内ガス吸収式冷温水発生器分解整備工事 | 平成21年3月実施 |

- | | | |
|---|--------------------------------|-----------|
| ⑱ | 新型インフルエンザ対策として、外来棟救急部隔離室設置工事 | 平成21年3月実施 |
| ⑲ | 医療用ガス設備年次整備工事 | 平成21年3月実施 |
| ⑳ | E棟病棟用UPSバッテリー取替工事 | 平成21年3月完了 |
| ㉑ | 中央棟冷温水ポンプの運転制御改善（エコノパイロット導入）工事 | 平成21年3月完了 |

6. 青戸病院

- | | | |
|---|-------------------------------------|--------------|
| ① | 別館1階血管撮影装置移設に伴う改修工事 | 平成20年5月完了 |
| ② | 第2別館3階救急部医師控室設置に伴う改修工事 | 平成20年6月完了 |
| ③ | 本館3・4階病棟各所空調設備増設工事（10室） | 平成20年5～10月完了 |
| ④ | 本館2階手術部各手術室HEPAフィルター他整備工事 | 平成21年3月完了 |
| ⑤ | 本館1階救急医師控室移設及び栄養部相談・術前指導室の移転に伴う付帯工事 | 平成21年3月完了 |

7. 第三病院

- | | | |
|---|------------------------------|------------|
| ① | 都道・市道拡幅に伴う立体駐車場設置他工事（H20年度分） | 平成21年3月完了 |
| ② | 本館ボイラー更新工事（第2期） | 平成21年3月完了 |
| ③ | 本館屋上外壁防水塗装工事（第2期） | 平成21年3月完了 |
| ④ | 6B病棟改修工事 | 平成20年12月完了 |
| ⑤ | 1C病棟系統冷温水発生機オーバーホール工事 | 平成20年5月完了 |
| ⑥ | 内科プレハブ跡地駐車場設置工事 | 平成20年6月完了 |
| ⑦ | 本館・中央棟他誘導灯取替工事 | 平成20年9月完了 |
| ⑧ | 白樺寮チラーユニット更新工事 | 平成20年11月完了 |
| ⑨ | 本館、中央棟病棟トイレ・浴室他ナースコール増設工事 | 平成21年1月完了 |
| ⑩ | 本館5号機（配膳用）エレベーター改修工事 | 平成21年1月完了 |
| ⑪ | 本館・手術棟エレベーター地震対策工事 | 平成21年2月完了 |
| ⑫ | 本館非常用発電機オーバーホール工事 | 平成21年3月完了 |
| ⑬ | 本館病室ファンコイル取替工事（第5期） | 平成21年3月完了 |
| ⑭ | 本館病室整備工事（第3期） | 平成21年3月完了 |
| ⑮ | 外来点滴センター拡張整備工事 | 平成21年3月完了 |
| ⑯ | MR・CT装置用非常電源工事 | 平成21年3月完了 |
| ⑰ | 歯科・形成外科外来受付窓口オープンカウンター化改修工事 | 平成21年3月完了 |

8. 柏病院

- | | | |
|---|---------------------|-----------|
| ① | 多目的会議室設置 | 平成20年5月完了 |
| ② | 認定看護師室整備 | 平成20年5月完了 |
| ③ | 外来化学療法室改修 | 平成20年5月完了 |
| ④ | 看護棟冷温水発生機更新 | 平成20年6月完了 |
| ⑤ | 5C病棟改修 | 平成20年6月完了 |
| ⑥ | 焼却炉解体整備 | 平成20年8月完了 |
| ⑦ | CCU病棟改修 | 平成20年9月完了 |
| ⑧ | ICU病棟改修 | 平成21年2月完了 |
| ⑨ | 手術部記録撮影室ホルマリン対策 | 平成21年2月完了 |
| ⑩ | 本館空調用膨張タンク更新 | 平成21年3月完了 |
| ⑪ | 病棟ファンコイル・フロアー空調設備更新 | 平成21年3月完了 |
| ⑫ | 空調設備用ポンプ類インバーター導入 | 平成21年3月完了 |
| ⑬ | 病棟便所・浴室系統排気設備更新 | 平成21年3月完了 |
| ⑭ | 上水・雑用水高架水槽配管補修 | 平成21年3月完了 |

6. 平成20年度決算

1. はじめに

平成20年度は、医療収入が増加した一方で、固定費の減少が図れたため、帰属収支差額（収益）は予算を上回る結果となりました。

2. 消費収支計算書

収入の部では、医療収入が714億円で前年比19億円増加しました。

これは、手術件数が増加したことと、分院のDPCによる効果が大きかったことも一因です。これにより帰属収入の合計は816億円で、前年比12億円増加しました。

支出の部は、人件費が350億円で前年比－1億円でしたが、これは委託費化が進んだものです。医療経費が256億円で前年比7億円増加しました。これにより消費支出の合計は789億円で、前年比10億円増加しました。

この結果、帰属収支差額（収益）は26億円となりました。

3. 資金収支計算書

資金収支計算書では、前年より繰り越した資金が334億円ありましたが、次年度への繰越金は338億円となり、繰越資金は4億円増加しました。

4. 貸借対照表

資産の部では、有形固定資産は減価償却が進み16億円減少しました。その他に有価証券10億円と青戸病院建築引当特定資産12億円を積上げました。流動資産は、現金預金が4億円、未収入金が4億円それぞれ増加しました。

負債の部では、固定負債は長期借入金を11億円返済しました。流動負債は施設拡充費の改定に伴う前受金の減少がありました。

基本金の部は、当年度基本金組入額が25億円で、基本金の部の合計額は1,005億円となりました。

5. 慈恵大学では、青戸病院に次ぐ将来構想に備えて内部留保に努めて参ります。

- (1) 西新橋地区整備事業のための内部留保（本院外来棟建設他）
- (2) コンプライアンスのための内部留保（ホルマリン対策等）
- (3) 安全な医療提供のための内部留保（医療機器の整備・配置）
- (4) 経済の低迷から、受診抑制による収益の減少に備える
- (5) 新型インフルエンザ等、患者受入れ体制の整備

世界的規模の経済の低迷期です。慈恵大学の持続的且つ安定的な経営を図っていくために、収益が確保でき余裕のあるときこそ内部留保に努め将来に備えて参ります。

6. 決算書開示方法について

- (1) 平成16年度の私立学校法の改正に伴い、本学の事業報告書、法人誌「The JIKEI」、インターネットのホームページでの決算報告は、文部科学省への届出フォームで表示しております。
- (2) 貸借対照表における未収入金は、徴収不能引当金255,002,271円を控除して表記しております。

以上

平成20年度決算書

1) 平成20年度資金収支計算書

自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
人 件 費 支 出	34,952,592,859	学 生 生 徒 納 付 金 収 入	2,813,680,000
教 育 研 究 経 費 支 出	35,677,625,653	手 数 料 収 入	174,266,300
教 育 研 究 費 支 出	11,394,203,495	寄 付 金 収 入	1,006,856,546
医 療 経 費 支 出	24,283,422,158	補 助 金 収 入	3,823,318,178
管 理 経 費 支 出	2,912,602,600	資 産 運 用 収 入	265,006,744
		資 産 売 却 収 入	238,484,600
		事 業 収 入	72,016,333,587
借 入 金 支 払 利 息 支 出	339,704,833	医 療 収 入	71,455,365,702
借 入 金 返 済 支 出	3,049,600,000	雑 収 入	1,045,720,854
施 設 関 係 支 出	1,573,379,474	借 入 金 収 入	1,900,000,000
設 備 関 係 支 出	1,446,103,297	前 受 金 収 入	561,790,645
資 産 運 用 支 出	4,228,000,000	そ の 他 の 収 入	14,639,684,032
そ の 他 支 出	11,759,390,301		
資 金 支 出 調 整 勘 定	-11,287,675,256	資 金 収 入 調 整 勘 定	-13,395,888,915
期 末 未 払 金	-11,192,324,546	期 末 未 収 入 金	-12,650,028,270
長 期 未 払 金	-95,350,710	前 期 末 前 受 金	-745,860,645
次 年 度 繰 越 支 払 資 金	33,875,696,813	前 年 度 繰 越 支 払 資 金	33,437,768,003
支 出 の 部 合 計	118,527,020,574	収 入 の 部 合 計	118,527,020,574

平成21年6月文部科学省へ提出

2) 平成20年度消費収支計算書

自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月 31日

(単位：円)

消費支出の部		消費収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費	35,025,941,891	学生生徒納付金	2,813,680,000
教育研究経費	39,978,508,638	手数料	174,266,300
教育研究経費	14,361,451,003	寄付金	1,040,016,971
医療経費	25,617,057,635	補助金	3,823,318,178
管理経費	3,311,577,899	国庫補助金	3,668,123,000
借入金利息	339,704,833	資産運用収入	265,006,744
資産処分差額	10,511,751	資産売却差額	238,394,504
徴収不能額	47,077,565	事業収入	72,016,333,587
徴収不能引当金繰入額	255,002,271	医療収入	71,455,365,702
		雑収入	1,280,692,431
		(うち徴収不能引当金戻入額)	(234,971,577)
合計	78,968,324,848	合計	81,651,708,715
消費支出の部合計	78,968,324,848	帰属収入の部合計	81,651,708,715
消費収入超過額	159,357,390	基本金組入額合計	-2,524,026,477
合計	79,127,682,238	合計	79,127,682,238

平成21年 6月文部科学省へ提出

3) 平成20年度貸借対照表
平成21年3月31日現在

(単位：円)

資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 資 産	96,854,434,716	96,261,688,431	592,746,285
有 形 固 定 資 産	87,715,467,896	89,373,284,831	-1,657,816,935
土 地	6,331,139,571	6,331,229,667	-90,096
建 物	66,972,456,181	68,065,167,199	-1,092,711,018
構 築 物	256,333,330	261,446,668	-5,113,338
教育研究用機器備品	8,162,335,304	8,674,886,871	-512,551,567
その他の機器備品	2,477,980,283	3,059,986,675	-582,006,392
図 書	2,714,375,231	2,653,785,568	60,589,663
車 輜	1,852,901	472,150	1,380,751
建設仮勘定	775,833,187	303,148,125	472,685,062
放射性同位元素	23,161,908	23,161,908	0
その他の固定資産	9,138,966,820	6,888,403,600	2,250,563,220
差入保証金	358,403,600	358,403,600	0
有 価 証 券	3,552,563,220	2,530,000,000	1,022,563,220
退職給与引当特定預金	1,600,000,000	1,600,000,000	0
青戸病院建築引当特定資金	3,628,000,000	2,400,000,000	1,228,000,000
流 動 資 産	46,913,302,337	46,023,641,417	889,660,920
現 金 預 金	33,875,696,813	33,437,768,003	437,928,810
未 収 入 金	12,582,920,011	12,139,924,495	442,995,516
貯 蔵 品	74,933,795	67,929,669	7,004,126
短期貸付金	303,102,156	274,437,582	28,664,574
有 価 証 券	0	22,563,220	-22,563,220
仮 払 金	76,649,562	81,018,448	-4,368,886
合 計	143,767,737,053	142,285,329,848	1,482,407,205
負 債 の 部			
固 定 負 債	30,034,257,260	31,157,366,158	-1,123,108,898
長 期 借 入 金	13,081,700,000	14,231,300,000	-1,149,600,000
退職給与引当金	16,712,176,962	16,638,827,930	73,349,032
長期未払金	95,350,710	142,208,640	-46,857,930
保 証 金	145,029,588	145,029,588	0
流 動 負 債	13,209,036,936	13,286,904,700	-77,867,764
短期借入金	1,149,600,000	1,149,600,000	0
未 払 金	11,237,111,287	11,132,189,535	104,921,752
前 受 金	561,790,645	745,860,645	-184,070,000
預 り 金	258,895,004	257,654,520	1,240,484
保 証 金	1,640,000	1,600,000	40,000
基 本 金 の 部	100,524,442,857	97,841,058,990	2,683,383,867
基 本 金	142,228,308,311	139,704,281,834	2,524,026,477
第 1 号 基 本 金	132,356,290,797	131,301,722,237	1,054,568,560
第 2 号 基 本 金	3,628,000,000	2,400,000,000	1,228,000,000
第 4 号 基 本 金	6,244,017,514	6,002,559,597	241,457,917
翌年度繰越消費支出超過額	-41,703,865,454	-41,863,222,844	159,357,390
平成20年度消費支出準備金	0	0	0
合 計	143,767,737,053	142,285,329,848	1,482,407,205

平成21年6月文部科学省へ提出

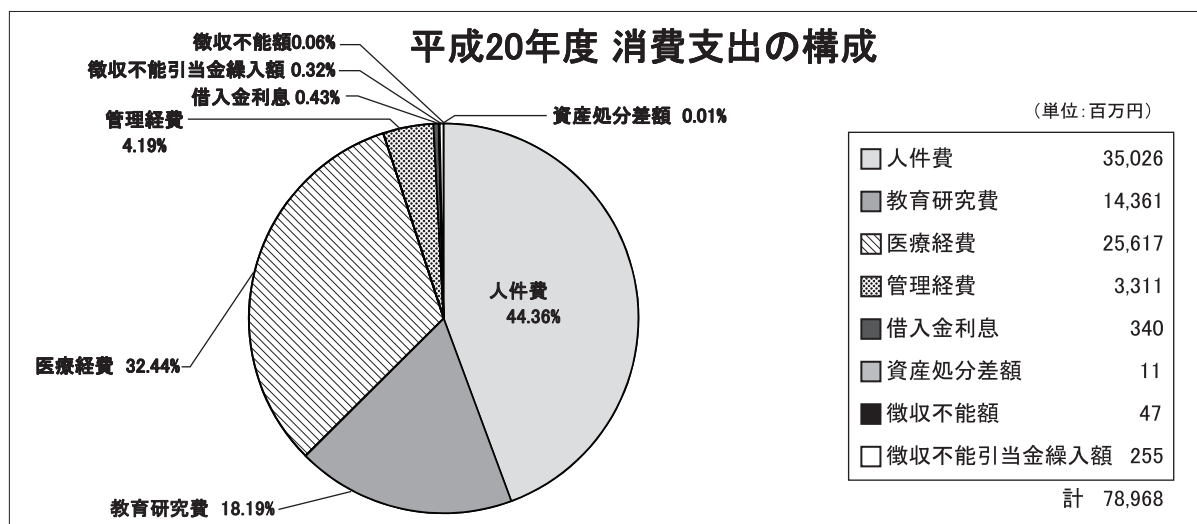
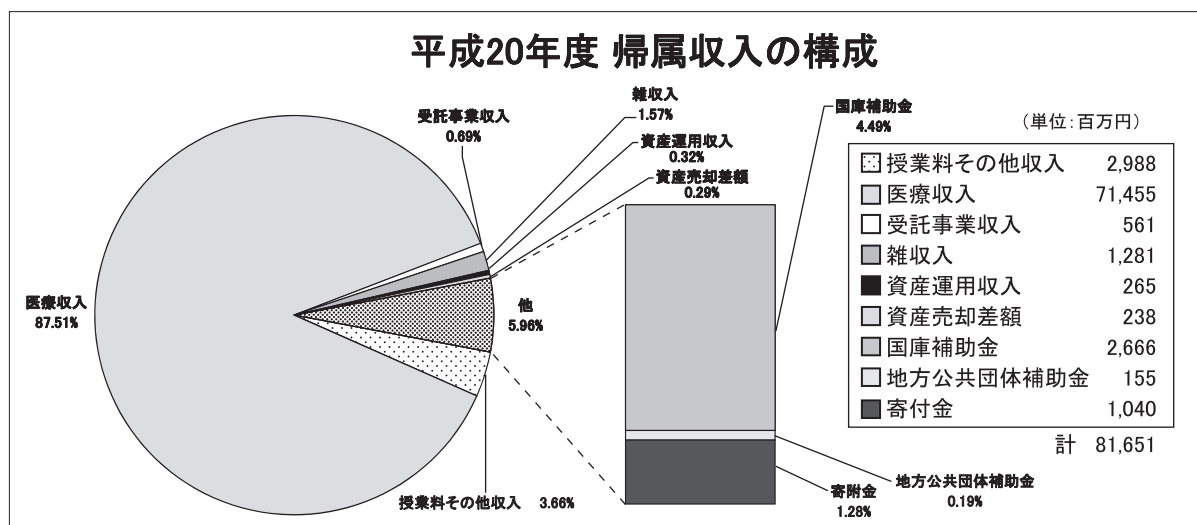
* 徴収不能引当金¥255,002,271円は未収入金から控除されています。

4) 主要な財務指標の推移

区 分	平成 15年度	平成 16年度	平成 17年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 20年度
消費収支関係財務比率 (単位：%)						
①消費支出比率 (消費支出／帰属収入)	97.1%	101.7%	98.6%	97.2%	96.9%	96.7%
②学生生徒等納付金比率 (学生生徒等納付金／帰属収入)	3.4%	3.6%	3.6%	3.5%	3.4%	3.4%
③寄付金比率 (寄付金／帰属収入)	1.2%	2.0%	1.2%	1.7%	1.3%	1.3%
④補助金比率 (補助金／帰属収入)	5.9%	5.9%	5.5%	4.7%	4.7%	4.7%
⑤医療収入比率 (医療収入／帰属収入)	86.5%	85.8%	86.8%	87.0%	86.4%	87.5%
⑥人件費比率 (人件費／帰属収入)	45.3%	47.1%	44.9%	45.1%	43.7%	42.9%
⑦教育研究経費比率 (教育研究経費／帰属収入)	47.7%	48.9%	49.2%	47.6%	48.1%	49.0%
⑧帰属収支差額比率 (100%－消費支出比率)	2.9%	－1.7%	1.4%	2.8%	3.1%	3.3%
貸借対照表関係財務比率 (単位：%)						
①流動比率 (流動資産／流動負債)	311.5%	334.1%	336.0%	341.8%	346.4%	355.2%
②固定比率 (固定資産／自己資金)	108.2%	106.5%	103.2%	101.4%	98.4%	96.3%
③固定長期適合率 (固定資産／(自己資金+固定負債))	78.0%	77.2%	76.0%	75.6%	74.6%	74.2%
④負債比率 (総負債／自己資金)	53.2%	51.4%	49.7%	47.6%	45.4%	43.0%
⑤自己資金比率 (自己資金／総資産)	65.3%	66.1%	66.8%	67.8%	68.8%	69.9%

* 自己資金 = 基本金 + 消費収支差額

平成21年6月文部科学省報告



財 産 目 録

平成 21 年 3 月 31 日

学校法人 慈恵大学

科 目	数 量	金 額(円)
一、基本財産		96,854,434,716
1. 土地	153,491.77㎡	6,331,139,571
(1)校地	55,338.48㎡	1,262,224,051
(2)その他	98,153.29㎡	5,068,915,520
2. 建物	286,961.21㎡	66,972,456,181
(1)法人本部	4,813.62㎡	1,009,618,524
(2)一般校舎	72,210.06㎡	15,351,807,644
(3)図書館	3,882.20㎡	125,417,845
(4)講堂	1,168.99㎡	116,502,936
(5)その他	204,886.34㎡	50,369,109,232
3. 図書	333,569冊	2,714,375,231
4. 教具、校具、備品	7,795件	10,640,315,587
5. 有価証券		3,552,563,220
6. その他		6,643,584,926
二、運用財産		46,913,302,337
1. 現金、預金		33,875,696,813
2. 未収入金		12,582,920,011
3. その他		454,685,513
資産の部合計		143,767,737,053
三、固定負債		30,034,257,260
1. 長期借入金		13,081,700,000
2. 退職給与引当金		16,712,176,962
3. 長期未払金		95,350,710
4. 保証金		145,029,588
四、流動負債		13,209,036,936
1. 短期借入金		1,149,600,000
2. 未払金		11,237,111,287
3. 前受金		561,790,645
4. その他		260,535,004
負債の部合計		43,243,294,196
純 資 産		100,524,442,857

上記の通り相違ありません。

平成21年 5月 28日

監 事 濱 邦 久



監 事 岡 島 進 一 郎




監 査 報 告 書

平成 21 年 5 月 28 日

学校法人 慈恵大学
理事長 栗原 敏 殿

学校法人 慈恵大学

監事

濱 邦久 

監事

岡島 進一郎 

私たち学校法人慈恵大学の監事は、私立学校法第 37 条第 3 項及び寄附行為第 15 条の定めに基づき、平成 20 年度（平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで）の財産状況、及び理事の業務の執行を監査いたしました。その結果について以下の通り報告いたします。

1. 監査方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査を実施し、計算書類の正確性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及び評議員会に出席して理事から業務の報告を聴取し、また、関係書類の閲覧など、必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査の結果

- (1) 資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表並びに財産目録は、会計帳簿の記載と合致し、学校法人慈恵大学の平成 21 年 3 月 31 日現在の財政状態、及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めます。
- (2) 理事の業務執行に関しては、不正の行為または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実は認められません。

以 上

7. 関連当事者等との取引等の状況

関連当事者との取引の内容は、次の通りである。

(単位：円)

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員兼任等	事業上の関係				
関係法人	(株)東京慈恵会 (注1)	東京都港区	—	看護師養成事業、 医学研究事業	—	4名	卒業生の大半を大学の附属病院に受け入れている	会費の支払 (注2)	133,515,161	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 当学校法人の役員及び教員が(株)東京慈恵会の役員の過半数を占めている。

(注2) (株)東京慈恵会への会費の支払については、同法人の財政状況等を勘案し金額を決定している。

以上

8. 学校法人慈恵大学の体制（平21. 4. 1.）

1) 学校法人慈恵大学

① 役員概要	定員数	理事	15人以上16人以内	現員数	16人
		監事	2人以上3人以内	現員数	2人
		顧問	3人以上7人以内	現員数	5人
理事	長	栗原 敏			
専務理事	事	高木 敬三			
常務理事	事	梅澤 祐二、谷口 郁夫			
理事	事	森山 寛、伊藤 洋、坂井 春男、久保 政勝			
		落合 和徳、田嶋 尚子、橋本 和弘、小路美喜子、高橋実貴雄			
		足立 信一、原 貞夫、前田 新造			
監事	事	濱 邦久、岡島進一郎			
顧問	問	阿部 正和、岡村 哲夫、小森 亮、佐々木正峰、真野 章			

② 評議員の概要 評議員の定員は40人以上 42人以内であり、現員数は42人である。

評議員会議長	渡邊 盛雄
評議員	栗原 敏、森山 寛、伊藤 洋、坂井 春男、久保 政勝
	田嶋 尚子、橋本 和弘、落合 和徳、谷口 郁夫、上出 良一
	谷 諭、徳留 悟朗、高木 敬三、寺坂 治、池上 雅博
	大野 裕治、奥山 則子、蝦名 總子、加藤 一人、高橋実貴雄
	今出 進章、柳澤美津代、横山 秀彦、高橋 則子、秋元 文夫
	大水美名子、阿部 郁朗、足立 信一、原 貞夫、霜 礼次郎
	篠原 健、今井 健郎、須田 健夫、佐藤 俊介、村岡 伸一
	赤羽 清彬、高木 公寛、米津 等史、飛鳥田一朗、丸山 浩一
	梅澤 祐二

2) 東京慈恵会医科大学

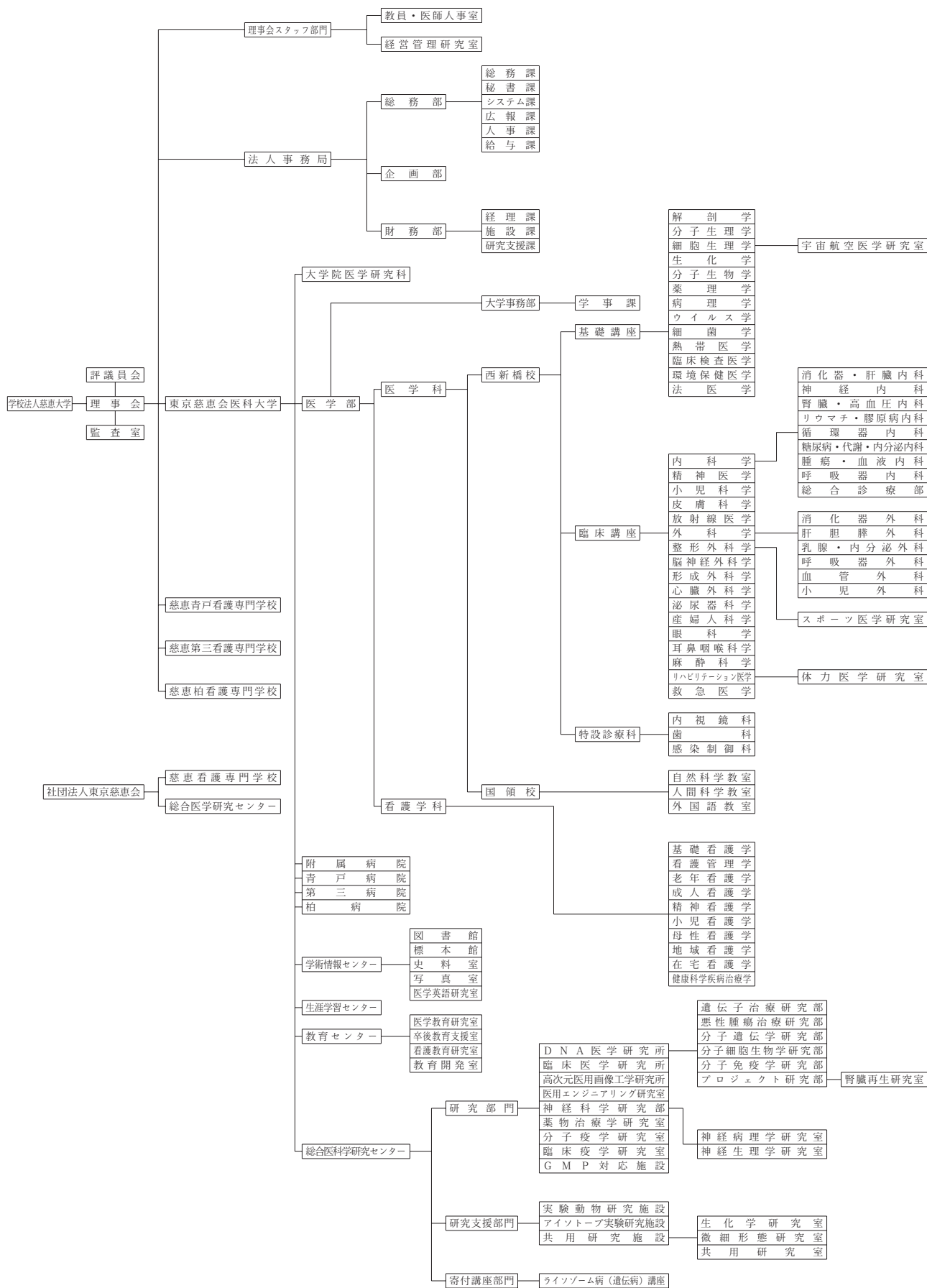
学 長	栗原 敏
医 学 科 長	田嶋 尚子
看 護 学 科 長	藤村 龍子
大学院医学研究科長	栗原 敏
附 属 病 院 長	森山 寛
副院長	橋本 和弘、落合 和徳、谷口 郁夫 大水美名子
青 戸 病 院 長	伊藤 洋
副院長	吉田 和彦、蔵田 英明
第 三 病 院 長	坂井 春男
副院長	伊藤 文之、根津 武彦、中村 敬
柏 病 院 長	久保 政勝
副院長	小林 進、清水 光行、岸本 幸一
学術情報センター長	兼平 千裕
生涯学習センター長	阿部 俊昭
教育センター長	福島 統
総合医科学研究センター長	栗原 敏

3) 看護専門学校

慈恵青戸看護専門学校長	武田 信彬
慈恵第三看護専門学校長	横山 淳一
慈恵柏看護専門学校長	佐々木 敬
[慈恵看護専門学校長]	川村 将弘

9. 学校法人慈恵大学組織図

(平成21年 4月 1日現在)



10. 理事会

定例理事会の開催状況（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

議 事	内 容
<p>平成20年4月24日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 附属病院副院長の選任について</p> <p>2) 教員人事</p> <p>3) 学術論文に係る処分について</p> <p>4) 大学院学則の改訂について</p> <p>5) 医師の短時間勤務に関する規程案</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成20年度事業計画（案）</p> <p>(2) 平成20年度俸給表</p> <p>(3) 学校法人慈恵大学組織図</p> <p>(4) 幹部職員一覧</p> <p>(5) 新入職員数報告</p> <p>(6) 看護職員採用状況及び看護学科、看護専門学校卒業生の状況</p> <p>(7) 株式会社慈恵実業役員一覧</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 平成20年度初期臨床研修医採用の件</p> <p>(2) レジデントの採用状況</p> <p>(3) 富士市立中央病院新聞報道の件</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>(1) 評議員会の開催予定について 日時：5月27日（火）午後3時～ 議題：平成19年度決算報告、その他</p>
<p>平成20年5月22日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 平成19年度決算</p> <p>3) 中期目標・計画及び平成20年度事業計画（案）</p> <p>4) 夏季賞与資金借入れについて</p> <p>5) 大学基準協会の相互評価受審について</p> <p>6) 医学科学納金について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成19年度事業報告</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>(1) 評議員会の開催予定について 日時：5月27日（火）午後3時～ 議題：平成19年度決算報告、その他</p>
<p>平成20年6月26日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 職員管理職人事（平成20年7月1日付け）</p> <p>3) 東京慈恵会医科大学学則改訂</p> <p>4) 慈恵青戸・第三・柏看護専門学校学則改訂</p> <p>5) 東京慈恵会医科大学医学部看護学科領域名の変更</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 5月評議員会報告</p> <p>(2) 労働組合との交渉結果について</p> <p>(3) 宮崎県穆佐小学校児童招待の件</p> <p>(4) 宮崎県特別大使受入れの件</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 白菊会連合会総会の開催について</p> <p>(2) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 富士市長からの要望書について</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 平成19年度事業報告書</p>

議 事	内 容
<p>平成20年 7月24日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 大学院医学研究科看護学専攻修士課程の学納金について</p> <p>3) 大学院医学研究科看護学専攻修士課程の教員規程について</p> <p>(1) 専任教授に関する規程(案)</p> <p>(2) 特任教授に関する規程(案)</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 第125回成医会総会プログラムについて</p> <p>(2) DDS 研究所について</p> <p>(3) 学事報告</p>	<p>(4) 大学ガイド2009・大学院ガイド2009</p> <p>(5) 大学院医学研究科看護学専攻修士課程募集案内</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 4 病院長会議報告</p> <p>(2) 青戸・第三・柏病院の医事会計システム更新とDPC導入について</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p>
<p>平成20年 9月25日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 青戸病院副院長・柏病院副院長の任命について</p> <p>3) 職員管理職人事(平成20年10月1日付け)</p> <p>4) 看護学専攻修士課程専任教授任命について</p> <p>5) 看護学専攻修士課程特任教授任命について</p> <p>6) 医学科入学定員の増員について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p>
<p>平成20年10月23日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 学長選任等規則・附属病院長選任等規則の改定について</p> <p>3) 寄付講座に関する規程の改定について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 税務に関するガイダンスの改定について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 平成21年度初期臨床研修医マッチング結果について</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p>

議 事	内 容
<p>平成20年11月27日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 社団法人東京慈恵会 慈恵看護専門学校校長の推薦について</p> <p>3) 賞与資金借入れについて</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 大学の資産運用について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 平成21年度初期臨床研修医について</p> <p>(2) 平成21年度レジデントについて</p> <p>(3) 中央棟屋上の看板設置について</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) ロンドン日本クラブ診療所の件</p> <p>2) 富士市立中央病院産婦人科の件</p>
<p>平成20年12月25日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 大学院医学研究科看護学専攻修士課程専攻長の任命について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成20年度予算執行状況について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 評議員会の日程について</p> <p>(1) 平成21年3月10日（火）午後3時 平成21年度予算（案）、学長・附属病院長選任等規則の改定 他</p> <p>(2) 平成21年5月29日（金）午後3時 平成20年度決算、平成20年度事業報告 他</p>
<p>平成21年1月22日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 職員管理職人事（平成21年4月1日付け）</p> <p>3) 慈恵柏看護専門学校校長選任について</p> <p>4) 職員の懲戒について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 株式会社慈恵実業 第34期決算報告</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 成医会例会案内</p> <p>2) 平成21年度理事会開催日程</p>

議 事	内 容
<p>平成21年 2月26日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 平成21年度予算(案)について</p> <p>2) 教員人事</p> <p>3) 職員管理職人事(平成21年4月1日付け)</p> <p>4) 平成21年度基礎系講座定員について</p> <p>5) 平成21年度附属4病院診療部・中央診療部定数表</p> <p>6) 東京慈恵会医科大学学位規則の改定について</p> <p>7) 第三病院道路拡幅の件</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 広報アドバイザー契約の締結について</p> <p>(2) 関連当事者との取引の調査依頼の件</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 今後のスケジュール(予定)</p> <p>(1) 評議員会 3月10日(火) 平成21年度予算(案)他</p> <p>(2) 評議員会 5月29日(金) 平成20年度決算 他</p>
<p>平成21年 3月26日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 平成21年度事業計画(案)について</p> <p>2) 平成21年度予算(案)について</p> <p>3) 第2号基本金の組み入れと特定預金の積み上げ</p> <p>4) 教員人事</p> <p>5) 青戸病院リニューアルの件</p> <p>6) 学校法人慈恵大学顧問の委嘱について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成20年度中に制定・改定された規程について</p> <p>(2) 第三病院道路拡幅に伴う契約締結について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 今後のスケジュール(予定)</p> <p>(1) 評議員会 5月29日(金) 平成20年度決算報告 他</p> <p>2) 配布資料</p> <p>(1) 教育・研究年報(2007)</p> <p>(2) Research Activities(2007)</p>

11. 評議員会

評議員会の開催状況（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

議 事	内 容
<p>平成20年5月27日</p> <p>1. 諮問事項</p> <p>1) 平成19年度決算</p> <p>2) 平成19年度監査報告</p> <p>3) 平成19年度事業報告</p> <p>4) 中期目標・計画及び平成20年度事業計画（案）</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 学事報告</p> <p>2) 平成19年度中に制定・改定・廃止となった規程類の件</p>	<p>3. その他</p>
<p>平成21年3月10日</p> <p>1. 諮問事項</p> <p>1) 平成21年度事業計画の件</p> <p>2) 平成21年度予算の件</p> <p>3) 学長選任等規則・附属病院長選任等規則の改定について</p> <p>4) 第三病院道路拡幅の件</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 学事報告</p> <p>2) 青戸病院リニューアルの件</p>	<p>3) 本院外来棟建築計画について</p> <p>4) 創立130年記念事業について</p> <p>5) その他</p> <p>(1) 次回評議員会の開催について 日時：5月29日（金）午後3時～ 場所：B会議室 議題：平成20年度決算報告、その他</p> <p>3. その他</p>

12. 監査室

平成20年度は公的補助金を中心に内部監査を実施した。公的補助金以外に実施した内部監査は、「薬品の在庫管理状況」、「事務業務分掌規程の内容及び業務手順書の整備状況」、「固定資産管理状況監査の改善要請事項に係る改善状況確認」であった。

1. 平成20年度に実施した内部監査

- 1) 薬品の在庫管理状況
- 2) 平成19年度分私立大学等経常費補助金〔一般補助・特別補助〕
- 3) 平成19年度分文部科学省科学研究費補助金
- 4) 平成19年度分厚生労働科学研究費等補助金
- 5) 平成19年度分地方公共団体等補助金
- 6) 事務業務分掌規程の内容及び業務手順書の整備状況
- 7) 固定資産管理状況監査の改善要請事項に係る改善状況確認

2. 監事並びに監査法人との意見交換

- 1) 監事への内部監査報告 2回（平成20年4月・11月）
- 2) 監査法人への内部監査報告 1回（平成21年1月）

Ⅱ. 東京慈恵会医科大学

1. 教授、その他の人事（平成20年4月～平成21年3月）

1) 平成21年3月31日付退任教授

氏名	旧担当	現在
梅澤 祐二	耳鼻咽喉科学	常務理事
安田 允	産婦人科学	客員教授を任命する（独立行政法人国立病院機構 災害医療センター産婦人科顧問在任中）
笠原 洋勇	精神医学	客員教授を任命する（北柏リハビリ総合病院老健 施設長在任中）
鈴木 暁之	人間科学教室 数学研究室	

2) 新任教授

氏名	担当	就任年月日	経歴	備考
岡野 孝	自然科学教室 (化学研究室)	平20.4.1	昭和54年 名古屋大卒	
谷 諭	脳神経外科学	平20.6.1	昭和54年 本学卒	脳神経外科学 准教授より
山田 尚	DNA 医学研 究 所	平20.7.1	昭和52年 本学卒	DNA 医学研究所 准教授より
内田 満	形成外科学	平20.8.1	昭和56年 本学卒	形成外科学 定員外教授より
柏木 秀幸	外科学	平20.8.1	昭和53年 本学卒	外科学 准教授より
榎山 俊彦	薬理学	平20.9.1	昭和63年 京都大卒	
大草 敏史	内科学	平20.10.1	昭和53年 東京医科歯科大卒	内科学 准教授より
和田 高士	総合健診・予 防医学センター	平20.12.1	昭和56年 本学卒	内科学 准教授より
大野 岩男	内科学	平21.2.1	昭和54年 本学卒	内科学 准教授より
近江 禎子	麻酔科学	平21.2.1	昭和56年 日本医大卒	麻酔科学 准教授より
福永 眞治	病理学	平21.3.1	昭和50年 本学卒	病理学 准教授より
東條 克能	内科学	平21.3.1	昭和55年 本学卒	内科学 准教授より
宇都宮 一典	内科学	平21.3.1	昭和54年 本学卒	内科学 准教授より

3) 新任客員教授

氏 名	所 属	就任年月日	備 考
豊 永 義 清		平20. 6. 1	社保診療報酬支払基金特別審査会
佐 藤 讓 二	精 神 医 学	平20. 6. 1	復光会総武病院
徳 留 悟 朗	内 科 学	平20.12. 1	東急病院
川 村 統 勇	内 視 鏡 科	平21. 1. 1	

4) 特任教授

氏 名	所 属	就任年月日	備 考
橋 本 尚 詞	解 剖 学	平20. 6. 1	特任期間：平成20年 6 月 1 日～ 平成23年 5 月31日
衛 藤 義 勝	寄 付 講 座	平20.11. 1	特任期間：平成20年11月 1 日～ 平成22年 3 月31日
穴 澤 貞 夫	看 護 学 科	平20. 4. 1	特任期間：平成20年 4 月 1 日～ 平成21年 3 月31日

5) 叙位・叙勲

平成20年度の叙勲受章者はなし

平成20年度の死亡叙位

平成20年 4 月 8 日 従五位 上田 泰 名誉教授

平成20年 5 月 7 日 正五位 水島 裕 客員教授

平成20年 7 月23日 従五位 松本武四郎 客員教授

6) 計 報

上 田 泰	名誉教授	平成20年 4 月 8 日	逝去
水 島 裕	客員教授	平成20年 5 月 7 日	逝去
松 本 武四郎	客員教授	平成20年 7 月23日	逝去
寺 島 芳 輝	客員教授	平成20年 8 月25日	逝去
北 原 健 二	名誉教授	平成20年10月28日	逝去
松 井 道 彦	元専務理事	平成21年 3 月23日	逝去

2. 教職員数

1) 教員数 平成21年4月1日現在

① 医学科

専任教員	1,127名	その他教員	1,167名
(内訳) 本学を本務とする者	1,097名	(内訳) 本学を本務とする者	233名
日本クラブ診療所派遣中	2名	関連病院派遣中	529名
留学中	19名	留学中	38名
休職中	8名	休職中	35名
定年嘱託教員	1名	上記以外(名誉・客員教授・講師 (非常勤))	332名

② 看護学科

専任教員	31名	その他教員	19名
------	-----	-------	-----

2) 初期臨床研修医数(平成21年4月現在)

1年	本院	42名	2年	本院	38名
	〃 歯科	2名		〃 歯科	2名
	青戸病院	7名		青戸病院	7名
	第三病院	19名		第三病院	24名
	柏病院	14名		柏病院	23名
	合計	84名		合計	94名
				総合計	178名

3) 職員数(看護師を含む)(平成21年4月現在)

大学	*	233名
本院	**	1,582名
青戸病院	***	552名
第三病院	***	807名
柏病院	***	861名
計		4,035名
常勤職員のみ(長期非稼働者を除く)		
*	法人事務局、医学科国領校、看護学科、慈恵看護専門学校を含む。	
**	晴海トリトニックを含む。	
***	それぞれ看護専門学校を含む。	

4) 看護師数(平成21年4月1日現在)

	正 看	准 看	その他*	計
本院	1,019名	1名	73名	1,093名
青戸病院	347名	5名	39名	391名
第三病院	526名	1名	38名	565名
柏病院	567名	0名	65名	632名
計	2,459名	7名	215名	2,681名

* 事務員(看護部所属)、看護補助員、診療補助員、保育士

3. 教 育

1) 医学部医学科学生数など（平成21年4月現在）

(1) 学生数および各学年担当教学委員

学年	人員	内 訳		学年担当教学委員	学 生 保 健 指 導 委 員 会
		男	女		
1	105	71	34	福山 隆夫 教授	委員長 福田 国彦 教授 副委員長 竹田 宏 講師
2	114	90	24	大川 清 教授	委員 錢谷 幹男 教授（総合健診・予防医学センター） 齋藤 義弘 講師（小児科）
3	94	74	20	柳澤 裕之 教授	吉田 正樹 講師（感染制御部） 小此木英男 助教（1年担当・内科）
4	104	84	20	小川 武希 教授	三枝 裕和 助教（"・放射線） 中村 敬 教授（"・精神） 川井 真 講師（2年担当・内科）
5	97	60	37	阿部 俊昭 教授	横田 邦信 准教授（3年担当・内科） 原 弘道 助教（4年担当・内科）
6	104	70	34	吉村 道博 教授	上竹慎一郎 助教（5年担当・内科） 宇都宮保典 准教授（6年担当・内科）
計	618	449	169		中山 和彦 教授（2～6年担当・精神）

（国領校：105名 西新橋校：513名）

(2) 教学委員長 学生部長

大学事務部長

• 教学委員長	田嶋 尚子 教授
• 副教学委員長	渡邊 直熙 教授
"	寺坂 治 教授
• 学生部長	中川 秀己 教授
• 副学生部長	羽野 寛 教授
"	福山 隆夫 教授
• 大学事務部長	高橋実貴雄

2) 医学部看護学科学生数など（平成21年4月現在）

(1) 学生数および学年担当委員など

学年	人員	内 訳		学 年 担 当 委 員 等
		男	女	
1	42	1	41	委員 伊藤 文之 教授（保健指導担当）
2	41	1	40	" 菊池麻由美 講師（1年担当）
3	43	1	42	" 長 佳代 准教授（2年担当）
4	35	0	35	" 伊達久美子 准教授（3年担当）
計	161	3	158	" 濱中 喜代 教授（4年担当）

(2) 教学委員長・学生部長・学事課長

・教学委員長	奥山 則子	教授
・学生部長	茅島 江子	教授
・学事課係長	深澤 博臣	

3) 大学院学生数（医学系専攻博士課程）（平成21年4月現在）

学年	人員	内 訳		大 学 院 委 員 会				
		男	女	委 員 長	学長	委 員	教授	教授
1	21	18	3	栗原 敏	阿部 俊昭	馬詰 良樹	教授	教授
2	27	15	10	渡邊 直熙	細谷 龍男	松藤 千弥	教授	教授
3	20	18	5	矢永 勝彦	中川 秀己	オプザーバー	教授	教授
4	19	20	4	高木 敬三	山田 尚		専務理事	教授
計	87	65	22					

4) 大学院学生数（看護学専攻修士課程）（平成21年4月現在）－平成21年4月開設

学年	人員	内 訳		大 学 院 委 員 会 （ 修 士 課 程 ）				
		男	女	委 員 長	専攻長	委 員	教授	教授
1	12	0	12	菊地登喜子	櫻井 尚子	柿川 房子	教授	教授
2	—	—	—	藤村 龍子	茅島 江子		教授	教授
計	12	0	12					

5) 大学および大学院など

(1) 医 学 科

I. 教学関係

1. 教学委員会

平成20年度医学科教学委員会は国領校選出委員2名および西新橋校選出委員15名の計17名で運営された。委員会は毎月2回定例で開催された。平成20年度の各教学委員の役割分担は以下の通りである。

医学科教学委員会：田嶋尚子（教学委員長）、渡邊直熙（副教学委員長）、寺坂治（副教学委員長）、中川秀己（学生部長、学生担当委員長）、羽野寛（副学生部長、学生担当副委員長）、福山隆夫（副学生部長、学生担当副委員長、1学年担当）、大川清（教育施設委員長、教育予算担当、2学年担当）、木村直史（試験委員長）、福島統、松藤千弥（カリキュラム委員長、カリキュラム自己点検・評価委員長）、柳澤裕之（3学年担当）、阿部俊昭（5学年担当）、小川武希（4学年担当）、川村哲也（臨床実習教育委員長）、中山和彦（学生相談室委員長）、福田国彦（学生保健指導委員長）、吉村道博（6学年担当）

2. 平成20年度医学科の進級、卒業者

1年：進級	102人	留年	0人	退学	1人
2年： "	91人	"	12人		
3年： "	96人	"	3人		
4年： "	96人	"	8人		
5年： "	104人	"	1人	退学	1人
6年：卒業	102人	"	0人		

以上の結果、平成21年度の学生数は1年－105人、2年－114人、3年－94人、4年－104人、5年－97人、6年－104人、合計618人

3. カリキュラムの改訂と経過

1年次のコース医学総論Ⅰにユニット「医療総論演習」および「Early Clinical Exposure Ⅱ」を新設した。2年次のコース臨床疫学Ⅱをコース医療情報・EBMⅡに改称した。3年次コース臨床基礎医学Ⅰにユニット「病態と薬物」および「和漢薬概論」を新設し、「感染と生体防御・免疫」をコース臨床基礎医学Ⅱから移設した。4年次のコース臨床医学Ⅰでユニット「放射線医学」を「画像診断学」に改称した。また「臨床腫瘍学」および「臨床検査医学」を新設した。

さらに「診断系実習」、「治療系実習」、「検査系実習」を「診断系・治療系・検査系実習」とした。コース臨床疫学Ⅳのユニット「Evidence-based medicine」は「Evidence-based clinical practice」とした。5年次のコース臨床医学Ⅱにユニット「外来実習」を新設、また小児科、整形外科、家庭医、救急の実習期間を延長し、コース全体として36週から40週に拡張した。

6年次コース臨床医学Ⅲはユニット「救急医学」のみとした。5年次の臨床医学総合試験Ⅱは医学総括試験、6年次の臨床医学総合試験Ⅲは医学卒業総括試験とし試験方法を抜本的に改めた。

4. 教学委員と学生会委員との懇談会

例年同様に平成20年7月7日（月）、平成20年12月9日（火）に開催された。学生会からの主な報告は前年度活動報告、会計報告、平成20年度予算案、京都府立医科大学定期戦成績（6勝16敗）、第50回東日本医科学学生総合体育大会成績、慈恵祭の準備・報告、学生のアンケート調査結果等であった。また、設備の改善および医学卒業総括試験に関する要望があった。

5. 第41回～第44回 Faculty Development

平成20年4月以降の開催および修了証を授与された参加者数は以下の通りである。

第41回 Faculty Development

日 時：平成20年5月31日（土）
場 所：西新橋校
テーマ：試験問題作成
修了証受領者（27名）

第42回 Faculty Development

日 時：平成20年10月26日（日）
場 所：西新橋校
テーマ：家庭医実習
修了証受領者（家庭医実習指導医6名）

第43回 Faculty Development

日 時：平成20年11月1日（土）
場 所：西新橋校
テーマ：在宅ケア実習
修了証受領者（学外指導者16名）

第44回 Faculty Development

日 時：平成20年12月12日（金）
場 所：西新橋校
テーマ：OSCE 評価者トレーニング
修了証受領者（39名）

6. 第43回～第46回医学教育セミナー

以下のとおり開催された。

第43回医学教育セミナー

日 時：平成20年8月20日（水）

場 所：西新橋校

講 演：① 共用試験正式実施後の臨床実習教育
齋藤 宣彦 教授（日本医学教育学会長）

第44回医学教育セミナー

日 時：平成20年10月30日（木）

場 所：西新橋校

講 演：① 医療コミュニケーションと患者アウトカム
Debra Roter 教授（Johns Hopkins University, Bloomberg School of Public Health）
② 医療コミュニケーションの分析方法
Susan Larson 氏（Johns Hopkins University, Bloomberg School of Public Health RIAS 専任コーダー）

第45回医学教育セミナー

日 時：平成20年11月11日（火）

場 所：西新橋校

講 演：① 東京慈恵会医科大学 e-Learning の事例紹介
小松 一祐 氏（教育センター）
② 鏡視下手術機器セッティング教材の作成
村上 香織 氏（看護部）
③ 在宅緩和ケア e-Learning の実施について
柵山 年和 講師（腫瘍・血液内科）
④ IT を活用した医療者教育が拓く未来
Dr. David Byrne BSc PhD（Manager, Electronic Learning Resources & IT Services Unit Division of Medical Education, GKT School of Medicine KING's College London）

第46回医学教育セミナー

日 時：平成21年1月26日（月）

場 所：西新橋校

講 演：① 外来教育－診断推論の教え方とその課題
生坂 政臣 教授（千葉大学医学部附属病院総合診療部）

7. カリキュラム特別検討会（平成20年度開催なし）

8. その他の報告事項

1) 新入生オリエンテーション

平成20年4月5日（土）、12日（土）の両日、新1年生を対象にオリエンテーションが行われた。平成20年度は入学式が4月4日（金）となったためオリエンテーションの日程が隔週となった。初日は、学生生活についての諸注意、病院見学実習の説明、小論文作成等があり、2日目は学長より建学の精神と医学生としての心構えについての講話、カリキュラムの説明、健康管理の説明等があった。

2) 首都大学東京から学生の受入れ

首都大学東京との教育・研究交流協定書に基づき特別科目等履修生を受入れた。

平成20年度は国領校 7 名、西新橋校 4 名、合計11名の学生の単位を認定した。

- 3) 学祖の墓参および学長、教学委員と学生の懇親会
学長、教学委員、学生代表が平成20年10月11日（土）に青山墓地に眠る学祖高木兼寛先生の墓参をした。また学祖を偲んで千代田区一ツ橋の如水會館で懇親会を開催した。
- 4) 学生生活アドバイザー
担当教員はそれぞれ 2～3 名の学生を受持っている。1 年生は国領校教員および第三病院勤務教員、2 年生は西新橋校基礎講座教員が担当している。また、総括と意見交換のためにアドバイザーが集まって懇談会を開催した。
- 5) 共用試験システム
「臨床実習開始前の学生評価のための共用試験システム」が例年どおり運用された。OSCE は平成21年 1 月17日（土）に西新橋校大学 1 号館 8 階演習室で、CBT は平成21年 2 月 6 日（金）に西新橋校 4 階講堂で実施された。受験者数104名、欠席者なしであった。また CBT は 2 名の再試験を 2 月27日（金）に医療系大学間共用試験実施評価機構で実施した。
- 6) 4 大学学生教育交流会
本学と昭和大学、東邦大学、東京医科大学の 4 校が持ち回りで年 2 回の開催が続けられている。カリキュラム全般および臨床実習、卒業試験、医師国家試験、共用試験等に関する話題を中心に継続的な交流が図られている。平成20年度は戦略的大学連携支援事業に応募して採択され、事業を展開している。平成20年度の開催日および当番校は以下の通りであった。
第20回平成20年 5 月23日（金）昭和大学
第21回平成20年11月21日（金）東京慈恵会医科大学
- 7) 医学科大学説明会
平成21年度入学試験のための医学科大学説明会は平成20年 7 月26日（土）午後 1 時から中央講堂で開催され、受験生、父兄、進学指導担当教員等約300名の参加があった。なお、当日は大学 1 号館の講堂および実習室等の教育・施設の見学が行われた。
- 8) オープンキャンパス
平成20年度の医学科オープンキャンパスは 8 月30日（土）と 9 月27日（土）の両日に開催され、約800名の参加があった。

II. 入学試験

1. 入学試験は、平成21年 2 月 4 日（水）に五反田 TOC ビルで一次試験を、2 月15日（日）・16日（月）・17日（火）に本学西新橋校舎で二次試験を実施し、2 月20日（金）午後 3 時に合格発表を行った。志願者数は2,542名、入学者数は105名である。

入学者の内訳は下記の通りである。

- ① 男子 71名、女子 34名
- ② 現役 31名、1 浪 46名、2 浪 21名、その他 7名
- ③ 地域別入学者数

北海道	1名	東海・近畿地方	11名
東北地方	1名	山陽地方	1名
東京および関東地方	84名	四国地方	1名
甲信越・北陸地方	2名	九州地方	4名

Ⅲ. 国家試験

1. 医師国家試験

第103回医師国家試験は平成21年2月14日（土）～16日（月）の3日間に渡り実施され、結果が3月27日（金）に発表された。

本学からの受験者数は108人であり、合格者106人、合格率98.1%であった。全国平均合格率は91.0%であり、本学の合格率は全国3位、私立2位であった。新卒者については102人中合格者101人、合格率99.0%（全国平均94.8%）、既卒者については受験者6人中5人が合格し合格率83.3%（全国平均54.3%）であった。

Ⅳ. 退任記念講義

国領校では、平成21年1月17日（土）午後3時より本館1階講堂にて、鈴木暁之教授（人間科学教室 数学研究室）の最終講義「演題：数学余談」が開催された。

最終講義終了後、「ベラ食堂」で記念パーティーが盛大に開催された。

平成21年1月31日（土）午後6時から高木2号館地下1階「リーベ」において記念パーティーが盛大に開催された。

最初に、田嶋尚子医学科長から定年退任される梅澤祐二教授（耳鼻咽喉科学）、安田允教授（産婦人科学）、笠原洋勇（精神医学）、鈴木暁之教授（国領校・数学研究室）の略歴が紹介され、栗原敏学長より挨拶があり記念品が贈呈された。また、学生会より記念品並びに花束贈呈があり、同窓会、父兄会より記念品の贈呈があった。

(2) 看護学科

I. 教学関係

1. 教学委員会

看護学科教学委員会は看護学科教学委員長1名、看護学科教学委員4名をもって構成され、教学委員会は定例として毎月1回開催されている。

教学委員は以下の通りである。

平成20年4月～平成21年3月

教学委員長 奥山 則子

教学委員 藤野 彰子、櫻井美代子、茅島 江子、平尾真智子

2. 教学関連の主な事項

- ① 平成20年度は、1年生（17期生）42名、2年生（16期生）43名、3年生（15期生）35名、4年生（14期生）37名で新学期をむかえた。
- ② 平成20年度オリエンテーション（看護継続ゼミ）は学年の始めにあたり、「生活者としての人をみる」を全体テーマとし、4月5日から4月12日にかけて実施された。この間、国立女性教育会館（埼玉県嵐山町）に宿泊しての学年間討議、学年別討議、レクリエーションのほか、阿部志郎氏（神奈川県立保健福祉大学名誉学長）による講演会（テーマ～人生～愛し愛されて）やシンポジウム（テーマ～生活者としての人をみる）を開催し、大変好評であった。また、健康診断や防災、防犯についての講習会、カルト教団への注意を喚起する講演も平行して行なわれた。
- ③ 「看護継続ゼミ」Ⅰ、Ⅱについては、「自分をみる」「他者をみる」をテーマに、5人の教員のもと開講された。「看護継続ゼミⅢ」については、「看護の対象をみる」をテーマに、8領域で開講された。また、「看護継続Ⅳ」は、「医療の安全管理と倫理ワークショップ」への参加と、昨年同様”チーム医療としての看護の役割”を考えるため、「他職種の機能と役割体験」を各自第三病院と柏病院に従事する希望の職種の仕事を見学体験した。

- ④ 次の期間に定期試験を実施した。
 - ・前期 平成20年 6月21日
平成20年 9月 9日～9月16日
 - ・後期 平成21年 1月27日～2月 5日
- ⑤ 平成20年 7月19日、16期生の「看護への思いを新たにする式」の一環として、大和谷真奈美氏（東京慈恵会医科大学附属病院看護部主任・・・本学3期生）による講演会が実施され、9月20日に本学関係者、ご父母をお招きし、式典を行った。
- ⑥ 平成20年10月 9日、「看護継続ゼミ」の一環として、長濱晴子氏（日本バイオビレッジ協会事務局長）による講演会（テーマ～病気を通して考える私たちの生き方）を開催した。
- ⑦ 平成20年10月11日、学祖高木兼寛先生の墓参があり、学生代表が参加した。
- ⑧ 平成20年10月28日、解剖諸霊位供養法会が行なわれ、4年生が参加した。
- ⑨ 平成20年11月29日、4年生の看護研究発表会が行なわれた。
- ⑩ 平成21年 1月20日、看護学科の兼任教員並びに非常勤教員との意見交換の場として講演会を開催した。
- ⑪ 平成21年 3月13日、医学科と合同の卒業式が西新橋で行なわれ、14期生37名が卒業し、慈大賞と同窓会賞がそれぞれ1名に贈られた。

II. 入学試験

1. 平成21年度入学試験は、平成21年 2月10日（火）に第一次試験を、2月13日（金）に第二次試験を実施した。志願者数は、225名、入学者は42名、その内訳は次のとおりである。
 - ① 女子 41名、男子 1名
 - ② 現役 39名、1浪 2名、2浪 1名
 - ③ 地域別入学者数

北海道地方	0名	東海地方	0名
東北地方	1名	近畿地方	1名
東京および関東地方	32名	中国・四国地方	2名
信越地方	6名	九州地方	0名
2. 平成20年度オープンキャンパスは、平成20年 7月29日（火）と 8月27日（水）・28日（木）の3日間実施し、参加者数は369名であった。
内訳は、7月が126名、8月が243名であった。
3. 受験生の確保を目的に、学外で開催された6箇所の大学ガイダンス等に分担して教員・学事課職員が参加した。
4. 高等学校58校へ訪問し、本学のピーアールや看護について進路指導の先生方へ説明し、看護について理解を深めてもらった。

III. 国家試験

1. 看護師・保健師国家試験

第98回看護師国家試験は、平成21年 2月22日（日）に、第95回保健師国家試験は平成21年 2月20日（金）に実施され、その結果が3月26日（木）に発表された。

看護師国家試験は14期生37名、13期生1名が、保健師国家試験は14期生37名、13期生3名が受験し、全員が合格した。

なお、全国の看護師国家試験合格率は89.9%、保健師国家試験合格率は97.7%であった。

(3) 大学院

1. 医学系専攻博士課程

従前より大学院の改善充実を図るため種々検討を重ねてきた。平成20年度は大学院をより充実させるとともに平成19年度に未実施であった改善案を実行に移した。

主な改善項目は以下のとおりである。

- ① 社会人の勤務体制を考慮し、大学院の一部の授業（共通カリキュラム、選択カリキュラム）を夜間の時間帯と土曜日に設定した。さらに社会人学生の在籍する以外の授業細目まで社会人のカリキュラムを作成した。社会人用のカリキュラムを導入している授業細目科と研究部門は11の授業細目科と3部門の総合医科学研究センターである。
- ② 医学研究科における研究の充実とその活性化を図るため医学研究科の助成制度（東京慈恵会医科大学医学研究科研究推進費）を実施し、3件採択した。
- ③ 大学院共通カリキュラム「医の倫理」、「医学研究法概論」の授業の一部を公開講義として大学院生のみならず一般の研究者の涵養の場とし、多くの研究者が出席した。
- ④ 日本学生支援機構による第一種奨学金の貸与を受けた大学院を対象とした「奨学金返還免除候補者選考委員会」を創設し、規定と選考基準を整備した。
これにより2名の応募があり、1名を日本学生支援機構に推薦した。
- ⑤ 平成15年度から継続している大学院生研究発表会の内容の見直しを行い、プレゼンテーション能力を磨き、専門外の研究に対しても自分の意見を述べる能力を磨く趣旨に改めた。

平成21年度の大学院入試は2回実施し、1回目は平成20年10月4日に、2回目は平成21年1月31日に実施した。その結果、21名（うち社会人5名）が合格した。この結果、大学院全体の学生数は87名となった。本学の大学院生は本学の各講座、総合医科学研究センターのみならず、国外ではヴァンダービルト大学、ノースウェスタン大学、スタンフォード大学、ハーバード大学、ベイラー医科大学など、国内では東京医科歯科大、大阪大、千葉大および放射線医学総合研究所、国立循環器病センター研究所、など国内外の様々な大学、研究所でも広く研究を行っている。

2. 看護学専攻修士課程

医療の場で看護を実践している看護職者に、より高度の教育を受ける機会を提供し、高度な知識と技術をもって専門職業人の育成と看護研究者として看護の質の向上に貢献できる人材の育成を目指し平成21年4月開設に向けて準備を進めてきた。

申請書類一式を整えて平成20年5月30日に申請し、平成20年10月31日付で設置認可がおりた。

入学試験は、募集を平成20年11月10日（月）～11月20日（木）間に行い、初年度入試を平成20年12月6日（土）に実施した。その結果、21名の応募があり、12名が合格した。

6) 慈恵看護専門学校の状況

看護専門学校学生数（平成21年4月現在）

	1年生	2年生	3年生	計
	人	人	人	人
慈恵看護専門学校	102	104	99	305
慈恵第三看護専門学校	51	53	49	153
慈恵青戸看護専門学校			27	27
慈恵柏看護専門学校	84	76	55	215
計	237	233	230	700

(1) 慈恵看護専門学校

I. 教学関係

1. 運営委員会

- ① 慈恵看護専門学校運営委員会は校長、教育主事、副教育主事、事務長、慈恵会局長の5名をもって構成され、定例として毎月1回開催されている。
- ② カリキュラム運営委員会は教育主事、副教育主事、カリキュラム委員6人で構成され週1回開催されている。

2. 教学関連の主な事項

- ① 平成20年度1年生（59期生）100名（新入生99名＋復学者1名）、2年生（58期生）96名、3年生（57期生）105名、で新学期をむかえた。
- ② 平成20年度オリエンテーションは4月7日から4月23日にかけて、学校生活を円滑に送ることができるようガイダンスが行われた。この間に上級生との交流する機会も持った。
- ③ 平成20年度より1年次の4月に麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎の抗体価検査を実施。ワクチン摂取が必要な学生に実施した。（従来は2年次に実施）
- ④ カリキュラム改訂
平成21年度より実施のカリキュラム改訂に向け検討を重ね、教育内容の精選を図り97単位を学習できるよう準備し、認可を受けた。新たにコミュニケーション能力や、フィジカルアセスメント能力の向上を目指したの教授内容を準備した。また統合科目について教育内容を精選した。
- ⑤ 次の期間に定期試験を実施した。
 - ・前期 平成20年9月18日～9月26日
 - ・後期 平成20年12月15日～12月17日
平成21年2月12日～2月17日
- ⑥ 平成20年10月9日には、東京都看護協会主催の看護学生看護研究学会（普門館）に2、3年生が参加。
本学の学生2名が発表した。
- ⑦ 平成20年10月23日、24日、3年生の学外セミナーを実施。「ケアの本質」について話し合い看護についての学びを深めた。
- ⑧ 平成20年11月11日には、日本看護サミット東京08 東京国際フォーラムに3年生が参加した。
- ⑨ 平成20年12月18日に災害対策の一環として全校で防災訓練を実施した。
- ⑩ 平成20年10月31日看護研究発表会、平成21年3月5日看護観発表会を3年生が行った。
- ⑪ 平成21年3月12日に卒業式が行なわれ、93名が卒業し、優等賞と同窓会恵和会賞がそれぞれ1名に贈られた。
- ⑫ 平成21年3月19日、新カリキュラムの説明、非常勤教員との意見交換の場として講師会を開催した。

II. 入学試験

1. 平成21年度入学試験は次のとおり実施した。
推薦・大学卒選考〔一次〕平成20年10月30日（木）〔二次〕平成20年11月15日（土）
一般選考〔一次〕平成21年1月21日（水）〔二次〕平成21年1月24日（土）
志願者数は279名（推薦43名・大学卒68名・一般168名）、入学者は101名（推薦43名・大学卒15名・一般43名）であった。
2. 平成20年度オープンキャンパスは、平成20年7月19日（土）・8月30日（土）・11月29日（土）の3日間実施し、参加者数は276名（内訳は7月93名、8月112名、11月71名）であった。
3. 予備校主催入試ガイダンス等は、7月に4箇所、12月に2箇所、分担して教員・事務員が参加した。

Ⅲ. 国家試験

第98回看護師国家試験は、平成21年2月22日（日）に実施され、その結果が3月26日（木）に発表された。

57期生93名が受験し、93名全員が合格した。

なお、全国平均合格率は89.9%であった。

(2) 慈恵青戸看護専門学校

I. 教学関係

1. 学校運営に関する会議

運営会議は校長、参与、教育主事、カリキュラム調整者、事務長で構成され、定例として毎月1回開催されている。教員会議は、校長、教育主事、カリキュラム調整者、実習調整者、看護専任教員で構成され、定例として毎月2回開催されている。その他の会議・委員会は、教職員会議、認定会議（単位認定会議・卒業認定会議）、臨床実習指導者会議、カリキュラム委員会、実習委員会等である。

2. 教学関連の主な事項

- ① 平成20年度は学生募集を停止したため、新学期を2年次（23期生）26名、3年次（22期生）37名で迎え、4月7日に始業式が行われた。
- ② 安全教育の一環として大学主催の「医療の安全管理と倫理ワークショップ」へ3年次の学生が参加した。
 - ・第1回 平成20年5月17日 参加者10名
 - ・第2回 平成20年10月25日 参加者10名
- ③ 平成20年5月24日、恵和会主催特別講演を医療エッセイストの多和田奈津子氏により「へこんでも ～共に歩む医療を目指して～」のテーマで、4校の2・3年次の学生を対象に行われた。
- ④ 平成20年6月14日に4校の教職員を対象にした4校交流会が大学南講堂で行われた。研修会は“看護教育の質の向上を目指して”のテーマで、パネルディスカッションを各校の看護専任教員と事務代表のパネリスト5名のもとで行われた。
- ⑤ 平成20年6月25日に球技大会を国領校の樋口体育館で行った。
- ⑥ 次の期間に試験を実施した。
 - ・前期 平成20年7月18・22・23日、9月16日～18日
 - ・後期 平成20年12月17日～19日、平成21年2月26・27日
- ⑦ 平成20年9月24日国際福祉機器展を2年次「在宅看護論」の講義の一環として見学している。
- ⑧ 平成20年10月9日の看護学生看護研究学会に2・3年次の学生全員が参加し、1名が口演発表した。
- ⑨ 平成20年10月16日、防災訓練を実施し、消火器訓練及び起震車による揺れの体験をした。
- ⑩ 平成20年10月31日～11月2日“第6回穆園先生ふるさとの旅”に3年次の1名が参加した。
- ⑪ 平成20年11月11・12日、広い視野で看護を考える機会とすることをねらいに「日本看護サミット」に3年次の34名が参加した。
- ⑫ 平成20年12月8日～10日、1年次「人間関係論Ⅰ」で学んだ知識をもとにした2年次「人間関係論Ⅱ」の講義の一環として、富士緑の休暇村で宿泊セミナーを実施している。
- ⑬ 平成20年12月12日、学生を対象に身近な先輩方から看護観の講演をして頂き、看護職への関心を高めることを目的に4名の講師を招聘し「学内講演会」を実施した。
- ⑭ 平成21年12月22日 入院中の患者様にキャンドルサービスを実施した。
- ⑮ 平成21年3月9日 青戸中学 BLS コース（一次救命処置修得コース）に3年次の33名が参加した。

- ⑩ 平成21年3月12日に3校合同の卒業式が挙行され、22期生33名が卒業生し、優等賞、恵和会賞がそれぞれ各校の学生1名に贈られた。

II. 入学試験

平成20年4月1日を以って学生募集停止である。

III. 看護師国家試験

第98回看護師国家試験は、平成21年2月22日（日）に実施され、その結果が3月26日（木）に発表された。22期生33名が受験し31名が合格した。また、既卒者は4名が受験し全員合格した。本校の合格率は94.6%である。なお、全国の看護師国家試験合格率は88.9%であった。

(3) 慈恵第三看護専門学校

I. 教学関係

1. 会議

下記の会議を置き学校運営にあたっている。

運営会議は校長、参与、教育主事、副教育主事、実習調整者、学年担当、事務長で構成され、毎月1回開催されている。その他の会議・委員会は、教員会議、認定会議、入学試験判定会議、カリキュラム会議、講師会議、臨床実習指導者会議、教職員会議等である。

2. 教学関連の主な事項

- ① 4月5日（土）3校合同入学式が西新橋で行われ、当日、保護者会を開催した。平成20年度1年生（19期生）52名、2年生（18期生）49名、3年生（17期生）46名計147名で新学期をむかえた。
- ② 5月24日、多和田 奈津子氏による「へこんでも～共に歩む医療を目指して～」のテーマで恵和会特別講演を4校学生を対象に開催した。
- ③ 6月11日～13日、2泊3日の日程でYMCA 山中湖センターにて教育キャンプを実施した。
- ④ 6月14日4校交流会を西新橋で開催した。
- ⑤ 7月19日、3年生保護者会を開催し看護師国家試験の現状と対策を理解していただき、学生が実習や学習に集中できるように協力してもらうための機会とした。
- ⑥ 7月26日、9月27日、11月3日（学校祭同時開催）の3回、学校説明会を開催した。参加総数は、受験生および保護者・高校教員を含め153+ α 名であった。
- ⑦ 8月1日、夏季セミナー「AEDの使い方」について実施した。
- ⑧ 9月5日講師会を開催し外部講師14名の参加があった。平成21年度から実施する改正カリキュラムの趣旨、改正点について説明した。また学生の動向（入学生、卒業生、在校生）と看護師国家試験の合格率・合格基準、出題形式の変更について報告した。
- ⑨ 11月28日、理事長同席のもと1年生52名の戴帽式を実施した。
- ⑩ 平成21年3月12日4校合同の卒業式が西新橋で行われた。17期生45名が卒業し、優等賞と同窓会より恵和会賞が授与された。

II. 入学試験

平成20年度入学試験は、推薦入試を平成19年11月22日（木）・12月1日（土）、一般入試を平成20年1月20日（日）・1月22日（火）に実施した。

志願者数は推薦25名、一般95名、入学者は52名であった。

Ⅲ. 国家試験

第98回看護師国家試験は、平成21年2月22日（日）に実施され17期生43名、既卒者2名の45名が受験し、45名（100%）が合格した。なお、全国の看護師国家試験合格率は89.9%であった。

(4) 慈恵柏看護専門学校

I. 教学関係

1. 学校運営に関する会議

- ① 学校運営会議は、毎月1回開催されている。
- ② 教職員会議は、毎月1回開催されている。
- ③ 教員会議は、毎月2回開催されている。

2. 教学関連の主な事項

- ① 平成20年4月5日（土）、3校合同入学式を挙行了した（22期入学者66名）。
- ② 平成20年度、1年生（22期生）71名、2年生（21期生）71名、3年生（20期生）61名で新学期を向かえた。
- ③ 平成20年度始めにあたり、全学生を対象に対面式・始業式を実施した。教職員紹介、学年のクラス編成の説明及び校長より教育方針の表明を行い3年間の学習計画導入として行なっている。
- ④ 4月3日（木）に、講師会を実施。本校の教育計画の周知と日頃の教育に関する意見交換の場として活用している。
- ⑤ 5月24日（土）に4校の2・3年生を対象に恵和会の特別講演が医療エッセイストの多和田奈津子氏による「へこんでも ～共に歩む医療を目指して～」が行われた。
- ⑥ 人間関係の基礎倫理を学び体験を通して深められるように2年次の3月と3年次の7月に「人間関係論1・2」として2泊3日の宿泊研修を実施している。
- ⑦ 安全教育の一環として大学主催の「医療の安全管理と倫理ワークショップ」へ3年生が年2回10名ずつ参加した。また、学内で「看護における安全」と題して実習中のヒバリハット事例のグループワークを通して看護事故防止への意識の向上を図っている。
- ⑧ 平成20年11月21日（金）戴帽式を挙行了した（22期生1年生65名）。
- ⑨ 全学生を対象に、笠原洋勇学校長の特別講演「看護のこころ」が行われた。
- ⑩ 平成21年3月12日（木）3校合同の卒業式を挙行され、20期生57名が卒業生し、優等賞、恵和会賞がそれぞれ各校1名に贈られた。また、千葉県より優秀な学生に対して千葉県知事賞が贈られ本校卒業生1名に贈られた。

Ⅱ. 入学試験

1. 平成21年度推薦入学試験は、1次試験を平成20年11月5日（火）に、2次試験を11月15日（土）に実施した。志願者数は37名で全員入学した。
2. 平成21年度一般入学試験は、1次試験を平成21年1月28日（水）に、2次試験を1月30日（金）に実施した。志願者数は175名、入学者は44名でその内訳は次の通りである。
 - ① 現役22名、既卒者22名（内 大卒者3名、短大卒者3名、専門卒3名含む）
3. 平成20年度学校説明会は、平成20年7月・8月・10月の3日間実施し、参加者数は332名であった。
4. 学生確保の目的による推薦入学で在学中の出身高等学校27校（千葉県16校、茨城県5校、埼玉県6校）に対して学校訪問を行った。
5. 予備高等で開催された学校相談会に出席し約100名の相談を受け付けた。
6. 千葉県の中・高等学校の本校見学会（逆井中学校、松戸国際高等学校）を受け入れた。

Ⅲ. 看護師国家試験

1. 第98回看護師国家試験は、平成21年2月22日（日）に実施され、その結果が3月26日（木）に発表された。20期生57名が受験し、57名全員が合格した。また、既卒者2名が受験し全員合格した。

なお、全国の看護師国家試験合格率は88.9%であった。

7) 卒後臨床研修

1. 初期臨床研修

- 1) 平成20年度初期臨床研修医は、92名（本学卒64名、他学卒28名）、歯科2名、計94名が平成20年4月1日より研修を開始した。

附属4病院別の採用数は下記の通りである。

本院 38名（定員50名）内訳：本学卒16名、他学卒22名
（歯科医師2名を含めると本院の研修医は40名である。）

青戸病院 7名（定員10名）内訳：本学卒7名、他学卒0名

第三病院 24名（定員25名）内訳：本学卒21名、他学卒3名

柏病院 23名（定員25名）内訳：本学卒20名、他学卒3名

- 2) 平成21年度初期臨床研修医（医科）の採用試験を7月26日、8月23日、9月6日、10月10日の4日間、西新橋校において実施した。附属4病院合わせて定員107名の全員採用を見込み227名のマッチング登録を行ない、マッチング結果は85名であったため、追加募集を実施し4名（第三病院3名、柏病院1名）を内定した。

なお、厚生労働省からの要請のもと、21年度の募集定員を下記の通り削減した。

本院：49名、青戸病院：9名、第三病院：24名、柏病院：25名（変更なし）

- 3) 平成21年度初期臨床研修医（歯科）の採用試験を8月16日西新橋校において実施した。定員3名のところ、11名のマッチング登録を行ない、マッチング結果は3名と充足した。
- 4) 各大学における卒業試験および医師・歯科医師国家試験の結果、平成21年度初期臨床研修医は医科82名（本学卒51名、他学卒31名）、歯科1名となった。歯科については、急遽、1名の追加採用を行った。（他施設にマッチングした1名を、当該者とマッチ施設との了解により実施。）

結果、附属4病院別の採用数は下記の通りである。

本院 42名（定員49名）内訳：本学卒20名、他学卒22名
（歯科医師2名を含めると本院の研修医は44名である。）

青戸病院 7名（定員9名）内訳：本学卒6名、他学卒1名

第三病院 19名（定員24名）内訳：本学卒12名、他学卒7名

柏病院 14名（定員25名）内訳：本学卒13名、他学卒1名

- 5) 研修指導医講習会を1回開催し、合計で29名が修了した。
 - ・第5回研修指導医講習会（平成20年8月1日（金）、2日（土））修了者数29名なお、当該講習会は、厚生労働省の開催指針に基き開催し、修了者には修了証として、厚生労働省医政局長印と院長印の両者印が押印されたものが授与される。

- 6) 他大学医学科生向けに病院説明会を2回開催した。

第1回説明会（平成20年6月7日（土））（18大学37名参加）

第2回説明会（平成20年7月5日（土））（16大学27名参加）

- 7) 外部機関・メディカル・プリンシプル社が主催する『医学生のための臨床研修指定病院合同セミナー・レジナビフェア2008in 東京』（平成20年7月13日開催）に参加した。大学、市中病院等を含めて147施設が出展し、5年生（参加者の88%）を中心に1,536名の参加があった。本学ブースには、5年生を中心に42大学114名（大学名・氏名記載者数）の学生が来場した。
- 8) 今年度より、これまで卒前カリキュラムであった医学生対象のCPCを、新たに初期臨床研修医を対象とした教育プログラムに改変となった。担当各科の指導医のもとに2年目研修医

が中心となり、医学生（3年～6年）は授業として参加する形式で、5月から11月にかけて計6回開催した。

開催日	開催回数	担当科	臨床診断名
5月12日(月)	第690回	腎臓・高血圧内科	感染性心内膜炎
6月2日(月)	第691回	消化器・肝臓内科	膵尾部原発、神経内分泌癌
7月7日(月)	第692回	呼吸器内科	心膜悪性中皮腫、肺癌
9月1日(月)	第693回	腫瘍・血液内科	原発性骨髄線維症、肝硬変
10月6日(月)	第694回	リウマチ・膠原病内科	皮膚筋炎、間質性肺炎
11月10日(月)	第695回	神経内科	悪性リンパ腫

※開催場所・時間は全て、大学1号館講堂 18:00～19:30

2. 専門修得コース（レジデント）

- 1) 平成20年度より、レジデント124名（本学初期臨床研修修了者79名、他施設初期臨床研修修了者35名（本学卒11名）、大学院単位取得者10名）が専門修得コースでの研修を開始した。
- 2) レジデント91名、リサーチレジデント5名の合計96名が平成21年3月31日をもって専門修得コースを修了した。
- 3) 平成21年度レジデントの採用試験を平成20年9月27日（土）に実施し、その後も随時追加試験を実施した結果、127名（前年比+4名）を採用した。採用者の内訳は次の通りである。
本学初期臨床研修修了者78名、他施設初期臨床研修修了者46名（本学卒20名）、大学院単位取得者3名

8) 生涯学習センター

- 1) 登録者数：平成21年3月現在245名、内港区医師会31名、中央区医師会6名である。
- 2) 利用者数：平成20年度は169名である。
- 3) テレフォンサービス利用件数：平成20年は117件である。
- 4) 月例セミナーが下記のとおり開催された。
 - ① 第168回・平成20年4月12日
高齢者の呼吸器疾患 桑野 和善 教授（呼吸器内科）
 - ② 第169回・平成20年5月10日
白内障はどう見つけどう治療するか 常岡 寛 教授（眼科）
 - ③ 第170回・平成20年6月14日
変わりゆく乳癌治療 内田 賢 教授（乳腺・内分泌外科）
 - ④ 第171回・平成20年7月12日
狭心症を見分ける方法 吉村 道博 教授（循環器内科）
 - ⑤ 第172回・平成20年9月13日
身体に優しい肺疾患の外科的治療 森川 利昭 教授（呼吸器外科）
 - ⑥ 第173回・平成20年11月8日
こわい？肝臓疾患 伊坪真理子 教授（消化器・肝臓内科）
 - ⑦ 第174回・平成21年2月14日
なぜもの忘れをするのか 笠原 洋勇 教授（精神神経科）

⑧ 第175回・平成21年3月14日

健康を考えた食べ物

横山 淳一教授（糖尿病・代謝・内分泌内科）

5) 第29回夏季セミナー

「保険診療の葛藤」が平成20年8月2日（土）午後4時より鳥海弥寿雄（乳腺・内分泌外科）の司会で行われ、参加者は74名であった。

① ここが変だよこの査定、ここが変だよこの算定

吉田 哲（循環器内科）

② 保険診療は聖者（正邪）の進行か？

羽尻 裕美（麻酔科）

③ 保険診療の今日明日

横田 邦信（医療保険指導室）

④ 調剤審査の傾向と対策

法橋 建（総合診療部）

⑤ 日常における保険診療のポイント

5-1：内科の立場から

高木 一郎（消化器・肝臓内科）

5-2：外科の立場から

石田 祐一（消化器外科）

⑥ パネルディスカッション

「保険診療のピットフォール」

4. 研究

1) 教育研究助成委員会・大型プロジェクト対策委員会・発明委員会

(1) 教育研究助成委員会は、本学の教育と研究の向上を図るため、これらに係る学内教育研究費の予算化および文部科学省科学研究費補助金を始めとする公的研究費の他各種財団等からの補助・助成についての対応、さらに研究費の不正防止計画担当部署として、文部科学省「公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく研究費の運営・管理に対する整備を推進している。

- ① 平成20年度の委員会は、委員長：渡邊直熙、委員：羽野寛、松藤千弥、田尻久雄、寺坂治、茅島江子各教授及び高木敬三専務理事で構成された。
- ② 平成20年度の文部科学省科学研究費補助金の管理件数は128件、総額222,696千円（間接経費含む）であった。厚生労働科学研究費補助金のほか各種独立行政法人委託事業等については、採択後大学で経理事務を行なった主任研究者および分担研究者は43件、総額202,697千円（間接経費含む）、また研究者等より大学に報告のあった各種財団等から交付通知を受けた研究補助・助成金は15件であり金額は22,000千円であった。
- ③ 平成20年度私立大学等経常費補助金（特別補助）の申請ゾーン変更
- ④ 平成19年度科学研究費補助金における研究・研究成果数の報告
- ⑤ 平成20年度教育研究経費予算申請案の決定
- ⑥ 文部科学省研究設備費及び慈恵大学一般研究設備費による機器選定
- ⑦ 各種財団公募研究の学内選考の実施
- ⑧ 公的研究費等による購入物品の納品検査体制の改善
 - ・各機関に納品検収所（納品検収窓口）を開設し、研究費等により購入する物品の事実確認の徹底を図った。
- ⑨ 公的研究費等による臨時研究職員の大学雇用と出退勤管理
 - ・公的研究費等による臨時研究職員の採用について雇用形態を見直し、大学が直接雇用する契約方法に変更した。また、臨時職員の出勤簿を研究者管理から大学管理に変更し勤務状況の確認を徹底した。
- ⑩ 公的研究費等による旅費（国内・国外）並びに外国人招聘に係る経費等取扱基準の制定・これまで運用してきた「文部科学省科学研究費補助金に係る旅費（国内・国外）等」および「文部科学省科学研究費等に係る外国人招聘に伴う旅費等」経費の取扱ルールを整理し、他省庁や独立行政法人の競争的資金等による研究費について適用できるよう整備した。
- ⑪ 「東京慈恵会医科大学研究費に関する管理規程」の改定
 - ・本学における研究費の管理・運営を徹底する上から、最高管理責任者（学長）、統括管理責任者（教育研究助成委員長）、事務管理責任者（財務部長）が不在時の代行者を定めた。
- ⑫ 「公的研究費等の種類と研究費使用の主なルール」の作成
 - ・補助事業毎に研究費使用のルールが異なっている実情から、研究費の種類と研究費使用のルールを整理し一覧化した。
- ⑬ 「研究費の運営・管理に係る職務分掌表」の制定
 - ・「東京慈恵会医科大学研究費の管理規程」第9条に基づき、事務処理に関する研究者と事務職員の権限と責任について一覧にして明確化を図った。
- ⑭ 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づく体制整備等の実施状況報告書を文部科学省に提出した。

(2) 大型プロジェクト対策委員会は、全学の研究体制の整備拡充と研究活動の活性化のため、本学がとるべき適切な方策（総合医科学研究センター各研究施設の充実、大型研究設備設

- 置、大型研究プロジェクトの選定等)を審議している。
- ① 平成20年度の委員会は、委員長：渡邊直熙教授、委員：馬詰良樹、阿部俊昭、森山寛、田尻久雄の各教授と高木敬三専務理事で構成された。
 - ② 平成20年度は、独立行政法人科学技術振興機構公募の平成21年度科学技術振興費、財団法人武田科学振興財団2009年度特定研究助成公募について学内審査を行い申請応募した。
- (3) 発明委員会は、本学が関係する発明と特許について審議している。
- ① 平成20年度は8件の発明の届出があり、うち5件の発明については特許権等の権利を大学が承継することになった。なお、企業との共同出願していた発明のうち審査請求したものが3件、また国内特許登録となったものが1件であった。

2) 総合医科学研究センター

平成20年度における総合医科学研究センター DNA 医学研究所、高次元医用画像工学研究所、臨床医学研究所、DDS 研究所の活動状況は次のとおりである。

(1) DNA 医学研究所

DNA 医学研究所は従来からの6部(遺伝子治療研究部、分子免疫学研究部、悪性腫瘍治療研究部、分子細胞生物学研究部、分子遺伝学研究部、臨床情報部)と、平成19年度よりスタートしたプロジェクト研究部の腎臓再生研究室より構成され、基礎と臨床を結びつける研究を行い、その研究成果を海外英文誌や国際学会で発表した。受託研究事業としてはDNAシーケンシング、微量物質の分析、さらに電子顕微鏡による微細構造に関する事業を推進した。学内講座からは多くの一般研究員を受け入れ、大学院生の指導・教育も各部門において積極的に行った。また、海外よりの研究生や外国籍教員を受け入れることで国際化を図った。

研究は主として下記の課題よりなる。

- ① 悪性腫瘍：悪性腫瘍に対する診断から先端的治療法の開発までを目指した。新規診断法としてはプロテオミックスを駆使した腫瘍マーカーの検索に成果が得られた。治療法では、白血病細胞モデルを用いた血球分化の分子生物学的解析と分化誘導療法の開発、遺伝子治療法の開発、超音波を利用した脳腫瘍治療法の開発、分子標的治療薬の作用機序に関する基礎的研究、などの各分野で成果が得られた。また、免疫療法の開発では新規腫瘍特異的抗原の解析を取り入れた治療法の開発を行った。臨床研究としてはWTワクチンと抗腫瘍薬の併用による固形腫瘍に対する臨床治験、さらに、GMP施設を使用した脳腫瘍に対する樹状細胞と腫瘍細胞の融合を用いた免疫療法を継続して行った。
- ② ライソゾーム病・再生医療：ライソゾーム病に対して、遺伝子治療法やiPS細胞による再生医療を導入した新規治療法の開発に取り組んだ。同疾患に対する酵素補充療法では抗体産生問題点の克服に向け研究を進めた。腎臓再生医療では腎不全克服を目指して大型哺乳動物を用いたヒト腎の作製を試みた。
- ③ 免疫・アレルギー：花粉症や食物アレルギーなど機序の解明とその治療法の開発に取り組んだ。とりわけサイトカインIL-31の果たす基礎的・臨床的役割に関する研究では臨床各科との協力のもとで大きな進展が得られた。
- ④ 他の重要な研究：敗血症等の診断に有用な高感度エンドトキシンの測定法を開発した。また、上皮細胞間の接着に関する研究、脊髄性筋萎縮症の病因解明とその治療法の開発、分泌蛋白グリコシレーションと分泌能に関する研究、蛍光シリコンナノ粒子の開発などが行われた。

(2) 高次元医用画像工学研究所

高次元医用画像工学研究所は現在24テーマの研究を実施しており、その内容は生体の3次元、4次元現象の可視化技術開発、ナビゲーション手術に代表される治療用リアルタ

ーム画像処理技術開発、次世代手術ロボットシステム開発などに大きく分類される。このなかの国策プロジェクトの内容に関し、その概要を簡単に説明する。インテリジェント手術機器開発は平成19年度に経済産業省により5年間の研究プロジェクトとして開始され、「国民が健康で安心して暮らせる社会を実現するため、先端技術を駆使した高度医療機器開発を実施」するものである。現在、東京大学、九州大学を始めとする12校の大学ならびに4社の企業が参画した大規模研究開発プロジェクトであり、頭部、胸部、腹部ごとにそれぞれに特化したインテリジェント手術機器開発を行っている。また今年平成20年度から本プロジェクトは経済産業省からNEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術開発機構）が委託元となった。本研究所は九州大学医学部とともに腹部領域を担当し、消化器外科用インテリジェント手術機器開発に取り組んでいる。消化器領域における診断と外科的治療を同時に行う機能を持たせた手術用ロボットシステムの開発を主研究とし、さらにこのシステムを扱える医師を養成するための、バーチャルリアティー技術を援用したトレーニングシステムも同時に開発している。なおこれらの開発品をできるだけ早く臨床的に実用化するために、20年度経済産業省健康研究推進会議による先端医療開発特区（スーパー特区）のテーマとしても認定され、開発システムの早期実用化のメドが示唆された。独立行政法人日本学術振興会による科学研究費補助金（基盤研究（S））として実施している、「触覚提示・画像誘導機能を持つ内視鏡型ロボットの開発」は今年度最終段階を迎え、開発した手術ロボットにおけるロボットアームの触覚感知機能、体内でのロボットの位置検知ならびに画像誘導などの検証を行って、最終報告書の作成を行った。このプロジェクトで開発されたTele-Surgery機能、すなわち遠隔手術機能については、本開発システムを利用して日本一タイ間を結んで行ったTele-NOTES実験とともに、国内外の多様なマスコミで紹介されることとなった。また学内共同研究としては、新しい画像誘導機能を持つナビゲーション手術システム開発があり、このために第三病院手術棟内に設置されているハイテクナビゲーション手術室を活用して、本学外科学講座、耳鼻咽喉科学講座、形成外科学講座とともに臨床試験を実施し、さらにこの成果をもとにした関連技術開発研究を行った。また本年度より裁判所、検察庁、捜査機関等の司法関連機関から犯罪事例に関する高次元画像解析鑑定への依頼があり、このための準備として関連する医用高次元画像解析技術の開発も開始した。また一般の方々への啓蒙も研究所の使命と考え、TV、新聞を含む広いマスコミへの対応、子供の理科離れを防ぐための講演会、国内外諸団体からの研究所への見学などについても前向きに対応を行った。

(3) 臨床医学研究所

当臨床医学研究所は「患者さん中心の最高・最善の医療を研究面から支援し、かつ推進する」という理念のもと、研鑽を積んできた。平成20年度においては、専任教員（専任研究員）として常勤2名、兼任3名、事務、技術職員（計4名）のほか、柏病院診療部に所属する教員（計20名）が一般研究員として登録され、それぞれの研究テーマに取り組み成果を上げている。この中の一部は平成21年3月3日に開催された「DNA医学研究所・臨床医学研究所合同研究発表会」にて報告された。以下、代表的研究内容を記す。

「特殊菌株の細胞膜粗酵素によるダイオキシン類汚染土壌の酵素反応速度の特定に関する研究」（環境省環境技術開発等推進事業）、「ダイオキシン分子によるインスリン遺伝子発現の制御系の解明」、「細胞膜粗酵素のアミノ酸配列とタンパク質の立体構造の明確化」、「ラクトフェリンのメチル化に及ぼす分子生物学的機序」、「酸化ストレスからの肝発癌における網羅的遺伝子解析」、「肝硬変繊維化モデルにおける siRNA-lipoplex DDS の構築」、「がん診断や治療を目指した磁性ナノパーティクルの開発」（平成20年度の新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）課題）、「癌治療用磁性ナノパーティクルの骨格となる磁性中空ナノクラスターの開発」、「樹状細胞を利用した新規癌ワクチンの開発（純化膵臓癌幹細胞様細胞と樹状細胞との融合細胞を利用した膵臓癌に対する細胞ワクチンと化学療

法との併用療法)」、「進行膵臓癌に対する塩酸ゲムシタピンと WT 1 の併用療法」、「抗菌薬療法による潰瘍性大腸炎の粘膜フローラの変化と治療効果の検索」、「血清抗菌活性と HDL：川崎病の動脈硬化性病変との関わり」、「食後高脂血症のメカニズムの解明と治療法の開発」その他にも「迅速な創薬化を目指したがんペプチドワクチン療法の開発」が先端医療開発特区の選択課題として決定された。加えて、「肝細胞がんの超早期診断法開発の臨床研究と GPC 3 ペプチドワクチン臨床試験」が平成21年度厚生労働科学研究費補助金の研究分担をえた。

(4) DDS 研究所

本研究所では物資をナノメートル ($1\text{ nm}=10^{-9}\text{ m}$) の領域において自在に制御する超微細技術 (ナノテクノロジー) を駆使したドラッグドラッグデリバリー製剤の研究・開発を行っている。ナノスケールの高分子ナノ粒子を抗免疫・炎症剤の担体として利用し、効率的な薬剤デリバリーの達成により薬効の増強、副作用の軽減とともにコンプライアンスの向上を目指すプロジェクトである。生体適合性・生分解性のポリ乳酸 (PLA) を薬剤内包の核とし、網内系の回避 (ステルス効果) する水溶性ポリエチレングリコール (PEG) 外殻を有する 50–100nm のナノ粒子は粒径・薬剤封入率・放出能の制御を可能にすると共に、肝臓・脾臓への取り込みが抑制されて血中滞留性が増し、100nm レベルの血管内皮細胞間隙を有する炎症局所の毛細血管から漏出する受動ターゲティングである EPR (Enhanced Permeability and Retention) 効果を増強する。さらに局所でナノ粒子は徐々に分解して薬剤を放出する (徐放性) とともに、クラスリンを介して炎症細胞に取り込まれた後にエンドソームから細胞質へ放出されるため、細胞質に標的を有する薬剤が有効であると考えられる。ステロイドに関しては、J Pharm Exp Ther doi: 10.1124/jpet.108.150276, Int J Pharm 10.1016/j.ijpharm.2009.04.001, Int J Pharm 2009; 365: 200–205に報告した。

一方、腎移植時の GVHD とともに関節リウマチに用いられる免疫抑制剤 (FK506) 封入ナノ粒子の関節炎および膠原病モデル動物での薬効増強も確認した。さらに、T細胞に特異的に結合する抗 CD 3 抗体を PEG-PLA に結合してナノ粒子に搭載することによる能動的ターゲティングを可能にしている。

5. 診 療

1) 病院概況

(1) 本 院 (院長：森山寛、副院長：落合和徳、谷口郁夫、橋本和弘、大水美名子、事務部長：今出進章)

(1) 病床利用状況

平成20年度の病床利用率は稼働床1,048床に対して84.7% (昨年比-2.3)、平均在院日数は、13.0日 (昨年比-1.0日) であった。

(2) 患者紹介率

平成20年度の紹介率は年間平均で医療法53.2% (昨年比+4.4)、保険法46.5% (昨年比+3.7) であった。

(3) 初期臨床研修

平成20年度採用者は医科38名 (内訳：本学卒16名、他学卒22名)、歯科 2 名の計40名であった。

(4) 行政監査・指導・検査

① 平成20年度立入検査 (平成20年10月29日)

② 医療法第25条第3項による特定機能病院の立入検査 (平成20年10月29日)

③ 精神病院等実地指導 (平成20年11月27日)

(5) 5 症例に対して生体肝移植の適否が検討され、その内 4 症例において移植手術が実施された。

(当院 3 例目：平成20年 4 月18日、4 例目：平成20年 7 月25日、5 例目：平成20年10月31日、6 例目：平成21年 1 月16日)

(6) 先進医療 (高度医療含む)

診療報酬改定に伴い先進医療の取扱いが改正、高度医療評価制度の創設により、「高度医療」が第3項先進医療に編成された。

① 診療報酬改定により保険収載 (5 件)

・培養細胞による先天性代謝異常診断 (小児科)

・顔面骨・頭蓋骨の観血的移動術 (形成外科)

・画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術 (耳鼻咽喉科)

・実物大臓器立体モデルによる手術計画 (整形外科)

・超音波骨折治療法 (整形外科) ※一部保険収載され一部は先進医療で継続

② 新規申請 (申請 5 件、うち承認 2 件)

・乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索 (乳腺・内分泌外科)

平成21年 4 月 1 日付承認

・臍腫瘍に対する腹腔鏡補助下臍切除術 (肝胆膵外科) 平成20年 6 月30日承認

・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索 (皮膚科) 申請中

・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索 (消化管外科) 申請中

・下肢 3 次元再構築画像を用いて術前計画から設計した手術器機による人工関節手術への補助 (整形外科) 申請中

(7) 臨床研究、保険適用外診療 (平成20年度審査状況)

認可件数：新規申請95件、変更申請 (期間延長など) 77件

(8) 診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業

当院で 4 例目 (東京地域38例目) となる死亡調査分析 (解剖) が実施された。

(平成20年10月 9 日)

(9) 病院改修 (外来改修等) について

① 外来整備工事

・C棟地下 1 階フィルム倉庫跡地を利用して、スポーツウェルネスクリニック・リハビリテーション室の新設 (平成20年 5 月)

- ・外来棟 2 階精神神経科外来跡地を利用して、心エコー・ホルター心電図・トレッドミル検査室の新設 (平成20年 5 月)
 - ・外来棟 2 階産婦人科外来跡地を利用して、外来点滴室の新設 (平成20年11月)
 - ② 健診センター内改修工事 (内視鏡検査室の移転・乳房検査室の新設等) (平成20年 5 月)
 - ③ 病院病理部移転 (中央棟 5 階 → E 棟地下 1・2 階) に伴う改修工事 (平成20年10月)
 - ④ 外来棟 4 階患者支援・医療連携センター改修工事 (平成21年 3 月)
 - ⑤ 医療ガス設備定期整備 (平成21年 2 月)
 - ⑥ E 棟病棟用 UPS バッテリー取替え工事 (平成21年 3 月)
 - ⑦ 中央棟地下 3 階機械室省エネ対策工事 (平成21年 3 月)
- (10) 医療安全管理
- ① リスクマネジメント委員会、4 病院リスクマネジメント会議、フロアリスクマネージャー会議、医療安全運営会議等を主管し、医療問題発生防止並びに医療安全推進活動を実践した。(通年)
 - ② 発生した医療安全问题について、必要に応じて関係者を招集し、問題点の検証や以後の対策を組織として決定し、実践した。(通年)
 - ③ パソコンによる医療問題の発生源入力システム safe master を利用した問題事例の収集と分析を通じ、再発防止策を立案し実践した。(通年)
 - ④ 基礎研修、一般研修、専門研修の 3 部門より構成されるリスクマネジメント教育・研修計画を策定し、年度内に一人 2 回以上の出席を目標に出席ポイント制度を運用した。また、出席時に配布するシールを各部署の一覧表に貼付して管理した。(通年)
 - ⑤ 都内の特定機能病院における医療安全推進対策の向上と病院間連携を目的とした、私立大学病院医療安全推進連絡会議の幹事校を担当し、大学間相互ラウンド、メディエーター研修会、自治医大の見学等を実施した。(通年)
 - ⑥ システム工学の見地からみた医療問題分析手法について、東大・早大・慈恵共同研究を継続した。(通年)
 - ⑦ 医療安全院内ラウンドを実施した。
 - ・全外来・中央診療部門、病棟、手術部門、診療支援部門対象ラウンド (通年)
 - ・附属病院間の相互ラウンド (各病院訪問、来訪各々 1 回、計 6 回)
 - ・私立大学病院間の相互ラウンド (訪問 2 回、来訪 1 回、計 3 回)
 - ⑧ 全ての教職員や委託・派遣職員に対し、携帯版リスクマネジメントマニュアルを配布し、医療安全に必要な事項の周知徹底を図った。(平成20年 4 月)
 - ⑨ 愛宕警察署への異状死の届出ガイドラインを改訂した。(平成20年 4 月)
 - ⑩ 輸血拒否患者対応ガイドラインを制定した。(平成20年 5 月)
 - ⑪ 医療安全推進週間を実施した。(平成20年11月)
 - ・患者向けの「安全な医療にご協力いただくために」のリーフレットを作成し配布した。
 - ・医療安全のシンボル「みどりのリボン」を全ての教職員、学生、委託職員が着用した。
 - ・4 病院合同リスクマネジメントシンポジウム等の教育・研修企画を実施した。
 - ・4 病院合同災害対策訓練を実施した。
 - ・各部署で行っている医療安全対策について検討し、69 部署からの回答を得た。
 - ・医療安全院内ラウンドを薬剤部、栄養部、臨床工学部にて実施した。
 - ⑫ 患者向けの医療安全対策のポイントをまとめたリーフレット「安全な医療にご協力いただくために」を作成し入院患者に配布した。(平成20年11月)
 - ⑬ 麻酔部門の更なる安全管理の徹底を目的に麻酔部門チーフリスクマネージャーを任命した。(平成20年12月)
 - ⑭ 手術部位の誤認防止慈恵版マーキング実施マニュアルを制定した。(平成21年 3 月)
 - ⑮ 医療安全対策を周知徹底した。
 - ・日本医療機能評価機構医療事故情報収集事業「医療安全情報」を周知徹底した。(通年)

- ・転倒・転落発生後の対応ガイドラインを制定した (平成20年4月)
 - ・処方オーダーにおける小児薬用量のチェックの徹底を注意喚起した。 (平成20年5月)
 - ・カルテ共有台紙「有害事象情報」を導入した。 (平成20年5月)
 - ・抗凝固薬・抗血小板作用薬の休薬、周術期使用、再開に関する指針を制定した。 (平成20年6月)
 - ・ワクチン接種における運用と予防接種マニュアルを制定した。 (平成20年6月)
 - ・輸液ミキシング及び施行時のダブルチェックの徹底を注意喚起した。 (平成20年6月)
 - ・医療機器の保守点検・安全使用に関する管理手順書を改訂した。 (平成20年7月)
 - ・医薬品の有効期限の適正管理を注意喚起した。 (平成20年8月)
 - ・食物アレルギー患者配膳トレーを変更した。 (平成20年9月)
 - ・医薬品安全使用のための業務手順書を改訂した。 (平成20年9月)
 - ・医療機器借用時の事前手続を周知徹底した。 (平成20年9月)
 - ・MR オーダ時・検査時の金属等の確認を周知徹底した。 (平成20年11月)
 - ・ジャクソンリリース回路使用時の確認を周知徹底した。 (平成20年12月)
 - ⑩ 食事による誤嚥や窒息等を防止する食事について注意喚起した。 (平成21年1月)
- (11) 院内感染対策
- ① サーベイランスの実施
サーベイランスを行い医療処置感染の発生状況の把握とフィードバックを実施した。
 - ② 感染対策強化病棟への介入
耐性菌検出や創感染などの多い部署のフロアリスクマネージャー、リンクナースとミーティングを行い、データのフィードバックと改善のための支援を行った。
 - ③ 抗菌薬適正使用の推進
抗MRSA薬の薬剤血中濃度(TDM)の測定を強化し、診療科へのフィードバックを行った。
 - ④ 環境の整備
処置室、器材室、リネン室の物品配置について基準を作成し整備した。
 - ⑤ 教育啓発活動
全職員に対するセミナーを8回、認定看護師オープン講座を5回、各部署別の勉強会を15回開催し、計1856名の参加を得た。
 - ⑥ 新型インフルエンザ対策
新型インフルエンザ対策小委員会を設置、フェーズ4以降のマニュアルを策定、発熱外来シミュレーションを実施した。
 - ⑦ 各附属病院との連携強化
テレビ会議システムを使用したセミナーを開催した。
本院の感染対策委員会に各附属病院から参加してもらい情報共有を図るとともに、職員の小児ウィルス性抗体価検査の実施など共通する対応を4病院で実施した。
- (12) 東京都認定がん診療病院として認定された。 (平成20年4月1日)
- (13) 3年周期で実施される厚生労働省の統計法に基づく患者調査である医療施設静態調査、患者調査医療を実施した。 (平成20年10月22日)
- (14) 保険関係承認・届出関係
- ① 診療報酬改定に伴う施設基準届出 (平成20年4月11日)
 - ② 地域連携診療計画管理料(追加の都度届出)※脳卒中連携病院の追加に伴う届出
 - ③ 冠動脈CT撮影加算及び心臓MRI撮影加算 (平成20年7月29日)
 - ④ 歯科外来診療環境体制加算 (平成20年12月1日)
 - ⑤ 外来化学療法加算1※対象病床2床増床に伴う届出 (平成20年11月27日)
 - ⑥ ハイリスク分娩管理加算 (平成20年12月26日)
 - ⑦ ハイリスク妊娠管理加算※産科補償制度加入要件追加に伴う届出 (平成20年12月26日)

- ⑧ 評価療養の届出 (平成20年 4月30日)
 その他、届出医師及び看護師の変更、実施場所の追加に伴う施設基準の届出を行った。
- (15) 患者支援・医療連携センター
- ① 東條克能診療医長（糖尿病・代謝・内分泌内科）がセンター長に就任
 (平成20年 7月より)
 - ② 橋本圭司非常勤診療医員（リハビリテーション科）が副センター長に就任
 (平成20年10月より21年 1月末日まで。人事異動により解任)
 - ③ 角田亘診療医員（リハビリテーション科）が副センター長に就任
 (平成20年10月より21年 3月末日まで。人事異動により解任)
 - ④ 宮田市郎診療医長（小児科）が副センター長に就任 (平成21年 3月より)
 - ⑤ 東京都認定がん診療病院機能強化事業として、医療連携室が窓口となりがん相談支援事業を開始 (平成20年 4月より)
 - ⑥ 後期高齢者退院調整加算算定のための退院支援計画書フォーマット作成、運用システム構築、算定開始 (平成20年 6月より)
 - ⑦ 脳卒中地域連携パスの運用を開始 (平成20年 6月より)
 - ⑧ 血管外科入院患者向け転退院事前説明用紙導入に向けての関連部署打ち合わせ、運用開始 (平成20年 6月より)
 - ⑨ 当院が港区在宅緩和ケア・ホスピスケア支援システム中核病院部会の委員に加わる
 (平成20年10月より)
 - ⑩ 患者支援・医療連携センター 3部門（在宅療養指導室、ソーシャルワーカー室、医療連携室）の一室化を図る (平成21年 1月)
- (16) 診療体制の整備
- ① 診療報酬改定に伴い、各種施設基準の届出の実施。 (平成20年 4月)
 - ② レセプトオンライン請求を開始した。 (平成20年 6月10日)
 - ③ 再来受付機の 1台を母子センターへ移設した。母子センター受診患者や中央棟での検査患者の受付処理が可能となり、患者動線の短縮が図れた。 (平成20年 8月 5日)
 - ④ 内視鏡オーダと内視鏡部門システム、手術オーダと手術部門システムが稼動した。
 (平成20年 9月 1日)
 - ⑤ SPD 業務の運用変更を行った。 (平成20年 9月 1日)
 - ⑥ 病棟テレビの更新や患者向けインターネット回線設置に伴い、個室料金の改定を行った。
 (平成20年10月 1日)
 - ⑦ 臨床研修センターが設置された。 (平成20年10月 1日)
 - ⑧ 外来患者の点滴室として「外来点滴室」を外来棟 2F に開設した。それに伴い外来棟 3F の「外来点滴治療室」は「外来化学療法室」と名称を変更した。
 (平成20年12月 1日)
 - ⑨ 大学 2号館 1階カンファレンス室をオーダリング室（PC 4台設置）に用途変更した。
 (平成21年 1月26日)
 - ⑩ 東京都脳卒中急性期医療機関に認定された。
 東京都の事業である脳卒中救急搬送体制の構築について当院も参画することとし、院内の調整を行った。平成21年 2月のモデル実施を経て平成21年 3月 9日より都内全域で実施されている。
- (17) 患者サービス
- ① 入院・外来とも患者満足度調査を実施した。 (平成21年 2月)
 - ② 入院患者向けフロアコンサート
 1. 日 時：平成20年12月 6日（土）午後 3時30分～午後 4時30分
 演 者：本学合唱部

2. 日 時：平成20年12月25日（木）午後4時～午後5時
演 者：原田 真二さん（歌手）
- ③ 患者向け広報誌「すこやかインフォメーション」第15号（平成20年4月）第16号（平成20年7月）第17号（平成20年10月）第18号（平成21年1月）を発刊した。
- ④ 「愛宕山みんなの健康教室」を開催した。※NHK 放送博物館と共催
1. 日 時：平成20年6月28日（第14回）参加者27名
2. 日 時：平成20年11月22日（第15回）参加者49名
- (18) 講演会、シンポジウムの開催について
- ① 初期臨床研修医オリエンテーション
- ・日 時：平成20年4月4日 午前11時～午後12時
テーマ：1) リスクマネジメント総論
2) インフォームド・コンセントについて
3) 携帯版リスクマネジメントマニュアルの説明
- ② 4病院合同慈恵医大褥瘡セミナー
- ・日 時：平成20年11月11日 午後6時～午後7時35分
テーマ：『急性期病院における褥瘡対策～チーム立ち上げから今までの軌跡～』等
講 師：三富 陽子先生（京都大学医学部附属病院看護部管理室 看護部師長）
- ③ 4病院合同リスクマネジメントシンポジウム（合計2回開催）
- ・日 時：平成20年11月4日（月）午後6時～午後7時30分 テレビ会議システム
テーマ：医療の質、安全の質（本院主催）
 - ・日 時：平成21年3月9日（月）午後6時～午後7時 テレビ会議システム
テーマ：医療安全推進週間で実施した各部署の改善報告会（第三病院主催）
- ④ リスクマネジメント基礎研修会
- ・日 時：第1回 平成20年4月18日（金）第2回 平成20年5月20日（火）
第3回 平成20年10月20日（月）午後5時30分～午後6時30分
テーマ：リスクマネジメント総論、携帯版リスクマネジメントマニュアルについて
- ⑤ 東大・早大・慈恵共同研究発表
- ・日 時：平成20年11月26日（水）午後5時30分～午後7時
テーマ：1) 医療安全のための業務プロセス可視化ユニットプロセス構造化を通じた原因特定と改善手法
2) ユニットプロセス構造化を通じた患者ID間違い発生状況の分析
- ⑥ 薬剤・感染セミナー
- ・日 時：第1回 平成20年6月30日（月）午後6時～午後7時
テーマ：1) 抗菌薬とは
2) アナフィラキシーショックについて
3) 抗MRSA薬の使い方
 - ・日 時：第2回 平成20年12月11日（木）午後6時～午後7時
テーマ：1) 医薬品業務手順書について
2) TDMとは？
3) ノロウイルスの感染について
- ⑦ 感染対策セミナー
- ・日 時：第1回 平成20年7月7日（月）午後6時～午後7時
テーマ：抗菌薬耐性－特にβラクタマーゼについて－
 - ・日 時：第2回 平成21年2月3日（火）午後6時～午後7時
テーマ：新型インフルエンザによるパンデミックへの対応－医療機関における対応－
- ⑧ 転倒転落の講習会
- ・日 時：第1回 平成20年7月9日（水）午後6時～午後7時

テーマ：考えてみよう！ 行動してみよう！ 転倒予防！

- ・日 時：第2回 平成21年2月2日（月）午後6時～午後7時
テーマ：これだけは知っておこう！転倒予防

⑨ リスクマネジメント研修会

- ・日 時：平成20年9月22日（月）午後6時～午後7時
テーマ：医療時事故の初期対応～訴えられないために～

⑩ 医療安全ワークショップ

- 日 時：平成20年4月18日（土）午後1時～午後5時 参加者 104名
- 日 時：平成20年8月16日（土）午後1時～午後5時 参加者 109名
- 日 時：平成20年9月20日（土）午後1時～午後5時 参加者 84名
- 日 時：平成21年1月17日（土）午後1時～午後5時 参加者 68名

⑪ 医療機器の安全使用講習会（通年開催）延べ参加者：534名

(19) 慈恵 ICLS コース, 慈恵 BLS コース

① 心肺停止患者に対する適切な救急蘇生の手技教育「慈恵 ICLS コース」（年間5回）

- 日 時：平成20年5月25日（日）午前8時30分～午後6時 青戸病院
- 日 時：平成20年7月27日（日）午前8時30分～午後6時 本院
- 日 時：平成20年9月28日（日）午前8時30分～午後6時 本院
- 日 時：平成20年11月30日（日）午前8時30分～午後6時 柏病院
- 日 時：平成21年1月25日（日）午前8時30分～午後6時 第三病院

② 初期心肺蘇生術の講習会「慈恵 BLS コース」を年間18回開催した。

(20) 鏡視下手術トレーニングコース

鏡視下手術を行う外科系医師の育成、認定を行う独自の制度である鏡視下手術トレーニングコース認定試験を実施した。(STEP 1計4回、STEP 2計4回)

(21) 東京都赤十字血液センターによる献血が実施され、過去最高の献血者数となった。

献血者138名（申込者数173名）（平成21年2月4日）

(22) 慈恵医大晴海トリトニッククリニック（所長：阪本要一）

平成20年度の患者数実績は、1日平均外来患者数140.2人（昨年比-2.9人）、うち健診は27.2人（昨年比+0.5人）である。

(2) 青戸病院（院長：伊藤 洋、副院長：吉田和彦、蔵田英明、事務部長：横山秀彦）

(1) 病床利用率

- ① 平成20年度の病床利用率は、稼働床352床に対して88.8%、平均在院日数は11.9日であった。

(2) 患者紹介率

- ① 平成20年度の患者紹介率は医療法で46.9%、保険法で44.5%であった。

(3) 患者サービス

- ① 平成20年9月8日より、入院患者に対してお見舞いカードの発行を開始した。
- ② 平成20年10月18日、教職員有志によるフロアコンサートを開催した。
- ③ 平成21年2月21日、教職員有志によるフロアコンサートを開催した。

(4) 医療連携

- ① 平成20年4月、東京都からの受託事業である、区東北部糖尿病医療連携検討会の座長（糖尿病・代謝・内分泌内科 蔵田診療部長）及び事務局を継続受託した。
- ② 平成21年2月より、紹介元医療機関を対象に登録医制度を開始した。
- ③ 平成21年1月～3月にかけて、病病連携構築のため近隣3医療機関を訪問した。

(5) 受託事業

- ① 平成20年10月、東京都からの受託事業である、平成20年度東京都看護職員地域確保支援事業を受託した。

(6) 青戸病院リニューアル

- ① 平成20年5月20日、青戸病院リニューアルについて、第1回の教職員対象説明会を開催した。
- ② 平成20年6月22日及び6月25日に都市計画法第16条説明会を葛飾区主催にて開催した。
- ③ 平成20年7月29日、第2回の教職員対象説明会を青戸病院納涼会の中で実施した。
- ④ 平成20年10月21日、第3回の教職員対象説明会を開催した。
- ⑤ 平成20年12月20日、第4回の教職員対象説明会を青戸病院忘年会の中で実施した。
- ⑥ 平成21年1月13日、第5回の教職員対象説明会を開催した。
- ⑦ 平成21年3月14日～15日、青戸病院リニューアルTFフェーズⅣのキックオフミーティングを開催した。

(7) 指導・監査

- ① 平成21年1月6日、東京都福祉保健局医療政策部医療安全課による医療法第2条の規定に基づく立入検査及び放射線使用施設を有する病院に対する立入検査が実施された。

(8) 防火・防災

- ① 平成20年7月31日、本館3階3B病棟において第1回防火訓練を実施した。
- ② 平成20年10月29日、本田消防署管内での自衛消防隊訓練審査会が開催され、青戸病院隊が優勝した。
- ③ 平成20年11月6日、4病院合同防災訓練及び講演会を実施した。
- ④ 平成21年2月4日、外部講師によるトリアージに関する講習会を開催した。
- ⑤ 平成21年3月12日、本館4階4C病棟において第2回防火訓練を実施した。

(9) 病床運用

- ① 平成20年12月1日、全科・全病床のベッドコントロールについて、業務課より看護部への移管が完了した。

(10) 医療安全推進

- ① 平成20年4月3日、1年目研修医を対象に医療安全研修を開催した。
- ② 平成20年4月21日、5月26日、新入・転入教職員を対象にリスクマネジメント基本研修を開催した。
- ③ 平成20年5月26日、慈恵 ICLS 青戸コースを開催した。
- ④ 平成20年6月18日、「磐田市立総合病院での5S活動の取り組み」についての講演会を開催した。
- ⑤ 平成20年10月26日、青戸共和会主催の防災訓練で心肺蘇生法の実技指導を行った。
- ⑥ 平成20年11月4日～15日、医療安全週間を実施した。
- ⑦ 平成20年11月4日、4病院合同リスクマネジメントシンポジウムを開催した。
- ⑧ 平成20年11月6日、4病院合同災害対策訓練の実施及び特別講演を開催した。
- ⑨ 平成20年11月11日、褥瘡セミナーを開催した。
- ⑩ 平成20年11月12日、4病院合同感染対策セミナーを開催した。
- ⑪ 平成20年11月26日、慈恵、東大、早大共同研究会を開催した。
- ⑫ 平成20年11月4日～11月22日、院内医療安全ラウンドを実施した。
- ⑬ 平成20年11月11日～11月18日、院内5S活動コンテストを実施した。
- ⑭ 平成20年12月5日、転倒・転落防止対策セミナーを開催した。
- ⑮ 平成21年1月6日、青戸病院における新型インフルエンザ対策についての講演会を開催した。
- ⑯ 平成21年2月2日、4病院合同転倒・転落勉強会を開催した。
- ⑰ 平成21年3月9日、青戸中学校において3年生を対象としたBLS+AED講習会を開催した。
- ⑱ 平成21年3月9日、4病院合同リスクマネジメントシンポジウムを開催した。
- ⑲ 平成20年度のBLS+AED講習会を平成20年5月～平成21年3月の期間で計9回開催された。

- (11) 成医会青戸支部例会開催
- ① 平成20年6月21日(土)第100回青戸支部例会
 - ② 平成20年12月20日(土)第101回青戸支部例会
- (12) 青戸病院公開カンファレンス開催
- ① 第14回 平成20年4月23日(水)担当科:消化器・肝臓内科、外科
 - ② 第15回 平成20年6月25日(水)担当科:外科、放射線部
 - ③ 第16回 平成20年10月22日(水)担当科:呼吸器内科、外科
 - ④ 第17回 平成21年2月25日(水)担当科:糖尿病・代謝・内分泌内科、眼科
- (13) 青戸病院公開健康セミナー開催
- ① 第23回 平成20年6月7日(土)「ストップ!ザ肥満! 太りすぎは万病のもと」
 - ② 第24回 平成20年12月6日(土)「あなたは元気に歩けていますか?
～寝たきり生活を防ぐには～」
- (14) メディカルカンファレンス
- ① 第60回 平成20年6月21日(土)
「青戸病院における総合内科の役割と将来像」
- (15) 症例検討会(CPC)開催
- ① 第32回 平成20年7月9日(水)担当科:脳神経外科
「脳腫瘍術後、カリニ肺炎で死亡した一例」
 - ② 第33回 平成20年10月8日(水)担当科:腎臓・高血圧内科
「ネフローゼ症候群に、MRSA感染症を合併した一例」
 - ③ 第34回 平成20年12月1日(月)担当科:外科
「食道癌術後、肝不全・縫合不全疑いにて死亡した一例」
 - ④ 第35回 平成21年2月24日(火)担当科:消化器・肝臓内科
「減黄に苦慮し、胆道感染を繰り返した肝門部胆管癌の一例」
- (16) 工事関係
- ① 別館1階血管撮影装置移設に伴う改修工事 平成20年5月完了
 - ② 第2別館3階救急部医師控室設置に伴う改修工事 平成20年6月完了
 - ③ 本館3・4階病棟各所空調設備増設工事(10室) 平成20年5～10月完了
 - ④ 本館2階手術部各手術室HEPAフィルター他整備工事 平成21年3月完了
 - ⑤ 本館1階救急医師控室移設及び栄養部相談・術前指導室の移転に伴う付帯工事 平成21年3月完了
- (17) 医事システム
- ① 平成20年7月1日、医事システムを更新した。(新医事システム HIHOPS-MA 稼動)
- (18) 保険請求関係
- ① 平成20年7月1日入院患者より、DPC請求を開始した。
 - ② 平成20年11月診療分より、レセプトのオンライン請求を開始した。
- (3) 第三病院(院長:坂井春男、副院長:伊藤文之、根津武彦、中村 敬、事務部長:井出晴夫)
- 平成20年4月1日 新入職員就任式(本院)
- 平成20年4月2日 研修医オリエンテーション
- 平成20年4月15日 第44回医療セミナー「DPC導入を成功させるために」
- 平成20年4月23日 第三ホスピタル寄席「立川志の吉」
- 平成20年5月18日 調布市不発弾処理
- 平成20年5月22日 第14回第三病院医療連携フォーラム「脳卒中地域連携パスについて」
- 平成20年5月24日 蓄音機によるレコードコンサート開催
- 平成20年5月31日 こまえ市民大学講座「白内障とはどんな病気?ー症状と治療ー」
- 平成20年5月31日 青戸病院学内横断的タスク・フォース活動報告会 TV 会議

平成20年 6月14日 第29回公開健康セミナー「メタボと糖尿病－あなたはりんご型？洋なし型？－」

平成20年 6月17日 日赤献血実施

平成20年 6月18日 ボイラー更新安全祈願

平成20年 6月20日 狛江市長選挙不在者投票

平成20年 6月20日 狛江救急業務連絡協議会総会

平成20年 6月23日 平成21年度研修医採用説明会

平成20年 6月24日 DPC 導入説明会

平成20年 6月25日 教職員健康診断開始

平成20年 6月28日 こまえ市民大学講座「メタボリックシンドロームと生活習慣病－予防と治療－」

平成20年 7月 4日 第103回 成医会第三支部例会ポスター発表、特別講演会

平成20年 7月 5日 第三病院七夕コンサート開催

平成20年 7月15日 第三病院施設内全面禁煙実施

平成20年 7月22日 第45回医療セミナー「第三病院夏の BigDebate 第三病院の高齢者医療を考える」

平成20年 7月25日 第三病院納涼会

平成20年 7月29日 狛江消防署立入検査

平成20年 9月 6日 室内楽ロビーコンサート開催

平成20年 9月 9日 東京都立入検査

平成20年 9月11日 狛江消防署より救急業務感謝状授与（河野診療部長）

平成20年 9月13日 調布市内・近隣大学等公開講座「今から間に合う「胃がん」予防法－原因と最新治療－」

平成20年 9月30日 第46回医療セミナー「緩和ケアについて考える」

平成20年10月 8日 調布市内・近隣大学等公開講座「シミやしわに負けない肌対策－若々しく健やかな肌を保つには－」

平成20年10月18日 第30回公開健康セミナー「インフルエンザと胃腸炎の予防－風邪に負けない体づくりをしよう！－」

平成20年10月23日 第15回第三病院医療連携フォーラム「発熱疾患の診療」

平成20年11月 2日 第3回ホスピタル・フェア開催

平成20年11月 5日 自衛消防訓練審査会 優秀賞受賞

平成20年11月12日 調布市内・近隣大学等公開講座「心臓病の予防と治療－なくなる狭心症・心筋梗塞－」

平成20年11月19日 防災訓練

平成20年11月22日 ピアノコンサート開催

平成20年11月28日 慈恵大学と調布市との友好協力調印式

平成20年12月 5日 第104回 成医会第三支部例会ポスター発表、特別講演会

平成20年12月 5日 第三病院忘年会

平成20年12月13日 クリスマスコンサート開催

平成20年12月14日 狛江・調布・成城消防署と第三病院との救急業務連絡会

平成20年12月16日 第47回医療セミナー「より良い患者対応を目指して－ホテルの経験と患者さんの声より伝えたいこと」

平成21年 1月28日 病院機能評価訪問審査

平成21年 1月29日 病院機能評価訪問審査

平成21年 1月30日 病院機能評価訪問審査

平成21年 1月31日 新春落語会開催

平成21年 2月 7日 劇団俳優座有志による出前ミュージカル開催

平成21年 2月18日 東京都による放射線立入検査
 平成21年 2月18日 東京都による精神神経科立入検査
 平成21年 2月27日 第三病院診療部懇親会
 平成21年 3月 3日 日赤献血実施
 平成21年 3月 5日 防災訓練
 平成21年 3月 7日 第30回公開健康セミナー「インフルエンザと胃腸炎の予防－風邪に負けない体づくりをしよう！－」
 平成21年 3月 7日 室内楽ロビーコンサート開催
 平成21年 3月17日 第48回医療セミナー「第三病院が change！」
 平成21年 3月23日 保健診療講習会
 平成21年 3月27日 研修医研修修了式

- (4) 柏病院（院長：久保政勝、副院長：小林進、清水光行、岸本幸一、事務部長：宮崎栄一）
- 1) 平成20年度の一日平均入院患者数は516名で病床利用率は使用床598床（平成20年 4月 1日現在）に対して88.2%、1人平均在院日数は14.8日であった。
 - 2) 平成20年 6月 4日 難病相談・支援センター事業の一環として、平成20年度第1回吸引実技研修会を開催した。
 - 3) 平成20年 6月16日 財団法人日本医療機能評価機構による ver. 5 の認定を受けた。
 - 4) 平成20年 6月18日 第24回柏病院 CPC を開催した。
 - 5) 平成20年 6月21日 第12回地域医療連携フォーラムを開催した。
 - 6) 平成20年 7月 1日 DPC を導入した。
 - 7) 平成20年 7月 1日 外来化学療法室を開設した。
 - 8) 平成20年 7月 5日 第38回成医会柏支部例会を開催した。
 - 9) 平成20年 7月 7日 大規模災害対策訓練を実施した。
 - 10) 平成20年 7月30日 納涼盆踊り大会を開催した。
 - 11) 平成20年10月 3日 柏市自衛消防隊競技会が開催された。
 - 12) 平成20年10月21日 千葉県柏市保健所による医療監視が行われた。
 - 13) 平成20年10月22日 トリアージ訓練を実施した。
 - 14) 平成20年11月 6日 東葛北部地域難病相談・支援センター事業の一環として、口腔ケア講演会を開催した。
 - 15) 平成20年11月19日 第25回柏病院 CPC を開催した。
 - 16) 平成20年12月 3日 東葛北部地域難病相談・支援センター事業の一環として、平成20年度第2回吸引実技研修会を開催した。
 - 17) 平成20年12月 6日 第39回成医会柏支部例会を開催した。
 - 18) 平成20年12月11日 消防訓練を実施した。
 - 19) 平成20年12月26日 病院忘年会を開催した。
 - 20) 平成21年 2月 1日 オンライン請求による医療費保険請求を開始した。
 - 21) 平成21年 2月17日 保険診療講習会を開催した。
 - 22) 平成21年 2月25日 診療費自動精算機を1階ロビーに設置した。
 - 23) 平成21年 3月 4日 合同消防訓練を実施した。
 - 24) 保険関係承認・届出関係
 - ① 平成20年 4月14日 医療費改定に伴う届出を行い、全20項目（急性期脳卒中加算 他19項目）全て受理され、4月1日からの算定が可能となった。
 - ② 平成20年 5月 1日 本館2階の男子更衣室・生涯教育室・当直室等を外来化学療法室への変更許可を取得、平成20年 6月24日使用許可を得た。

- ③ 平成20年 5月21日 手術室・ICU・CCU 拡張改修工事の許可を取得し、下記の通り使用許可を得た。
 平成20年 6月23日 5 C病棟
 平成20年 9月 5日 CCU 6床
 平成20年11月25日 ICU14床のうち7床
 平成21年 2月23日 ICU14床
 上記の使用許可取得に伴い CCU 床は、平成20年10月 1日より従来の5床から6床として、特定集中治療室管理料の算定を開始した。
 ICU 床は、平成21年 3月 1日より従来の7床から14床として特定集中治療室管理料の算定を開始した。
- ④ 平成20年 9月 1日より後期高齢者退院調整加算の算定を開始した。
- ⑤ 平成21年 3月 1日より病棟改修工事の終了に伴い、届出病床数が640床から624床へ変更となった。また、稼動病床数も577床から583床へ変更した。

25) 医療連携関係

- ① 平成20年 6月18日 第24回症例検討会（CPC）「クロイツェルトヤコブ病の一例」を開催した。
- ② 平成20年 6月21日 第12回地域医療連携フォーラム市民向け公開健康講座「緩和ケアと宗教」と題して慈恵柏看護専門学校講堂にて開催した。
- ③ 平成20年11月19日 第25回症例検討会（CPC）「慢性 DIC を合併した胸部動脈瘤の一例」を開催した。
- ④ 画像診断検査の Web による予約登録は新たに1施設が追加となり、11施設で実施している。
- ⑤ 平成20年 7月～9月にかけて東葛北部医療圏の5医師会（柏・流山・我孫子・野田・松戸）を訪問し、柏病院連携登録医・連携登録病院制度の説明を行った。約280の施設より登録の申し出があり、登録証の発行を行った。
- ⑥ 平成20年12月～平成21年 3月にかけて幹部職員による医療施設訪問を行った。（訪問施設数159施設）

26) 地域がん診療連携拠点病院関係

- ① 平成20年 8月21日 第2回がん・緩和ケア交流会「リンパマッサージ講習会」を開催した。
- ② 平成20年12月 6日 第1回市民公開講座「タバコと健康」を開催した。
- ③ 平成20年12月11日 第1回がん診療連携懇談会を開催した。
- ④ 平成21年 1月22日 第3回がん・緩和ケア交流会「口腔ケア」を開催した。
- ⑤ 平成21年 1月31日 第2回市民公開講座「大切な存在と思えるために（緩和医療講演会）」を開催した。

27) 工事関係

- | | |
|------------------------|------------|
| ① 多目的会議室設置 | 平成20年 5月完了 |
| ② 認定看護師室整備 | 平成20年 5月完了 |
| ③ 外来化学療法室改修 | 平成20年 5月完了 |
| ④ 看護棟冷温水発生機更新 | 平成20年 6月完了 |
| ⑤ 5 C病棟改修 | 平成20年 6月完了 |
| ⑥ 焼却炉解体整備 | 平成20年 8月完了 |
| ⑦ CCU 病棟改修 | 平成20年 9月完了 |
| ⑧ ICU 病棟改修 | 平成21年 2月完了 |
| ⑨ 手術部記録撮影室ホルマリン対策 | 平成21年 2月完了 |
| ⑩ 本館空調用膨張タンク更新 | 平成21年 3月完了 |
| ⑪ 病棟ファンコイル・フローア-空調設備更新 | 平成21年 3月完了 |

- | | |
|---------------------|-----------|
| ⑫ 空調設備用ポンプ類インバーター導入 | 平成21年3月完了 |
| ⑬ 病棟便所・浴室系統排気設備更新 | 平成21年3月完了 |
| ⑭ 上水・雑用水高架水槽配管補修 | 平成21年3月完了 |

28) 病床数および外来

① 病床数（使用床） (平成20年4月1日現在)

個	室	55
2	人室	42
3	人室以上	501
合	計	598
比率（内科系：外科系）		36：64

② 病床数（届出床） (平成20年4月1日現在)

個	室	76
2	人室	64
3	人室以上	500
合	計	640
比率（内科系：外科系）		36：64

29) 1日平均外来患者数 (平成20年度)

外来患者数	1,585
-------	-------

(5) 総合健診・予防医学センター

センター長 錢谷 幹男
 新橋健診センター 所長 和田 高士
 晴海健診センター 所長 阪本 要一

1) 20年度実績（新橋健診センター）

年間受診者 14,444名

（内訳）

* 人間ドック	7,970名
* 入社健診	1,244名
* 定期健診	2,934名
* 特殊検診	1,181名
* 予防接種	770名
* その他	345名

2) 契約企業対象の健康医学セミナーを毎年開催している。

平成20年度は、平成21年2月20日（金）に開催した。参加人数は52名であった。講演内容は「新型インフルエンザの傾向と対策について」多田有希子先生（慈恵医大56年卒）が講演した。

3) 平成20年4月から特定健診診査・特定保健指導を開始した。

(6) 病床数および外来患者数

(1) 病床数 (使用床)

(平成21年4月1日現在)

	本 院	青 戸	第 三	柏	合 計
個 室	289	26	64	67	446
2 人 室	6	38	36	40	120
3 人 室 以 上	753	299	509	476	2,037
合 計	1,048	363	609	583	2,603
比率 (内科系 : 外科系)	42 : 58	44 : 56	56 : 44	38 : 62	

(2) 病床数 (届出床)

(平成21年4月1日現在)

	本 院	青 戸	第 三	柏	合 計
個 室	294	26	73	86	479
2 人 室	6	38	42	62	148
3 人 室 以 上	775	326	515	476	2,092
合 計	1,075	390	630	624	2,719
比率 (内科系 : 外科系)	42 : 58	44 : 56	56 : 44	38 : 62	

(3) 平成20年度診療実績

(平成20年度)

	本 院	青 戸	第 三	柏	晴海トリトン	合 計
一日平均外来患者数	2,931	1,054	1,451	1,585	146	7,167
一日平均入院患者数	887	313	517	516		2,233
利用率 (稼働床)	84.7	88.8	84.8	88.2		85.5
予算達成率	104.6	103.8	99.2	99.0	104.8	102.3
紹介率 医療法	53.2	46.9	39.8	628	9.9	
〃 保険法	46.5	44.5	34.2	53.2	4.1	

2) 派遣・関連病院関係

(1) 大学協力病院 (5病院)

(平成21年4月1日現在)

	病 院 名	院 長	副 院 長	常勤医数 (慈恵関係者)	病 床 数
1	国立病院機構 西埼玉中央病院	竿代 丈夫 (昭45)	池内 健二 (昭57)	41 (21)	325
2	富士市立中央病院	山田 治男 (昭43)	永井 素大 (昭45) 笠井 健司 (昭56) 鈴木 康之 (他学) 鈴木 優子 (看護)	72 (59)	596
3	厚木市立病院	田代 和也 (昭51)	太田 秀臣 (昭49) 吉塚 弥生 (看護)	47 (41)	356
4	町田市民病院	事業管理者 四方 洋 院長 近藤 直弥 (昭53)	佐藤 裕 (他学) 羽生 信義 (昭53) 金崎 章 (昭56) 櫻本千恵子 (他学)	72 (22)	458
5	東 急 病 院	徳留 悟朗 (昭56)	筋野 甫 (昭54)	23 (24)	135

※大学協力病院の指定要件は次の通りである。

- 1) 院長または副院長等の主要ポストが得られること
- 2) 人事などに大学の意向が反映されること

(2) 教室等関連病院 (○印：大学協力病院)

<p>内科学講座</p> <p>○ 国立病院機構西埼玉中央病院 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 社会保険大宮総合病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 国立病院東京医療センター 東京通信病院</p>	<p>京橋病院 国立病院機構東埼玉病院 横須賀うわまち病院 太田総合病院</p> <p>※糖尿病・代謝・内分泌内科</p> <p>川口市立医療センター 衣笠病院 川崎臨港病院 町立津南病院</p>	<p>社会保険川崎中央病院 都立清瀬小児病院 湘南病院 国立成育医療センター 都立大塚病院 神奈川県立こども医療センター 狭山病院 葛飾赤十字産院 多摩南部地域病院</p>
<p>※消化器・肝臓内科</p> <p>○ 東急病院 国立病院機構相模原病院 虎ノ門病院 松下電器東京健康管理センター 立川中央病院 川口市立医療センター 埼玉慈恵病院 早期胃癌検診協会 松島病院大腸肛門病センター</p>	<p>※血液・腫瘍内科</p> <p>川口市立医療センター 癌研究会附属病院 衣笠病院</p>	<p>皮膚科</p> <p>○ 厚木市立病院 東京警察病院 NTT 東日本関東病院 東京通信病院</p>
<p>※神経内科</p> <p>川崎臨港病院 国立精神・神経センター武蔵病院 亀田総合病院 兵庫県立高齢者脳機能センター 姫路循環器病センター 国立国際医療センター 日本赤十字社医療センター</p>	<p>※呼吸器内科</p> <p>国立国際医療センター 国立病院機構東京病院 埼玉県立循環器呼吸器病センター 国立がんセンター中央病院</p>	<p>放射線科</p> <p>○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 神奈川県立汐見台病院 放射線医学総合研究所 日赤医療センター 大田原赤十字病院 JR 東京総合病院 都職員共済組合青山病院 松下電器東京健康管理センター 癌研究会附属病院 星総合病院 都立荏原病院 東京歯科大学市川総合病院 東京労災病院 立川総合病院 藤沢市民病院 立川中央病院 聖マリアンナ医科大学</p>
<p>※腎臓・高血圧内科</p> <p>○ 東急病院 済生会中央病院 益子病院 中野江古田病院 東京都老人医療センター 川口市立医療センター 沼津市立病院 養生会かしま病院</p>	<p>精神医学</p> <p>○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 栃木県精神保健センター 松下電器東京健康管理センター 北辰病院 横手興生病院 湘南病院 成増厚生病院 成田病院 総武病院 東条病院 放射線医学総合研究所 西熊谷病院 国立成育医療センター 常心会川室記念病院 栃木県立岡本台病院 豊後荘病院 久喜すずの木病院 高田西城病院 那須高原病院 両毛病院 河津浜病院 芳野病院 光生会平川病院</p>	<p>外科</p> <p>○ 国立病院機構西埼玉中央病院 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 ○ 東急病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 社会保険大宮総合病院 癌研究会附属病院 埼玉慈恵病院 湘南病院 川口市立医療センター 総合高津中央病院 賛育会病院 藤村病院 春日部中央総合病院 守谷慶友病院 藤立病院 金町中央病院</p>
<p>※リウマチ・膠原病内科</p> <p>国立病院機構相模原病院</p>	<p>小児科</p> <p>○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 国立病院機構相模原病院 埼玉県立小児医療センター 町立津南病院 都立北療育医療センター</p>	
<p>※循環器内科</p> <p>○ 東急病院 埼玉県立循環器呼吸器病センター 松下電器東京健康管理センター 衣笠病院 魚沼病院 湘南病院 聖隷三方原病院 大洗海岸病院 国立がんセンター中央病院 町立津南病院 東京武蔵野病院 古川橋病院</p>		

青山病院 麻生病院 川崎市立川崎病院 国立成育医療センター 佐々木病院 日比谷病院 第三北品川病院 安田病院 市川第二病院 益子病院 東葛辻仲病院 武蔵野総合病院 行田中央病院 佐倉中央病院	産婦人科 ○ 国立病院機構西埼玉中央病院 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 茅ヶ崎市立病院 深谷赤十字病院 杏雲堂病院 太田総合病院 国立成育医療センター 立正佼成会附属佼成病院 東京顕微鏡院附属病院 谷津保健病院 都健康推進財団多摩がん検診センター 横浜市立みなと赤十字病院	大森赤十字病院 太田総合病院 東京共済病院 東京厚生年金病院 東京歯科大学市川総合病院 都立豊島病院 同愛記念病院 国立がんセンター東病院 東部地域病院 総合病院国保旭中央病院 東京臨海病院
整形外科 ○ 国立病院機構西埼玉中央病院 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 東急病院 神奈川県リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 都職員共済組合青山病院 第三北品川病院 とちぎリハビリテーションセンター 都立豊島病院	泌尿器科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 社会保険大宮総合病院 星総合病院 JR 東京総合病院 東京都リハビリテーション病院 平塚共済組合病院 立正佼成会附属佼成病院 国立成育医療センター 栃木県立がんセンター	麻酔科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 ○ 東急病院 川口市立医療センター 国立病院機構宇都宮病院 社会保険大宮総合病院 神奈川県立汐見台病院 東京北社会保険病院 埼玉県立循環器呼吸器病センター
脳神経外科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 東大宮病院 秋葉病院 麻生病院 宇都宮第1病院 大森赤十字病院 聖マリアンナ医科大学病院 明徳会佐藤第一病院	眼科 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 ○ 東急病院 神奈川県リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 国立病院機構相模原病院 東京労災病院 国立病院東京医療センター 田中農協病院 二本松眼科病院 八潮中央総合病院 衣笠病院 新松戸中央総合病院 国立身体障害者リハビリテーションセンター 東京警察病院	リハビリテーション科 神奈川県リハビリテーション病院 国立病院機構宇都宮病院 聖隷三方原病院 東京通信病院 中伊豆リハビリテーションセンター 都立大塚病院 都立豊島病院 都立墨東病院 とちぎリハビリテーションセンター 東京都リハビリテーション病院
形成外科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 東京厚生年金病院 第三北品川病院 都立駒込病院 本島総合病院	形成外科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 東京厚生年金病院 第三北品川病院 都立駒込病院 本島総合病院	病理学 ○ 国立病院機構西埼玉中央病院 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 立正佼成会附属佼成病院 国立病院機構千葉東病院
心臓外科 ○ 富士市立中央病院 ○ 町田市民病院 埼玉県立循環器呼吸器病センター 埼玉県立小児医療センター 横浜総合病院 都立豊島病院 佐久総合病院 新東京病院 都立清瀬小児病院	形成外科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 東京厚生年金病院 第三北品川病院 都立駒込病院 本島総合病院	歯科 ○ 町田市民病院 社会保険大宮総合病院
産婦人科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 茅ヶ崎市立病院 深谷赤十字病院 杏雲堂病院 太田総合病院 国立成育医療センター 立正佼成会附属佼成病院 東京顕微鏡院附属病院 谷津保健病院 都健康推進財団多摩がん検診センター 横浜市立みなと赤十字病院	産婦人科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 茅ヶ崎市立病院 深谷赤十字病院 杏雲堂病院 太田総合病院 国立成育医療センター 立正佼成会附属佼成病院 東京顕微鏡院附属病院 谷津保健病院 都健康推進財団多摩がん検診センター 横浜市立みなと赤十字病院	内視鏡科 益子病院 松島クリニック 社会保険中央総合病院 川村病院
産婦人科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 茅ヶ崎市立病院 深谷赤十字病院 杏雲堂病院 太田総合病院 国立成育医療センター 立正佼成会附属佼成病院 東京顕微鏡院附属病院 谷津保健病院 都健康推進財団多摩がん検診センター 横浜市立みなと赤十字病院	産婦人科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 茅ヶ崎市立病院 深谷赤十字病院 杏雲堂病院 太田総合病院 国立成育医療センター 立正佼成会附属佼成病院 東京顕微鏡院附属病院 谷津保健病院 都健康推進財団多摩がん検診センター 横浜市立みなと赤十字病院	感染制御部 神奈川県立汐見台病院
産婦人科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 茅ヶ崎市立病院 深谷赤十字病院 杏雲堂病院 太田総合病院 国立成育医療センター 立正佼成会附属佼成病院 東京顕微鏡院附属病院 谷津保健病院 都健康推進財団多摩がん検診センター 横浜市立みなと赤十字病院	産婦人科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 茅ヶ崎市立病院 深谷赤十字病院 杏雲堂病院 太田総合病院 国立成育医療センター 立正佼成会附属佼成病院 東京顕微鏡院附属病院 谷津保健病院 都健康推進財団多摩がん検診センター 横浜市立みなと赤十字病院	法医学 東京都監察医務院
産婦人科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 茅ヶ崎市立病院 深谷赤十字病院 杏雲堂病院 太田総合病院 国立成育医療センター 立正佼成会附属佼成病院 東京顕微鏡院附属病院 谷津保健病院 都健康推進財団多摩がん検診センター 横浜市立みなと赤十字病院	産婦人科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 茅ヶ崎市立病院 深谷赤十字病院 杏雲堂病院 太田総合病院 国立成育医療センター 立正佼成会附属佼成病院 東京顕微鏡院附属病院 谷津保健病院 都健康推進財団多摩がん検診センター 横浜市立みなと赤十字病院	分子生理学 東京歯科大学市川総合病院
産婦人科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 茅ヶ崎市立病院 深谷赤十字病院 杏雲堂病院 太田総合病院 国立成育医療センター 立正佼成会附属佼成病院 東京顕微鏡院附属病院 谷津保健病院 都健康推進財団多摩がん検診センター 横浜市立みなと赤十字病院	産婦人科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 茅ヶ崎市立病院 深谷赤十字病院 杏雲堂病院 太田総合病院 国立成育医療センター 立正佼成会附属佼成病院 東京顕微鏡院附属病院 谷津保健病院 都健康推進財団多摩がん検診センター 横浜市立みなと赤十字病院	産婦人科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 茅ヶ崎市立病院 深谷赤十字病院 杏雲堂病院 太田総合病院 国立成育医療センター 立正佼成会附属佼成病院 東京顕微鏡院附属病院 谷津保健病院 都健康推進財団多摩がん検診センター 横浜市立みなと赤十字病院

(3) 特殊派遣機関（9 機関）

病 院 名	科 名	病 院 名	科 名
日本航空インター ナショナル（羽田）	内 科	日本航空ジャパン	内 科
	精 神 医 学		精 神 医 学
	放 射 線 医 学		眼 科
	眼 科		耳 鼻 咽 喉 科
	耳 鼻 咽 喉 科		内 科
日本航空インター ナショナル（成田）	内 科	衆 議 院 診 療 所	皮 膚 科
	精 神 医 学		眼 科
全 日 空	内 科		出版健康保険組合診療所
	整 形 外 科	内 科	
	眼 科	眼 科	
	耳 鼻 咽 喉 科	東京国税局診療所	内 科
	内 視 鏡 科		精 神 医 学
航空医学研究センター	内 科	社会保険 新宿健診センター	外 科
	精 神 医 学		内 科
	眼 科		外 科
	耳 鼻 咽 喉 科		

(4) 特殊派遣機関（海外派遣機関）

病 院 名	科 名
英 国 ロ ン ド ン 日 本 人 ク ラ ブ	内 科
	小 児 科

6. 学術情報センター

学術情報センター長 兼平 千裕 (放射線医学) (平成19年4月より)
同 図書館国領分館長 小澤 隆一 (社会科学) (平成19年4月より)

1) 平成20年度統計 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(1) 図書館

① 蔵書冊数	247,447冊
② 現在受入雑誌数	1,053種 (和744種、洋309種)
③ 電子ジャーナル提供数	約3,700種
④ 館外貸出冊数	12,420冊
⑤ 他学との文献相互貸借数	貸出 7,020件 借受 4,878件
⑥ 複写サービス	841,332枚
⑦ 情報検索サービス	70,086件 (館内での記帳利用のみ)

(2) 国領分館

① 蔵書冊数	86,122冊
② 現在受入雑誌数	396種 (和338種、洋58種)
③ 館外貸出冊数	7,523冊

(3) 標本館

① 標本数	マクロ標本	1,735点
	顕微鏡標本	2,549点
② 視聴覚資料	ビデオ・プログラム	1,738セット
	スライド・プログラム	601セット
	16mm フィルム	37セット
	コンピュータ・ソフトウェア	52セット
	語学プログラム	204セット
	その他	79セット

(4) 史料室

見学者数 587名 (学内160名、学外427名)

(5) 写真室

① 撮影・スライド制作サービス	9件 (333枚)
② X線写真複製サービス	278件 (2,091枚)
③ ビデオ編集サービス	70件 (262時間)
④ カラープリント出力サービス	79件 (1,886枚)
⑤ 35mm スライド入力サービス	50件 (4,997枚)

2) 主な事項

(1) 医学部学生演習

医学科1年生と2年生を対象にした基礎的な情報検索演習 (医学総論) と、医学科3年生と4年生の「臨床疫学コース」の情報検索演習を担当したほか、看護学科1年生の図書館利用指導を担当した。

(2) ネットワークを介した情報提供

医学文献データベースであるMEDLINEと医学中央雑誌の新規データについて電子メールによる定期配信サービス (AutoAlert サービス) を行っているほか、新聞4誌から医療関係の記事の見出しを電子メールで配信するサービスも行っている。

(3) 蔵書点検

毎年夏に行っている図書館の蔵書点検で、本館・分館とも図書館システムの機能を活用し、例年よりも作業時間を短縮した。

- (4) 学術リポジトリの構築
学内の学術成果物を電子的に蓄積し、インターネット上に公開する学術リポジトリを構築した。東京慈恵会医科大学雑誌、Jikeikai Medical Journal、教育・研究年報、Research Activities、高木兼寛の医学、高木兼寛の生涯、Life of Kanehiro Takaki を登録した。
- (5) 東京慈恵会医科大学『教育・研究年報2007（第27号）』および『Research Activities 2007』の編集担当
標記各年報の原稿を大学ネットワーク経由で収集し、編集・出版の作業を担当した。
- (6) 医学論文書きかた講習会の開催
Jikeikai Medical Journal 編集委員会と東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会の共催で、5月9日および5月20日に岡崎真雄准教授（学術情報センター）による英語で論文執筆する際の注意点を、また5月26日に大井静雄教授（脳神経外科学講座）に「医学英語論文執筆のすすめとその書きかた」、6月3日に諏訪邦夫先生（元帝京大学麻酔科教授）に「論文を書くコツ：とにかく手をつけて、コンポーネントごとに仕上げる」と題して、それぞれ自身の経験に基づき講演いただいた。
- (7) 教材・研究資料の作製支援
学内教職員、学生、同窓生を対象に、静止画及び動画の撮影サービスをはじめ、アナログ／デジタル写真の作製、各種加工、スライド作製、ビデオ編集サービスを行っている。また35mm スライドをデジタルデータ化するサービスも行っており、パワーポイントファイル作製支援をしている。
- (8) レントゲンフィルムの複製
教育・研究の資料として、また他病院への診療情報提供、裁判所等への提出資料、病院保管に用いるレントゲンフィルムのコピーを行っている。
- (9) 広報活動支援業務
広報活動支援業務として、学内行事の撮影、保管している画像データの提供を行っている。
- (10) 標本館総合展示の開催
平成20年度は退任される安田 允教授（産婦人科学講座）に研究業績を下記の日程においてパネル展示を開催した。
実施期間：平成20年11月10日（月）～11月14日（金）
テーマ：卵巣癌の診断と治療－最近の動向
- (11) 情報技術支援業務
学事課・システム課・教育センターの職員との協力により情報技術支援業務（テレビ会議等）を継続担当している。

7. 教育センター

教育センターの目的は、卒前教育、卒後教育、生涯学習の連続性の中で、大学、附属病院を横断する教育活動を支援・実施することである。10月1日からは、初期臨床研修関係業務及び鏡視下トレーニング室関係業務を臨床研修センターに移管した。

平成20年度の本センター活動については、大学の基本方針、運営計画に基く活動として、下記事業を実施した。

- 1) 医療安全管理の推進においては、医療の安全教育ワークショップを平成20年度には、本院4回(391名)、青戸病院2回(113名)、第三病院2回(150名)、柏病院2回(142名)合計10回、796名の参加を得て開催した。なお、本ワークショップは、各分院の医療安全に結びつくようなWSを求める声が挙がり、平成21年度より、チーム医療構築ワークショップ委員会として、主管を管理課医療安全推進室としてチーム医療構築ワークショップが開催されることになった。これにより、本センター主管のSD教育は終了した。開催回数55回、総参加人数4,607名。

本事業は、17特色GP事業：テーマ「多くの職種が参加する医療者教育」の取組内容とした。

- 2) 広報活動の充実においては、本センターが主管している公開講座推進委員会主導のもと、4附属病院の独自性、自主性を保ちつつ国の私学助成の経常費補助金を利活用して、青戸病院公開健康セミナー2回(6月、11月)、第三病院公開健康セミナー2回(10月、3月)、柏病院地域医療連携フォーラム1回(6月)、他地方公共団体やNHK放送博物館等共催で、公開講座を開催支援した。

本学が主催、共催および協力した公開講座は、年間23回開催された。

これらの取り組みについては、大学の公開講座ホームページに掲載し、学内から情報の提供を広く呼びかけ情報発信も行なっている。

また、昨年度から取り組みを行なうこととした独立行政法人日本学術振興会が文部科学省の科学研究費補助金にて行われた研究内容を、中学生・高校生を対象に、科学(学術)がもつ意味に対する理解を深めてもらう機会を提供することを目的としている「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室～KAKENNI」の下記1事業に取組み、昨年度に引き続き好評を得た。

日 時：8月1日(金)、会場：7階講堂

応募者：70名、定員：30名、参加者59名、協力教員・学生：25名

講座内容：「脳の不思議を科学する！」

講師：加藤総夫教授(総合医科学研究センター神経科学部神経生理学研究室)

- 3) 本学学生、教職員の診療技能教育の充実において、本センターが主管しているスキルス・ラボ運営委員会のもと、学部学生、研修医、看護部等がスキルス・ラボの施設および機器備品貸出を利用し、診療技能教育の向上に活用した。西新橋校では32点の貸出機器備品を管理し、年間335件利用があった。国領校では17点の貸出機器備品を管理し、年間81件利用があった。
- 4) 4機関合同の教育活動の支援において、本センターが主管しているテレビ会議運営委員会主導のもと、4機関を接続したテレビ会議システムを利用して、4病院合同リスクマネージメントシンポジウムを年2回(11月、3月)、4病院合同転倒・転落の勉強会(2月)、第2回慈恵医大褥瘡セミナー(2月)、東大・早大・慈恵共同研究発表会(11月)等の教育活動を支援し、年間9回テレビ会議システムの利用があった。
- 5) 戦略的教育資金(公的資金)獲得において、文部科学省戦略的大学連携支援事業に東京慈恵会医科大学(主管)、昭和大学、東京医科大学、東邦大学の4大学で下記取組の申請を行い、採択された。

取組名称：東京都内4医療系大学連携によるカリキュラム開発と地域医療者生涯学習コース提供事業実績としては、本センターが主管して4大学責任者会議を開催した。また、第1回戦略的大学連携支援事業公開シンポジウム「医療系大学の電子教材の

共有を目指して」を3月14日（土）に南講堂で開催し、国内医療系大学11大学の49名の参加があった。

6) 特色ある教育・研究の推進においては、特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）の平成17年・19年度採択事業と現代的教育ニーズ支援プログラム（現代 GP）の平成18年度採択事業と平成19年度地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム（医療人 GP）の事業推進を行った（文部科学省 GP 事業）。開催したセミナー、ワークショップ等は次の通り。

(1) 17特色 GP 事業：テーマ「多くの職種が参加する医療者教育」

- ・医学教育セミナー『医療コミュニケーション』

日 時：平成20年10月30日（木）20名参加。会場：大学1号館5階講堂

講演内容：医療コミュニケーションと患者アウトカム

(2) 18現代 GP 事業：テーマ「現代卒前教育教材から生涯継続学習教材へ」

- ・医学教育セミナー『ITを活用した医療者教育が拓く未来』

日 時：平成20年11月11日（火）22名参加。会場：西講堂

講演内容：「ITを活用した医療者教育が拓く未来」他

- ・インターネットを利用した遠隔教育、自己学習の改善において、以下のeラーニングによる教育支援を行った。

医学科学生を対象とした教育において、1年次はコンピュータ演習（情報処理）、3年次は放射線基礎医学、4年次は医学総論Ⅳ演習（患者・医師関係と面接）、診断系・治療系・検査系実習、臨床医学演習（テュートリアル）、画像診断学、臨床腫瘍学、3年次～6年次はCPCを支援した。

看護学科学生を対象とした教育において、1年次はコンピュータ演習、2年次は情報科学、生活過程援助論Ⅱ-2、3年次は在宅ケア実習、4年次は総合実習を支援した。

また、地域医療者の生涯学習として、「緩和医療」コース、「在宅緩和ケア」コース、看護師のための「鏡視下手術機器セッティング」、研修医のための「症例検討会」を支援した。

(3) 19特色 GP 事業：テーマ「地域の教育力を活かす医療者教育」

- ・家庭医実習指導医 FD ワークショップ（第42回）

日 時：平成20年10月26日（日）6名参加。会場：E会議室

講義内容：「家庭医実習指導医 FD」福島統（教育センター長 教授）他

- ・在宅ケア実習指導者 FD ワークショップ（第43回）

日 時：平成20年11月1日（土）14名参加。会場：E会議室

講義内容：「医療者コミュニケーション・学生指導で困ったこと」

柳澤 裕之（環境保健医学講座教授）、福島統（教育センター長 教授）

- ・地域医療者 FD プログラム

日 時：5月31日（第4回）～2月21日（第10回）の7回開催、計135名参加。

会 場：本学西講堂、スキルス・ラボ講義・実習内容：「シミュレータ（Mr. Lung）による聴診」他、福島統（教育センター長教授）他

(4) 19医療人 GP 事業：テーマ「プライマリケア現場の臨床研究者の育成」

- ・「プライマリケア現場の臨床研究者の育成」ワークショップ

日 時：5月3-4日、9月13-14日、1月31-1日の3回開催、受講生12名が各回参加。

会 場：セミナーハウス クロスウェーブ東中野

講義内容：「疫学・臨床研究」松島雅人（教育センター准教授）他

- ・特別セミナー「質的研究～はじめの一步～」

日 時：8月17日開催、44名参加。会場：5階講堂

講義内容：「質的研究について」大谷尚（名古屋大学教授）

事例発表 齊藤康洋（上田クリニック院長）

8. その他

1) 成医会

(1) 第125回成医会総会は、平成20年10月9日（木）・10日（金）の2日間にわたって開催された。

① 特別講演

橋本 和弘教授（心臓外科）「心臓外科手術の進歩」

河合 良訓教授（解剖学）「微小神経回路ダイナミクスの機能的・幾何学的構成解析」

② 宿題報告

大井 静雄教授（総合母子健康医療センター）「世界視野にみた水頭症最先端の研究と実践医療及び発展途上国での治療技術指導に関する研究」

橋本 尚詞教授（解剖学）「器官形成過程における血管系の発達」

柏木 秀幸教授（消化管外科）「胃食道逆流症（GERD）の診断と治療」

和田 高士准教授（新橋健診センター）「動脈硬化の診断から予防まで」

③ シンポジウム

「画像診断の進歩」

司会 田尻 久雄（消化器・肝臓内科）

福田 国彦（放射線医学）

1. 脳神経領域における画像診断機器の進歩

村山 雄一（脳神経外科）

2. 2管球CTの冠動脈疾患への応用

阿南 郁子（循環器内科）

3. 腹部超音波診断の最前線

宮本 幸夫（放射線医学）

4. 胎児エコーの最前線

和田 誠司（産婦人科）

5. 腹部領域におけるMRIの進歩

西岡真樹子（放射線医学）

6. 三次元、四次元画像の臨床応用

鈴木 直樹（高次元医用画像工学研究所）

④ パネルディスカッション

「新外来棟の規模と機能」

司会 森山 寛（附属病院院長）

1. 病院の現況分析と今後の医療政策から

浅野 晃司（医療管理室）

2. 他施設に学ぶ

田尻 久雄（消化器・肝臓内科）

3. 諸外国に学ぶ

大木 隆生（血管外科）

4. IT（情報伝達通信）の観点より

吉村 道博（循環器内科）

5. システム工学の立場より

飯塚 悦功（東京大学工学系研究科 特任教授）

6. 特別発言「財務面からの検討」

谷口 郁夫（常務理事）

(2) 第1254回成医会例会は、平成21年2月19日（木）に行われ「生きるーパンといのちー」が講演のテーマとして選ばれた。司会は、田中忠夫（成医会運営委員長）が務め、神奈川

県立保健福祉大学名誉学長の阿部志郎先生が講演し、最後に栗原敏成医会会長（学長）が総括を行った。

- (3) 第126回成医会総会については、平成21年10月1日（木）、2日（金）の2日間にわたって開催の予定。

2) 各種行事

- (1) 平成20年4月4日（金）、平成20年度医学科および看護学科入学式を挙行了。
- (2) 平成20年7月30日（水）～8月1日（金）、宮崎県穆佐小学校学童2名、教諭2名の本学招待旅行が行われた。この行事は、昭和50年より始められ、今回で34回目となる。
- (3) 平成20年10月4日（土）、同窓会支部長会議・学術連絡会議が開催された。
- (4) 平成20年10月11日（土）、学祖高木兼寛先生の墓参を行った。
- (5) 平成20年10月18日（土）、卒業50周年を迎えた卒業生（昭33年）をお招きし、懇談の集いを開催した。
- (6) 平成20年10月28日（火）、第104回解剖諸霊位供養法会を増上寺において執り行った。
- (7) 平成21年1月31日（土）、梅澤祐二教授、安田允教授、笠原洋勇教授、鈴木皖之教授を囲んでの退任記念パーティーが行われた。
- (8) 平成21年2月17日（火）献体者遺族に対して文部科学大臣よりの感謝状伝達式を執り行った。
- (9) 平成21年3月13日（金）、第84回医学科、第14回看護学科卒業式を挙行了。

3) 印刷物等の発行

- (1) 法人誌「The JIKEI」の発行
平成20年10月に「The JIKEI13号」を発行した。
同窓、医学部父兄および120周年記念事業寄付者、医療連携病院、教職員に配布しているほか、各種説明会に使用している。
- (2) 慈恵ニュース
平成20年10月に182号、12月に183号、平成21年2月に184号を発行し教職員に配布した。
なお、平成20年度の初回発行となる182号の号外として「学校法人慈恵大学 中期目標・中期計画・平成20年度事業計画」を発行した。
- (3) 大学広報
発行なし。
- (4) 大学ガイド
平成20年6月に入試用ガイドとして「平成21年度版大学ガイド」を発行した。
- (5) 大学説明会案内ポスター
「大学ガイド」の作成に合わせ平成20年6月に大学説明会と入試日程のポスターを作成した。
高等学校、予備校等をはじめ、同窓会長、支部長、学術連絡委員に郵送し広報に関するご協力を頂いている。
- (6) 大学公報
平成20年度より総務課より業務移管され、広報課にて発行（毎月）した。
- (7) 大学ホームページ
インターネットによる情報収集が一般化し、大学ホームページの閲覧数は月平均約103万件と前年度比9.0%の大幅な増加となった。特に病院ページへのアクセス増加は、患者の病院選択においても大きな影響を与えると判断されるため、診療部等の関係各部署と協力を得てホームページ掲載内容の見直しを行い、患者ニーズに応えられるよう最新情報を掲載した。

(8) イン트라ネット

「大学・本院会議予定」、「大学・病院行事予定」、「理事会抄録」等のほか、各部署の保有する情報をイントラネット上のホームページに掲載し、学内で情報を共有し活用している。

(9) オールユーザーメールの活用

講演会、研修会等の開催のほか、教職員のテレビ・ラジオ・講演会等への出演や新聞・雑誌等への掲載情報を主として、平成20年度は321件のオールユーザーメールを発信した。

〔付〕 1. 平成20年度 事業計画に対する実施結果一覧

中 期 計 画	平成20年度事業計画	平 成 2 0 年 度 実 施 結 果
<p>I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標</p> <p>1. 教育に関する目標</p> <p>(1) 教育の成果に関する目標</p> <p>①教養教育のあり方を検討する。</p> <p>②医学科と看護学科で医療判断能力を涵養するカリキュラムを改善充実させる。</p> <p>③研究的態度を涵養するカリキュラムを改善充実させる。</p> <p>④外国語教育の充実を図る。</p> <p>⑤学生の個性を尊重した教育を実施する。</p> <p>⑥進級試験に国家試験を視野に入れるなどの改善を図る。</p>	<p>①カリキュラムを点検・評価して、教養教育のあり方を検討する。</p> <p>②医学科と看護学科の共修可能な科目を見直す。</p> <p>③臨床実習時間を延長し、参加型実習にする。</p> <p>④外国語能力別クラスの改善を図る。</p> <p>⑤高校の履行状態に応じた学習支援（補修授業）を行なう。</p> <p>⑥国家試験を視野に入れた試験の改善を図る。</p>	<p>カリキュラム自己評価・点検委員会において一通りの点検・評価を終え、報告書を作成している段階である。また、改善事項のうち早期に対応が可能な項目については、平成21年度カリキュラム改訂において対応を行った。教養教育（1年次）での単位認定は授業科目を基準とした考え方であったが、カリキュラム委員会の提案もあり平成21年度からはコース一括認定となった。（医学科）</p> <p>平成21年度カリキュラム改正に向けて見直しを行い、これまでは教養科目を看護専門教育の基礎として位置づけていたが、幅広い教養を身につける必要性からリベラルアーツとして位置づけることとした。また、科目名の表記をわかりやすくするとともに看護の統合実践の科目を明示した。（看護学科）</p> <p>人文社会科学の必修選択科目では、共修として履修可能な科目を増やすために医学科、看護学科の関係教員と討議してカリキュラムの見直しを行い、共修選択選択の幅を増やした。（医学科）平成21年度カリキュラムでは、医学科・看護学科共修必須科目である「医療総論演習」と「日本語表現法」を『医療基礎科目』として位置づけた。（看護学科）</p> <p>平成20年度臨床実習より実習期間の延長を実施した（36週⇒40週）。診療参加型臨床実習指導医養成に関する Faculty Development 実施に向けたワーキンググループを立ち上げ、次年度FDを実施する。臨床実習の延長により外来実習、家庭医実習を充実させた。また平成22年度からは研究室配属についても実習期間の延長を計画中である。なお選択実習が多目的に利用されている現状を踏まえ、今後、更なる臨床実習の延長も視野において選択実習のあり方を検討する必要がある。（医学科）</p> <p>入学直後のテストおよび学年成績によってクラス分け・前後期で各クラスの担当教員の変更を実施した。平成21年度からはクラス分けで医学科・看護学科の混合は廃止予定。（学事課）平成21年度から看護学科生のみとし、習熟度別クラスとして実施予定。（看護学科）</p> <p>自然科学教育において、ユニット自然科学入門演習を設置し、入学試験で非受験科目を選択させた。また、授業科目の中で、授業の前半を受験者・非受験者で分けた（生命の物理学）。（医学科）</p> <p>理科3科目は1科目選択必修としているため、履修指導の際、高校で履行していなかった科目を選択するよう指導し、科目担当者が授業の中で学習支援を実施した。（看護学科）</p> <p>平成20年度より5年次医学総括試験は、医師国家試験問題を主体とした形態に変更した。また、6年次医学卒業総括試験は国家試験に準じて出題領域・問題数・日程を変更し、3ステップの試験形態に変更し、実施した。上記の形態変更に伴い試験システムの改修を行い、教員の問題作成作業の軽減を実現した。医学卒業総括試験の結果が医師国家試験の結果と大きな相関性が見られた。（医学科）</p> <p>コンピュータを活用した国家試験トレーニングシステムを採用し、自己学習を促した。（看護学科）</p>

中 期 計 画	平成20年度事業計画	平成 20 年 度 実 施 結 果
<p>⑦大学間連携を推進する。</p> <p>⑧豊富な症例を対象とした臨床研究を行なうため基盤整備を行なう。トランスレーショナルリサーチを推進する環境を整備する。</p> <p>⑨社会人入学の振興を図る。</p> <p>⑩医学教育のカリキュラムの改善を図る研究者に必要な倫理観、判断力を涵養するプログラムを策定する。</p> <p>⑪共通カリキュラムの改善を図る。</p> <p>⑫看護学修士課程における研究を充実させ質を高める。</p>	<p>⑦首都大学東京との連携を推進する。</p> <p>⑧臨床研究センターの検討を行なう。</p> <p>⑨社会人入学制度を改善する。</p> <p>⑩医学教育のカリキュラムの内容を検討し、研究者育成教育を図る。</p> <p>⑪共通カリキュラムの内容を検討し、研究者の倫理、医学教育、研究費獲得などの講義を導入する。</p> <p>⑫看護学専攻修士課程開設に向けて準備する。</p>	<p>国領校、西新橋校でそれぞれ首都大学東京から特別科目等履修生として国領校7名、西新橋校4名を受入れた。(医学科)</p> <p>臨床研究センター設置のための検討会を開催した。現状では診療部門と直結した研究スペースを確保することが難しいため、臨床研究開発室を発展的に解消し、分子疫学研究室と臨床疫学研究室を設置することとした。臨床研究センターについては、新外来棟建築の際に検討を再開することにした。</p> <p>社会人の勤務体制を考慮し、大学院の一部の授業(共通カリキュラム、選択カリキュラム)を夜間の時間帯あるいは土曜日に設定した。更に社会人学生の在籍する以外の授業細目まで社会人用のカリキュラムを作成した。社会人用のカリキュラムを導入している授業細目科、研究部門は11の授業細目科と3部門の総合医科学研究センターである。(社会人学生6名)(学事課)</p> <p>大学院共通カリキュラムに「医学教育学」の講義を設け、研究者育成教育を図る目的で全10回講義を行った。当講義内容は本学大学院の教育方針に基づいて実施され、全ての大学院生に受講を義務付けている。(学事課)</p> <p>大学院共通カリキュラムに「医学教育学 全10回」、「医の倫理 全10回」、「医学研究法概論 全10回」を設定し、研究者の倫理、医学教育、研究費獲得、論文の書き方等の講義を行った。更に、当講義は大学院生のみならず研究者にとって有益な講義であったため、講義の一部を公開講義とした。(学事課)</p> <p>受け入れ事務手続き、事務作業も順調に進み、12名の入学が決定した。 看護学修士課程カリキュラムを整備し、講義は大学管理棟で行うべく改修並びに備品搬入等を行ない、4月1日開学となった。</p>
<p>(2) 教育内容等に関する目標</p> <p>①医学科・看護学科の入学試験を改善する。</p> <p>②高校訪問を積極的に行うなど、看護学科受験者増オープンキャンパスを推進する。</p> <p>③モデル・コア・カリキュラムを考慮した医学科の特色あるカリキュラムを継続的に検討する。</p> <p>④看護学科のカリキュラムを点検し改善する。</p>	<p>①入学試験で医師・看護師としての適正を評価出来る方法を検討する。</p> <p>②看護学科の志願者を増やすために広報活動を充実させる。</p> <p>③医学科カリキュラムを検討する。</p> <p>④看護学科カリキュラムの改善を図る。</p>	<p>志願者の性別、現役浪人別、都道府県別、高校調査書概評別など志願者データの集計・分析・入学後の追跡調査を行い、高校調査書、入学試験、在学中の成績データの時系列調査分析を入試委員会で行った。(医学科)</p> <p>高校生の特性や学習状況などの把握、本学教員の考える「どのような人を入学させたいか」「看護職としての適正をどのように考えるのか」などの調査を入試検討委員会で検討中である。(看護学科)</p> <p>高校訪問の実施、オープンキャンパスの内容改善、ホームページの充実など実施した。(看護学科)</p> <p>本学の卒前教育がモデル・コア・カリキュラムにどの程度対応しているかを明らかにする目的で、各ユニット責任者に対して、担当ユニットで扱っているモデル・コア・カリキュラムのSBO項目を調査し、その結果を教学委員会ホームページにて公表した。この比較対応表は随時更新を行う予定であり、カリキュラム改善に役立てていく。(医学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 改正カリキュラムの指定規則に基づいて見直しを行い、特に保健師課程の単位数と時間数を大幅に増やした。 本学のカリキュラムの特徴を打ち出すために「医療基礎科目」群を位置づけた。(看護学科)

中 期 計 画	平成20年度事業計画	平成 20 年 度 実 施 結 果
⑤講義、実習、演習の比率を改善する。	⑤講義、実習、演習の比率を検討する。	カリキュラム委員会において実習・演習・研究室配属と講義のバランスについて鋭意検討している。国領においては、演習形式の少人数学習で教育効果の向上を図ることで、講義を減らし、実習・演習を強化した（医学科） ・カリキュラムの改正で老年看護学実習と保健師課程の実習時間数が増加したため、カリキュラム委員会で総合実習内容について検討した。（看護学科）
⑥少人数教育体制の評価点検を行う。	⑥少人数教育の点検・評価を行う。総合試験システムを改善する。	平成20年度より5年次医学総括試験については、医師国家試験問題を主体とした形態に変更した。また、6年次医学卒業総括試験においては国家試験に準じて出題領域・問題数・日程を変更し、3ステップの試験形態に試験システムの改修を行い、教員の問題作成作業の軽減を実現した。国領においては、演習形式の少人数学習で「問題発見・解決」のトレーニングを行い教育効果の向上を図った。（医学科）
⑦臨床技能を高めるために実習方法を改善する。	⑦臨床技能を高める実習を検討する。	未検討（医学科） 厚労省から出された「卒業時看護技術到達レベル」達成のため、各学年の到達度調査を行う。（看護学科）
⑧多様な評価方法を取り入れる。	⑧多様な評価方法について検討する。	あらたに特別な評価方法は検討していないが、総合試験では出題内容や出題方法を徐々にではあるが改善しており、各学年で特徴も出している。現行でも総合試験、口頭試験、実習評価、演習評価、OSCE等で多様な評価方法が取られている。（医学科） 各教員において、評価方法について検討している。（看護学科）
⑨医学科の交換留学制度を充実させる。	⑨医学科の交換留学制度を充実させる。	英文のホームページを改良しているが、海外からの医大生の受入れは増加の傾向にある。受入れ体制について検討中である。（医学科）
⑩看護学科の海外実習を振興する。	⑩看護学科の海外実習プログラムを充実させる。	アメリカ看護研修、在日看護留学生との交流を行い、来年度はタイの看護研究者による招聘講演を計画中である。（看護学科）
⑪レジデント教育プログラムを改善して公開する。	⑪レジデント教育の目標とプログラムを策定し、ホームページに開示する。	平成20年度には各科のプログラムの見直しを図り、3科（産婦人科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科）はホームページの内容を更新した。平成21年度も、広報課と連携を図り、ホームページの内容更新を進めていく。
(3) 教育の実施体制等に関する目標		
①教育・研究を考慮した教員の適正配置と教員数を検討する。	①教員医師人事室で教員の適切な人数を把握する。	現在は臨床業績を中心に教員定数の見直しを毎年1回行っている。教育・研究に関しては、基本的に各科一律の人数を定数に上乘せする方式で対応している。特に、研究に要する適正人員を論拠に基づき算出する方法を模索中である。
②講義室などの教育環境整備を行う。	②学生会代表者と教学委員との懇談などを通してアメニティの改善を図る。	学生会より要望のあった次の事項について改善を行った。①学生ホールディスプレイへの翌日の時間割表示②高木会館地下1階学生会室への電子鍵設置③中央講堂（試験会場）への大型掛時計の設置。平成21年度からの医学科入学定員の増加に対応するため、国領校620講義室の収容人員と教育機器の改善を図るため検討を行い、5月連休明けに完成予定。（医学科） 定期的に学生会代表と学生委員会委員との懇談会を開催し、必要事項について検討を行っている。講義室の整備については、今後検討を要する。（看護学科）
③教育能力向上のための教育研修を実施する。	③Faculty Developmentを定期的に行う。	基づき試験問題作成、カリキュラムプランニング、家庭医実習、在宅ケア実習、OSCE評価者養成等のテーマのもと、5回に渡りFaculty Developmentを実施した。（医学科） FD委員会で、定常的研修として基礎編A・B・Cと上級編を企画し、年3回実施している。教員の参加率も8～9割である。（看護学科）

中 期 計 画	平成20年度事業計画	平成 20 年 度 実 施 結 果
④教員・医師人事評価制度の運用と体系的人事制度の構築。	④生涯教育のための講演会を開催する。 ⑤教員評価システムを稼働させる。	生涯学習センターで夏季セミナーを実施した。 本年4月より教員評価システム開発委員会（主管：教育センター）から業務が移管され、新たに教員評価システム管理委員会を発足、月例で会議を開催してシステムの運用について検討している。当面の目標であった各課が保有する情報の入力作業は無事終了し、各教員による個別入力 of 徹底が課題であり、また、情意考課の運用についてが課題である。
(4) 学生への支援に関する目標 ①学年担当者の機能を充実させる。 ②奨学金制度を充実させる。 ③精神的支援を必要とする学生のためのシステムを構築する。	①学年担当教員制を改善する。 ②奨学金授与・貸与を改善する。 ③精神的支援組織を設置する。	ほぼ毎月1回の頻度で学生担当委員会を開催し、意見交換、情報交換に務めてきた。学年担当教員が学生に直接働きかける有効な活動がどのような方策を持ってできるかの改善についてはあまり進んでいない。(医学科) 平成21年度からの学生生活アドバイザー制度の導入に向けて検討した。平成21年度から1、2年生を対象に、実施予定。(看護学科) 検討中である。(医学科) 学生担当委員会において医学生のメンタルヘルス対策組織設置についての検討を重ね、「学生健康管理チーム(システム)」を構築した。(医学科) 学生相談室の臨床心理士と連携を取りながら支援している。(看護学科)
(5) 看護専門学校に関する目標 ①適切な看護教員を確保する。 ②看護実践を重視した看護教育を行う。 ③学生確保のため積極的に広報活動を行う。 ④学生生活支援を積極的に行う。 ⑤看護専門学校の再編を検討し実行する。再編に向けて4病院を活用した実習カリキュラムを検討する。	①看護教員確保に必要な措置を講じる。 ②看護実践重視の教育を検討する。 ③高校訪問・オープンキャンパスを充実し、拡大する。 ④学習についていけない学生を支援し、また生活上の問題を支援する。 ⑤看護専門学校の再編計画を策定する。	①ホームページで採用活動を行った。 ②厚生労働省および東京都の看護教員養成講座へ教員採用の応募を行った。 以上の結果、全校で5名(中途採用者2名含む)の採用をみたが、専門領域別担当教員の完全たる確保には至っていない。 ①臨床(病棟、看護部)との協力体制を取り、実習現場での技術体験が高まるよう配慮した。 ②基礎看護技術の水準の向上が図れた。 ③看護教員の指導体制を整え、実習室の有効活用を行った。 ①オープンキャンパス(学校説明会)の実施 ②予備校主催の進路説明会への参加 ③推薦指定校の見直し・高校へ電話連絡、学校訪問での学校説明、体験学習の実施、生徒の学校訪問受入れ実施、推薦指定校の高校訪問実施、業者の学校案内に参加、校内での体験学習を実施した。 ④インターネットを活用した宣伝活動 以上の結果、3校とも定数充足を達成した。 ①各学年で定期面接、或いは成績不振者の個別指導を実施、学習面、精神面で支援を行った。 ②必要に応じて保護者面接を実施する等、保護者と連携を取り、情報を密にしている。 ③経済的理由にて就学が困難な学生が増加傾向であり、学納金の分割や奨学金の対応を行った。 ④第98回看護師国家試験において、99.1%の合格達成をみた。 ①青戸看護専門学校の発展的閉校に伴い、青戸病院を実習病院に組み入れた実習カリキュラムの編成を行った。(柏・新橋) ②青戸の学籍管理は柏に移行する計画で、両校間にて整備中である。 ③青戸の教具・物品等を各校で再利用できるようリストアップ作業を行っている。

中期計画	平成20年度事業計画	平成20年度実施結果
<p>2. 研究に関する目標</p> <p>(1) 研究水準及び研究成果に関する目標</p> <p>①教員の職位に応じた論文発表を評価する。</p> <p>②国際誌への投稿を推進する。</p> <p>③Jikeikai Medical Journal のMEDLINE 収載とIF（インパクトファクター）の獲得を目指す。</p>	<p>①論文の発表数とインパクトファクターを自己評価する。</p> <p>大学院委員会で検討した発表論文基準に照らして研究業績の評価を検討する。</p> <p>②国際誌への投稿推進策を策定する。</p> <p>③MEDLINE 収載策を検討する。</p>	<p>教員評価システムを通じて各教員に入力 of 要請を行っている。</p> <p>平成20年度は未実施であった。</p> <p>以下の業務を通して、国際誌への投稿を推進する方針を立てたが、具体的な推進策の策定は、平成21年度の課題として残った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 医学論文の書きかた講習会（東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会・JMJ 編集委員会主催）を年度内に4回開催して、教職員が国際誌に投稿するための技術を習得する機会を設けた。 若手教員による英文論文の執筆の機会として Jikeikai Medical Journal への投稿を奨励し、国際誌への投稿意欲を喚起した。 投稿論文に関する情報収集のために必要となる各種データベース、電子ジャーナルの利用方法の説明会を随時開催した。 投稿論文に掲載する図表の質の向上のために、教職員からの写真撮影、画像データデジタル加工の依頼を受け付けた。 Jikeikai Medical Journal (JMJ) 掲載論文の形式を国際誌に準じた内容とするために、国内外の各種投稿規則の内容を調査し、本学の事情も考慮した上で、投稿規程の改定案を作成した。 MEDLINE 収載や IF（インパクトファクター）獲得の要件、国内医科大学発行雑誌の MEDLINE 収載、IF 獲得状況を調査して、対応案を JMJ 編集委員会に提示して、討議を重ねた。 学術リポジトリを構築し、JMJ 掲載論文をインターネット上に公開し、JMJ の国内外からのアクセス性の向上を図った。
<p>(2) 研究実施体制等の整備に関する目標</p> <p>①臨床研究支援体制を構築する。</p> <p>②先進研究を促進する体制を作る。</p> <p>③トランスレーショナル研究推進体制を作り振興する。</p> <p>④寄付講座を振興する。</p>	<p>①臨床研究センターを継続的に検討する。</p> <p>②先端医療研究推進委員会、iPS細胞研究会の活動を活性化する。</p> <p>③トランスレーショナル研究推進体制を策定する。</p> <p>④寄付講座を増やす。</p>	<p>臨床研究センター設置のための検討会を開催した。現状では診療部門と直結した研究スペースを確保することが難しいため、今回は臨床研究開発室を発展的に解消し、分子疫学研究室と臨床疫学研究室を設置することにした。なお、臨床研究センターについては、新外来棟建築の際に検討を再開することにした。</p> <p>先端医療研究推進委員会は、各部署より提出された研究課題について将来性のある課題を選定し、その結果を拡大教授会議（平成20年11月13日開催）で発表した。各部署の研究課題と内容は図書館で自由に閲覧できるようにしている。</p> <p>iPS細胞研究会は、平成20年度は5回の研究会（含む幹事会）を行い、このうち2回は外部講師を招いて積極的な意見交換を行った。</p> <p>ME研究室のプロジェクトが「スーパー特区」に指定され、プロジェクト研究推進のための研究・実験室周りの整備を行った。</p> <p>新たな寄付講座の開設はなかった。</p>

中 期 計 画	平成20年度事業計画	平 成 20 年 度 実 施 結 果
<p>(3) 総合医科学研究センターに関する目標</p> <p>①大学の自己点検・評価を推進し外部評価を受ける。</p> <p>②研究成果を積極的に開示する。</p> <p>③それぞれの各研究所・研究室の特色ある研究を推進し、情報公開に努める。</p>	<p>①自己点検評価を実施し、公開する。総合医科学研究センターの研究支援体制を充実させる。</p> <p>②研究所の合同研究発表会を開催する。</p> <p>③研究所の活動を HP などを通して広報する。</p>	<p>・自己点検・評価については提出終了した。</p> <p>・平成21年3月末日で閉鎖する DDS 研究所跡の利用を含めて総合医科学研究センター組織の改編について検討し、センター研究支援部門に共用研究施設の新設、現行の臨床開発研究室を発展的に解消して、分子疫学研究室および臨床疫学研究室の設置、神経生理学研究室の拡充等を決定した。</p> <p>「DNA 医学研究所・臨床医学研究所合同研究発表会」を平成21年3月3日、高木2号館南講堂において開催した。参加者も多くあり好評であった。</p> <p>DNA 医学研究所のホームページをリニューアルし、大学のホームページにリンクした。</p>
<p>(4) その他</p> <p>①知的財産を社会に還元するために市民公開講座を積極的に開催する。</p>	<p>①補助金を活用して市民公開講座を積極的に開催する。</p>	<p>24の公開講座について主催・共催・後援等を行った。(うち、11講座が補助金対象となった)</p> <p>また、「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室～KAKENNHI」の事業に『脳の不思議を科学する！』というテーマで取り組んだ。</p>
<p>3. 附属病院（4病院）に関する目標</p> <p>(1) 医療安全の推進</p> <p>①医療安全管理体制の点検・評価を実施する。</p> <p>②迅速対応体制を確立する。</p> <p>③私立医科大学病院間の相互ラウンドを実施する。</p>	<p>①システム工学の視点で医療安全管理体制を点検する。</p> <p>②迅速対応の規定、体制を整備する。</p> <p>③私立医科大学病院間の相互ラウンド制度を確立する。</p>	<p>①小児科インフルエンザワクチン期限切れ対策や患者 ID 間違いについて問題点の検証を行った結果を関係学会にて発表した。</p> <p>②外来診療、初診受付、検査、放射線部の業務の流れを PFC（プロセスフローチャート）にて可視化し、問題点を抽出した。</p> <p>③新棟建設時の青戸病院におけるシステム工学的視点による検討を開始した。</p> <p>①医療安全管理部長、医療安全管理者を中心とした迅速対応を継続している。</p> <p>②医療安全管理部設立により医療安全と感染対策の相互協力体制を確立した。</p> <p>③医療機器安全管理責任者を医師に変更し、実務責任者を任命した。また、医薬品安全管理者も交代し更なる安全管理体制を整備した。</p> <p>④問題点の改善策を4病院で共有化し改善を図った。</p> <p>⑤Safe Master 導入により迅速な情報収集がされ、検証が必要な事例については速やかに会議を招集し改善策を立案し現場での実践に繋がった。</p> <p>①幹事校として、ラウンドの運用を企画・立案し、成案を得たチェックシートをもとに、私立医科大学協会を通じて全国レベルの相互ラウンドを実施している。</p> <p>②感染対策作業部会を設立し、院内感染に特化したラウンド項目を追加し、感染防止を徹底した。</p> <p>③メディエーター育成のための研修会を実施した。</p> <p>④先進的な医療安全対策を行っている自治医大の見学を1月に実施した。</p>
<p>(2) 先進医療の推進</p> <p>①医療の質と技術向上のための取り組みを推進する。</p>	<p>①低侵襲手術を始めとした先進医療トレーニングシステムを構築する。</p>	<p>低侵襲手術として鏡視下トレーニング・コースを運営し、10月に教育センターから臨床研修センターに移管した。トレーニング内容としてSTEP1～3を構築して改善を図り、実施した。</p>

中 期 計 画	平成20年度事業計画	平成 20 年 度 実 施 結 果
<p>(3) 患者サービス・病診連携の推進</p> <p>①医療連携を進める具体的な体制整備を行う。(医師・看護師・SW 等が協働できる体制)</p> <p>②患者の受診サポート。(紹介診療予約、医療案内など)</p> <p>③退院・転院・在宅医療などの支援業務の一体化。</p>	<p>①患者支援・医療連携センター等の協働体制を整備する。</p> <p>②患者をサポートするボランティアの受入れを積極的に行う。</p> <p>③退院・転院・在宅医療支援組織を設置する。</p>	<p>センター内のミーティングを定期的を実施し、情報の共有化を図った。今後の業務遂行にあたっては、BSC を十分に活用していく。(医療連携)</p> <p>脳卒中パスについてはリハビリテーション科、がん診療連携病院としての患者相談窓口機能の充実については癌治療連絡会議と連携しながら、患者支援・医療連携センターの機能拡充を図った。(管理課)</p> <p>ボランティア WG で推進を図ったものの、実際の人員を確保するまでには至らなかった。今後更にボランティアコーディネーターと連携を密にして人員確保を目指す。(医療連携)</p> <p>ボランティア検討ワーキング委員会を編成し、ボランティア活性化計画をまとめた。平成21年度からコーディネーターを配置するなど実施予定である。(管理課)</p> <p>センターとして一室化を実現した。それにより SW 室・在宅療養指導室と有機的連携を図ることができ、後方支援業務を更に強化できた。(医療連携)</p> <p>院内での情報共有・病床の有効活用のため看護部にてベッドコントロール担当師長を選任し活動を開始した。在宅医療等との連携については検討中である。(管理課)</p>
<p>(4) 効率的な医療の推進</p> <p>①DPC に対応したクリニカルパスを普及し、治療の標準化、医療の安全と効率化を図る。</p> <p>②医師、看護師、コメディカル、事務職の効率的な担当業務推進を図る。</p> <p>③ 4 病院共通操作性オーダーリングシステムの導入の検討。</p>	<p>①青戸病院、第三病院、柏病院へ DPC を導入する。</p> <p>・ DPC に対応したクリニカルパスの導入を推進する。</p> <p>・ 後発薬品導入を推進する。</p> <p>・ 外来疾病別原価分析を実施する。</p> <p>②担当業務、業務分担を見直す。</p> <p>③ 4 病院のオーダーリングシステム導入計画を策定する。</p>	<p>7 月より DPC を導入した。対出来高比で 5%ほどのプラスとなっており、順調な状況である。(青戸)</p> <p>7 月より DPC 請求を開始した。対出来高比で 5%ほどのプラスとなっており、順調な状況である。(第三)</p> <p>7 月より DPC 請求を開始した。対出来高比で 7.8%ほどのプラスとなっており、順調な状況である。(柏)</p> <p>DPC 請求に対応したクリパスとの比較検討までには至っていない。</p> <p>医療構造分析・適正化タスク・フォースでクリニカルパス導入推進活動を開始した。</p> <p>8 品目の後発薬品の採用を行った。</p> <p>医療構造分析・適正化タスク・フォースで後発薬品の導入の検討を開始した。</p> <p>今年度導入の医事会計システムからの抽出データで外来疾病別原価分析は困難であることが判明し、外来疾病別原価分析に至らなかった。</p> <p>業務量を考慮した適切な要員配置に努めた。</p> <p>今後、教員・医師人事室と協議し検討を進める。</p> <p>業務移管時の適正要員数を決定した。</p> <p>4 病院共通操作性システムの導入は、青戸病院リニューアルに向けたシステム導入により変化するものであるため、青戸病院システムの動向を注視した上で検討を開始したい。</p>
<p>(5) 予防医学の推進</p> <p>①総合健診・予防医学センターと各病院との連携を強化する。</p>	<p>①総合健診・予防医学センターと各病院との情報を共有し、円滑に診療へ移行させる。</p>	<p>オーダーリングシステムが健診センターに導入されていないが、血液検査のみは外来 ID を付与することにより参照が可能になった。契約企業の医務室等医師と健診センターの医師との連携は円滑に進められている。</p>

中 期 計 画	平成20年度事業計画	平成 20 年 度 実 施 結 果
②スポーツ・ウェルネスクリニックとスポーツ医学研究を見直す。	②一般を対象とした運動療法・栄養指導を実施する。 ・体力医学研究を推進する。	①他健保組合と連携し、メタボリックシンドローム予備軍に対する評価を行い、適した適切処方を行った。20年度の予定を全て終了。 ②一般を対象とした公開セミナー「第1回愛宕山スポーツセミナー」を平成21年1月24日に開催した。 データ収集、解析を進めている。
●附属病院（本院）に関する目標 ①特定機能病院としての機能を充実させる。	①特定機能病院としての機能充実策を策定し実施する。	特定機能病院としての機能充実のため、本年度は高度医療技術の推進および医療安全の向上を中心に実施した。 ①毎月の診療部会議にて、各診療科にて実施している臨床研究で特に先進性の高いものを新規申請するよう促した。 また、本邦で認められている高度医療・先進医療の全リストを各診療科に配布し、当院での実施状況を確認、さらに新規申請手続きが非常に煩雑であるため、管理課事務員が医師のサポートを行ったことにより、下記の通り新規申請、承認件数が増加した。 ※平成20年度の高度および先進医療技術⇒合計3件（平成21年4月現在） ※平成20年4月の診療報酬改定により、保険収載に変更されたもの5件、新規申請5件、承認件数2件、申請中3件である。 ※平成20年度中の臨床研究新規承認件数は95件であった。 ②症例確保においては、経費の一部を病院が負担している。 ③医療の安全性については、毎年実施される関東信越厚生局による立入検査においての指摘事項を迅速に改善した。特に本年度はインシデント・アクシデント報告書の提出件数の増加対策（特に医師）、医療安全研修会への出席率向上を図った。 ④その他、施設基準の届出事項（患者紹介率等）は毎月確認した。専門医・指導医の人数も充足している。
②がん薬物療法の体制整備の充実を図る。	②レジメン登録を実施する。	平成20年2月に設置されたレジメン審査委員会で、治療内容の審査を行い登録を進めた。
③人材育成（スキルアップ）を行う。	③教職員職種別キャリアパス作成を推進する。	各職種に対してキャリアパスの有無の確認を行った。また、ある部署に対しては提出を依頼した。今後、教員・医師人事室と協議し検討を進める。
④医療技術向上のための取り組みを推進する。	④ナビゲーションシステムを導入する。	ナビゲーションシステムは医師の施す技術の補佐的役割を果たし、安全性向上や手術時間短縮に大きく貢献するものである。現在、整形外科や耳鼻咽喉科領域にて導入されている。
⑤鏡視下手術トレーニングコースの充実を図る。	⑤鏡視下手術トレーニングコースを改善する。	STEP1、STEP2の認定試験は年間各4回予定し、予定通り終了した。認定手続きは順調に進んでいる。また、平成21年4月1日の本実施に向けて、運用規程を策定した。一方、STEP3の実施に向けては、鏡視下手術技術判定委員会にて検討を重ねている。
⑥医療安全に関する組織横断的な活動を推進する。	⑥医療安全に関する組織横断的な活動を計画的に実施する。	①医療安全推進活動にPeer Reviewを取り入れて、医療の実務担当者（多職種）による現場視察を実施した。 ②研修医、レジデント、新規採用医師への適切な情報伝達と教育の実施がされるよう対策を準備中である。 ③基礎系の専門研修を通じて医療安全活動に理解を得るための活動を行った。 ④医療安全推進週間を実施した。

中 期 計 画	平成20年度事業計画	平成 20 年 度 実 施 結 果
⑦システム工学の視点で管理体制を点検する。	⑦システム工学的視点で管理体制を構築する。	①小児科インフルエンザワクチン期限切れ対策や患者 ID 間違いについて問題点の検証を行った結果を関係学会にて発表した。 ②外来診療、初診受付、検査、放射線部の業務の流れを PFC（プロセスフローチャート）にて可視化し、問題点を抽出した。 ③新棟建設時の青戸病院におけるシステム工学的視点を導入した管理体制について検討を開始した。
⑧インフォームド・コンセントを徹底する。	⑧インフォームド・コンセント徹底の具体的な施策を実施する。	臨床研究、がん治療（化学療法）、生体肝移植等の審査、実施、医療安全面で、医療安全管理部が確認を行っている。また、患者からの苦情や意見があった場合には、診療現場でのインフォームド・コンセントの実施状況を必ずチェックし、徹底されていない場合は直接注意し、警鐘事例はリスク会議や診療部会議にて報告している。
⑨患者支援・医療連携センターの機能充実を図る。	⑨患者支援医療連携センターの機能を再整備する。	SW 室・在宅療養指導室と統合しセンターの一室化を図り、さらなる連携を図ることができる。BSC も作成し、明確な事業計画の下、業務を遂行することとなった。
⑩臨床試験の支援体制を充実させる。	⑩臨床試験支援センターの機能を拡大する。	①厚生労働省・文部科学省「新たな治験活性化5ヶ年計画」により、当院は治験拠点医療機関として採択された。平成20年度に、この治験拠点医療機関の補助金を基に実施した事項。 イ. CRC 雇用による CRC 業務の充実及びデータマネージャーの雇用によりデータの信頼性の向上に努めた。ロ. コンピュータによる治験管理システムを導入し治験依頼者と当センターとの連携の充実を図ろうと準備を進めた。治験依頼者を対象とした説明会を平成21年1月及び2月に開催し、平成21年4月より実施することとなった。ハ. 「おしえて！治験のはなし」リーフレット（3種類）を作成し、患者向けとして院内の3箇所に設置して啓発に努めた。また、青戸病院、第三病院、柏病院及びトリトクリニックに配付して啓発に協力を得ている。 ②治験審査委員会委員の教育については、今年度2回開催した。また、11月13日に日本医師会治験促進センターと共催で「国際共同治験の実施に向けた意見交換会」を開催し、日本医師会側から高い評価を受けた。 ③医療機関と治験依頼者の治験業務について、当センターは率先して業務分担を明確にして行っており、各治験依頼者から高い評価を受けている。
⑪オーダーリングシステム導入による効率的な運用を図る。	⑪オーダーリングシステム2期を導入し、効率的な二次利用を行う。	レジメンオーダーについては、システム機能実装は完了しているものの、運用調整が滞っている。また、処置オーダーについても各科調整が進展していない状況である。（システム課） 手術オーダー、内視鏡オーダーが稼動した。処置、輸血、レジメンは、未稼動となっている。（業務課）
⑫効率的な診療体制の構築を図る。	⑫ICUの増床により診療の効率化を図る。 ・一般点滴室を設置し診療の効率化を図る。	病理部移転遅延のため、ICU20床増床工事完了予定は平成21年7月となった。 開設準備打合会議を設定し、規程を制定、責任者は外来委員長とした。管理部門は看護部とし12月1日から運用を開始した。（管理課） 利用率は約40%にとどまっているため現在看護師によるミキシングや針刺しなどへ移行して利用率向上を図っている。（看護部）
⑬手術室の効率運用を図る。	⑬手術室の利用枠管理を徹底する。	手術室利用枠管理は比較的順調であり、各科の協力のもと、救急対応は広がっている。（手術部） 診療科別枠利用率が明確になった。診療科の利用枠を再検討する。（看護部）

中 期 計 画	平成20年度事業計画	平成 20 年 度 実 施 結 果
	・中央材料室業務の効率化を図る。	洗浄設備拡大により高水準消毒が可能となったため、器材の用途に応じた適正な再生処理方法が選択でき、効率的な運用ができた。中材業務を省力化し、1次洗浄の中央化を促進させた。その結果、各部署の安全性の向上や業務の効率化に繋がった。
⑭救急患者受入れの体制整備を行う。	⑭救急患者受入れ増加のための体制を整備する。	青戸病院への救急医の専任派遣。4病院の救急部体制の相互理解が大幅に進んだ。21年度に向けての新体制構築への準備を進めた。
⑮月次医療収支額を把握する。	⑮医療収益の月次報告を実施する。	附属4病院の月次収支状況は、病院運営会議、4病院院長・事務・看護部長会議で報告、分析を行った。情報の共有と改善に有効活用している。新旧財務システムのデータ整合性を検証し、平成21年度より、新システムでのデータ把握が可能となる予定である。
⑯DPC データの他大学とのベンチマークを実施する。	⑯都内数大学とDPC データのベンチマークを実施し分析する。	DPC データの交換には至らなかった。次回より全大学から医師が参加するため、現在の交換項目に加え"医療の質"に関連した項目の交換が見込まれる。
⑰医療材料のSPD 業務の再編を行う。	⑰SPD を再検証し安定稼働を図る。	附属病院（本院）、青戸病院、第三病院はSPD 業者を変更し請求システムの検証を行った上で、稼働と材料単価の低減が実現された。
⑱施設基準等の定期点検を行う。	⑱全ての施設基準を点検し改善する。	診療報酬改定の都度、施設基準の確認を行っているが、全体的な施設基準の点検は未実施である。（管理課）
⑲慣例的に行っている業務手順を法令遵守の視点で見直す。	⑲慣例的業務手順を法令視点から見直し、順次実施する。	事務関係では業務概要（マニュアル）で慣例的業務手順に記載し、法令の確認を実施中である。（管理課） 他部門についても平成21年度に法令視点での点検を実施予定である。
⑳学内個人情報管理規定を遵守する。	⑳定期的な研修会を実施し、個人情報管理を徹底する。	合同委員会を開催して、各機関委員長および委員の意見交換を行った。また、次年度に向けて外部から講師を招聘し、全教職員を対象とした個人情報保護に関わる講演会を開催する。
㉑電子媒体による情報管理を徹底する。	㉑電子媒体の管理により情報を把握し、紙媒体の情報離散を減少させる。	個人情報の流出、漏洩を防止するため、教職員の意識を高めるべくオールユーザーで働きかけを実施した。
㉒診療情報を評価するシステムを構築する。	㉒診療情報評価システムを検討する。	診療情報評価システムの検討は実施していない。
㉓働きやすい環境整備等を行う。	㉓働きやすい職場環境を整備する。	各部署からの申し出に基き、病院運営会議等で検討し環境整備に努めた。
㉔女性教職員・女性医師の復職を支援する。	㉔女性医師の育児可能勤務体系を整備する。	本年5月より育児中医師の短時間勤務制を制定し、平成20年度は6名が適用となり、女性医師の離職防止に寄与した。また、育児支援WGの主催による女子学生・女性医師の交流会を開催して、本学の女性医師支援の体制について周知を図った。病児保育の導入についても具体的な検討を開始した。本院には女性医師用ロッカー室（135名分）を設置し、運用内規を整備し、平成21年4月1日から運用を開始する。
㉕職種間の業務分担を見直す。	㉕職種ごとに担当する業務内容を見直し、業務分担を再構築する。	職種ごとの業務内容の見直し、特に医師の負担軽減について看護部中心に検討を開始した。
●青戸病院に関する目標		
①開かれた組織体制を構築する。	①青戸病院 BSC を通じ目標、戦略を明確にする。	病院 BSC を作成・構築し院内説明会を開催した。
②迅速な意思決定が出来るように組織を強化する。	②病院組織を再整備し、統治権限を明確にする。	病院内の組織体制について検討し提案した。（4病院の整合性と大学の決裁が必要）
③各運営委員会を活性化し、病院長の諮問機関としての役割を強化する。	③運営委員会を活性化するため、役割を見直し、再編成する。	運営委員会の再編を実施した。（各委員会副委員長にコマディカルの積極起用）

中 期 計 画	平成20年度事業計画	平成 20 年 度 実 施 結 果
④十分な内部留保ができるよう経営の安定化を図る。	④病院予算を確実に達成する。 ・付加価値予算を試行する。	医療収入予算及び償却前収支目標達成見込みである。 平成20年度決算で付加価値予算について検証を実施中である。
⑤発生主義に基づく予算管理、収益性分析、生産性分析による経営課題を解決できるシステムを構築する。	⑤収益性分析を実施する。 ・生産性分析を実施する。	平成15年～19年度で収益性分析を実施し、その結果を分析中である。 平成15年～19年度で生産性分析を実施し、その結果を分析中である。
⑥附属4病院連携、地区医師会、連携医療施設、行政とのネットワーク整備をする。	⑥登録医制度を構築する。 ・地域連携バスを導入する。 ・区東北部糖尿病医療連携協議会を充実（継続）させる。	連携医療機関に対して登録医手続き完了。院内説明会を開催し制度の周知を行った。 脳卒中地域連携クリニカルバスを導入した。 東京都と契約を更新した。（3年目）区東北部糖尿病医療連携協議会を3回開催した。
⑦学内連携を図ることによって、診療、教育体制を強化するとともに、教育研修制度を整備する。	⑦メディカルカンファレンスを一層充実（継続）させる。	公開カンファレンスを3回開催した。
⑧東京都看護職員復職支援研修施設として対象者を受け入れる。	⑧看護師再教育制度の運用を開始する。	東京都看護職員地域就業支援病院に認定され研修を開始し、3クールを完了した。
⑨総合内科・救急医療の協働体制を確立し、患者受入体制を強化する。（総合内科病棟を設ける。）	⑨総合内科・救急部を開設する。	総合内科（平成20年4月）、救急部（平成20年8月）を設置し、総合内科病棟設置検討を開始した。
⑩手術室の物流を改善し効率運用を図ることによって手術数を増加させる。	⑩オペラマスターを導入し、物流全体を改善する。	オペラマスターを導入し分析を開始した。（材料キット化逐次運用開始）手術件数は前年と比して300件増を達成した。
⑪医療の効率化、透明化、標準化を図る。	⑪DPC 導入（7月）に併せクリパスの導入拡大等医療の効率化、標準化を図る。	DPC 対策委員会とクリニカルパス運営委員会を統合し、クリニカルパス導入を推進している。また、クリニカルパスのシステム化（は〜いクリパスくん）に着手した。
⑫入退院管理センターを中心にサービス部門を整備する。	⑫ペイジェント・フロー・マネジメントを拡大し、一体的な総合案内、コンシェルジュ、相談（在宅・福祉・栄養・薬）、医療連携を実施する。	ベッドコントロールを業務課より看護部に全面移管した。入院前から退院・在宅に至るまで一貫した管理とした。
⑬大学病院、地域中核病院として患者志向の機能的な病院を建築する。（平成23年竣工を目指す。）	⑬新病院建築準備室を設置する。 ・基本設計を完了し、設計施工業者の選定、実施設計を概ね完了する。 ・行政折衝、住民説明会を滞りなく行う。	事務4名、看護師1名の専任体制で組織化した。 基本設計報告書を受領。設計施工業者を選定し実施設計を開始した。 行政折衝は逐次進捗、葛飾区主催地区計画変更説明会で建築計画を説明した。
●第三病院に関する目標		
①診療に関する情報を公開する。	①診療科研究業績、診療成績を開示する。 ・各診療科 BSC を作成する。	各診療科の診療に関する情報を公開する上で、開示内容を取りまとめ「平成19年度診療実績及び治療成績」として院内に掲示した。開示項目は、①外来患者数、②入院患者数、③平均在院日数、④主たる疾患名、⑤取扱い数、⑥特に力を入れている対象疾患と治療成績等を掲示した。外科系は更に⑦総手術件数、⑧代表疾患手術件数を追加して掲示した。 各診療部以外の部門については作業中である。病院全体版 BSC についてもメンテナンス中である。

中 期 計 画	平成20年度事業計画	平成 20 年 度 実 施 結 果
②外部評価を受ける。	②病院機能評価を受審する。	病院機能評価受審チームを発足し、各領域ごとに必要項目を評価・検討を行った。また、プレ審査を実施し、各部門の意識向上に向け啓蒙を図り、診療情報に関する2項目の指摘改善事項があった。
③地域住民や行政への医療啓蒙行事をさらに充実させる。	③各種イベント、市民公開講座等を開催する。	市内・近隣大学公開講座（5月6月が泊江市・9月10月11月が調布市）で講演した。11月2日にはホスピタルフェアを実施し1,600人の参加があった。慈恵医大第三病院公開健康セミナーを6月10月3月の3回院内で開催し好評であった。
④患者に対する対応を見直し改善を図り、積極的に患者を受入れる。	④救急、(中央)診療部門の患者対応を見直す。	登録医に平日夜間帯に内科・外科・脳神経外科・小児科の当直医とPHSでのホットラインで直接話せる体制を構築した。
⑤医療材料コストを見直す。	⑤SPD業者を見直し、医療材料コストを把握する。	SPD業者を変更し、新規業者による物流管理をスタートした。変更後のシステム整合性を調整中であるが、次のステップとして、患者対応による手術材料のコスト管理を計画している。
⑥診療部を評価する。	⑥学術・診療・運営に関する院内評価を行う。	1. 「教職員の研究活動のご紹介」の掲示 2. 第三診療部として「診療活動」「院内外連携」「病院機能への尽力」「学術活動」など年間で努力また成果があったと総合的に評価される診療科を「ベスト診療科」として表彰をする。(現在評価中であり4月の診療部会議で表彰予定)
⑦院内研修制度の充実を図る。	⑦「第三病院家庭医・再研修コース」を開設し、学内公募を開始する。	第三病院より申請したが、4病院全体として捉え、本院で纏めることとなった。
⑧森田療法センターを本学の特色ある医療として内外に強く再アピールする。	⑧ホームページを充実し、森田療法センター、特色ある診療科を積極的に紹介する。	森田療法については紙面を拡充し、イベントの報告についても更新している。現状では森田への入院患者のうち、半数以上がホームページを閲覧して来院していることが判明している。
⑨病診連携、病病連携のための強化を図る。	⑨連携バスの運用と登録医オープンシステムを拡大する。	脳卒中地域連携バスについては制度確立し、運用を開始した。また、糖尿病地域連携バスについても検討を重ね、次年度から運用を開始する予定である。 病診連携……登録医の新規契約による拡大と登録医通信の発刊、登録医救急ホットラインを確立した。 病病連携……連携実務者ネットワークの運用による連携拡大、後方病院挨拶を9施設実施し、後方連携の強化に努めた。
⑩高齢者に対する対応策を検討する。	⑩療養病床のあり方の検討をすすめる。	1. 多摩3大学（東京医大八王子医療センター・日本医大多摩永山病院・第三病院）の情報交換を実施した。 2. 調布医師会との情報交換の実施。 3. 第三病院 Big Debate を7月22日に開催し、「第三病院の高齢者医療を考える」をテーマにパネルディスカッションを実施した。
⑪施設改修による療養・職場環境改善を持続的に実践する。	⑪病棟、病室の整備工事、トイレ棟の立案により環境を改善する。	第三病院 Big Debate を7月22日に開催し、「第三病院の高齢者医療を考える」をテーマにパネルディスカッションを実施した。3月17日に医療セミナーを開催し、「第三 change」で今後の病床再編について意見交換をした。 6B病棟を改修した。また各病室の壁・床を中心に順次宮修繕を実施している。トイレ棟の増築について検討し、いくつかの設計図面を作成したが、建築基準をクリアできず断念した。別に病室をトイレに転換する案を継続検討している。平成21年度より6期かけて改修予定である。
⑫入院患者向け行事を開催する。	⑫各種「癒しの行事」を継続開催する。	ピアノコンサート、弦楽四重奏コンサート、七夕コンサート、クリスマスコンサート、昭和の蓄音機を聴く会、第三病院敷地内で収穫した夏みかん、梅、銀杏による季節感ある患者給食の提供等患者さんへの「癒しのイベントシリーズ」として定期的実施している。

中 期 計 画	平成20年度事業計画	平 成 20 年 度 実 施 結 果
●柏病院に関する目標		
①包括化による減収を回避する。	①DPC 導入（7月）に合わせクリパスの導入拡大等医療の効率化、標準化を図る。	DPC 導入検討委員会及びクリニカルパス委員会を中心に医療の質と安全を基盤として、医療収支が確保できる体制の構築に努めた。オーダーリングシステムを利用した、収支の確保にも寄与する新たなクリニカルパスの策定も PDCA サイクルを継続しながら進めている。導入した7月～21年2月までの DPC 請求額と出来高請求額を比較した場合、収入増加率は7.8%となっており、減収を回避できている。
②DPC 導入に合わせ医療の効率化、標準化による安全を確保する。	②DPC データを用いて院内ベンチマーク分析を実施する。	厚生労働省へのデータ提出、診療報酬明細書のオンライン請求化等、分析するための基礎データの電子化が急激に進んだことにより、DPC における様々な疑問を、ヒラソル（DPC 分析ソフト）を利用して簡易に実施できるようになった。ベンチマーク分析も容易に実施することができ、コンサルタント会社からの情報も利用しながら、医療の効率化、標準化による安全確保に寄与している。
③がん診療連携拠点病院として必要な施設を整備する。	③外来化学療法室と病棟で行っている化学療法を外来部門に集約する。	外科、産婦人科、腫瘍・血液内科、消化器・肝臓内科に加えて泌尿器科の該当患者も外来化学療法室に集約して治療することができた。また、外来化学療法室マニュアルを整備するだけでなく、患者用治療ノートの作成にも取り組み同室運営の円滑化を推進できた。
④がん診療連携拠点病院として必要な地域連携を整備する。	④地域連携クリニカルパスを構築する。	地域連携クリパス作成の端緒として平成20年12月に「がん医療連携懇談会」を開催し、東葛北部約30の施設（医療機関、訪問看護ステーション）とともに、在宅医療の在り方（がん・緩和医療）についての意見交換を行った。同懇談会での意見集約により、柏病院の当地域で果たすべき役割と地域医療機関等の受入可能基準が明確になった。また、フェイス・ツー・フェイスでの会であったため、当院と地域施設との信頼関係構築が図れたことは、地域連携クリパス作成に取り組むにあたり効果的であった。しかしながら、「全県共用の地域医療連携パス」を地域施設と具体的に話し合う段階にまでは至ることはできなかった。
⑤手術件数増加に伴う対応策を検討し、救急受入れの困難を回避する。	⑤手術室の増室、小手術室の拡張、ICU・CCU の拡張改修工事を実施する。 ・手術件数増加に伴う物流（SPD）の再編を行う。	予定どおり、5C 病棟に旧 HCU、3C 病棟に CCU の移転を実施した。CCU 移転後の跡地を ICU の拡張スペースとし、ICU 病床を7床から14床に増床する工事を完了した。手術室については、手術休憩室、手指消毒室及び記録撮影室の改修及び、女子更衣室、カウンテクニック、車椅子トイレ及び器材室 D の改修工事を完了した。 ・定数変更を随時に変更することにより、リアルタイムに在庫品目の整備が可能となり、現場の作業が効率化された。 ・滅菌有効期限切れの確認を強化したことにより、期限切れ廃棄となる数量が大幅に減少した。 ・補充予定日を記載した定数欠品リストを現場に渡すことにより、見通しが立てやすくなり現場の運用調整が容易になった。 ・不動在庫品（約270品目）について見直しを行い40品目を削除した。また、副次効果として器材保管スペースを確保することができた。
⑥地域（柏市）が求める外来、入院機能の拡充、高度化を検討する。	⑥将来構想検討委員会を設置し、メディカルセンター化構想を検討する。 ・フィルムレスによるコスト削減、保管スペース、搬送等の業務軽減を図るため、PACS/RIS システム導入を検討する。	1月に将来構想検討委員会を設置し、周辺地域の医療環境、DPC 診断群分類による患者数と病院間シェア等の外的要因、稼働額、患者数等の内的要因を分析している。今後はそれを基に検討を進めている段階である。 稼働時期を本年9月とし、画像蓄積は6月頃より開始する予定である。今後は PACS システム運用検討小委員会にて運用面の検討を行う。（柏）

中 期 計 画	平成20年度事業計画	平成 20 年 度 実 施 結 果
⑦電子カルテの導入によるメリット、デメリットを検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科外来設置の必要性を検討する。 ・患者アメニティ向上を検討する。 ⑦導入に向けた研究組織を設置する。	周辺地域の医療環境等を分析し、検討を進めている段階である。 現在、廊下等にエコロジーガーデンや絵画を設置している。今後は将来構想検討委員会で点検評価を行い、アメニティ向上を検討予定である。 ITあり方検討委員会（9月24日開催）の中で、「本学が目指す電子カルテシステムの定義と導入計画について（案）」を提案した。今後は厚生労働省のグランドデザインや他大学の動向を注視しながら、効果判定作業を進めたい。
II. 業務運営の改善及び効率化に関する目標 1. 運営体制の改善に関する目標 ①理事会の構成、運営組織を見直す。 ②慈恵大学行動憲章・行動規範を徹底する。 ③内部監査を実施（補助金・業務）する。 ④個人情報保護の継続的注意を喚起する。 ⑤本学の情報（社会貢献、研究成果、医療貢献）を学内外に発信する。 ⑥有事の際の広報体制確立と情報統制を確立する。	①法人運営を効率的に進める組織体制を検討する。 ②慈恵大学行動憲章・行動規範の周知プログラムを作成し研修実施する。 ③補助金監査、業務監査を監査する。 ④個人情報保護研修会を実施する。 ⑤情報収集と広報手続き運用方法の仕組みを確立する。 ・同窓への情報発信方法を策定する。 ⑥各機関に亘る情報管理体制を確立する。	法人事務局の機能を高めると共に各部署の役割を明確にし、業務の効率化、組織間の連携が図れる視点をもって事務業務分掌規程の改定を実施した。 新入職員に配布する手引に「慈恵大学行動憲章・行動規範」を記載すると共に、新入職員に対するオリエンテーションにおいて周知した。今後、教員医師人事室と協議し検討を進める。 今年度計画していた内部監査は全て実施した。 実施した監査項目は以下の通りである。 ①薬品の在庫管理状況 ②平成19年度分私立大学等経常費補助金〔一般補助・特別補助〕 ③平成19年度分文部科学省科学研究費補助金 ④平成19年度分厚生労働科学研究費等補助金 ⑤平成19年度分地方公共団体等補助金 ⑥事務業務分掌規程の内容及び業務手順書の整備状況 ⑦固定資産管理状況監査の改善要請事項に係る改善状況確認 合同委員会を開催して、各機関委員長および委員の意見交換を行った。また、個人情報の流出、漏洩を防止するため、教職員の意識を高めるべくオールユーザーで働きかけを実施した。 ○情報収集 ・本学の社会貢献、研究成果、医療貢献に関して、教職員のテレビ・ラジオ・講演会等への出演や新聞・雑誌等への掲載などは、教職員からの直接の提供や情報提供サービスの活用により、広報課に情報が集まる体制が確立された。 ・マスコミへの積極的な情報提供を目的に、各診療部に高度先進医療、新治療、一般患者に興味深い治療について、アンケート調査を実施し情報収集を行った。 ○広報運用 ・広報誌、ホームページ、イントラネット、オールユーザーメール、および高木会館1階ロビーの広報掲示板（各機関も同様に掲示場所を常設）を利用し、メディア露出を含め学内の情報をタイムリーに提供している。これにより、学内での情報共有が進み、教職員の広報マインドが醸成された。 ・「The JIKEI」を通じて同窓、教職員、学生父兄、関連医療機関等へ本学の情報発信を行った ・「慈大新聞」との情報の共有と活用を進めている ・第三、柏病院での期限切れ薬剤投与に関して、広報推進室が現場（各機関）でマスコミ対応の指揮を取るとともに、情報管理体制の指導を行った。 ・秋葉原無差別殺人事件を実例とした夜間・休日におけるマスコミ対応のマニュアルを関連各部署と連携し作成、これを基に周知徹底のための説明会を開催し、情報管理体制の確立を進めた。

中 期 計 画	平成20年度事業計画	平成 20 年 度 実 施 結 果
⑦事業計画を確実に実施する。	⑦事業計画を各部署の BSC（業務目標）に反映させる。	各部署に20年度事業計画の取り組み状況を2度（中間報告および最終報告）確認した。各部門業務目標に事業計画が反映されているかは確認できていない。また21年度事業計画は、各部門による事業計画案の内容確認および各部門からの追加や訂正を反映し策定した。
⑧BSC を普及拡大し、目標と進捗を把握、評価する。	⑧各部門への BSC を普及拡大させる。	診療科4部門（腫瘍血液内科・産婦人科・心臓外科・小児科）、事務系4部門（学事課・業務課・管理課・患者支援・医療連携センター）で BSC を作成するためワーキング・グループ活動をしている。
2. 人材活用に関する目標		
①職員の人材育成制度を強化する。	①管理職員人材育成システムを策定する。	管理職員の中で、新任管理職員を対象として新任管理職員研修プログラムを立案し実施中である。プログラムは2年をかけて実施し、2年時に研修効果を検証しモチベーションを維持するための研修発表会を予定している。
②人事評価システムを充実させる。	②教員評価システム運用と利用を検討する。評価に基づく人事制度を展開する。	本年4月より、教員評価システム開発委員会（主管：教育センター）から業務移管され、新たに教員評価システム管理委員会を発足、月例で会議を開催し、システム運用について検討している。当面の目標であった各科が保有する情報の入力作業は終了した。個別入力は更に検討が必要である。情意考課の運用については、前年度にトライアルとして実施した一部部署の結果を個人票（レーダーチャート）としてまとめたが、フィードバックの方法については慎重なる検討を重ねている。
③業務の見直し、配置人員の見直し、業務効率化と人件費抑制を図る。	③IT、業務改善、アウトソーシングによる人員計画を策定する。	アウトソースに関する人員計画については、第一段階として柏病院保守要員の見直しを行い、平成20年12月より実施した。今後は24時間保守体制を含めた勤務時間についても見直しを進めたい。（システム課） システム導入による業務内容・業務量変化の調査を反映した要員計画を策定した。またアウトソーシングにおいて、外部環境変化に対応するため期限付契約職員制度を制定し、派遣社員から期限付契約職員への切替を実施した。人件費を固定費から流動化しつつ、非正規労働力の安定的確保と人件費縮減が期待できる。（人事課）
④教職員の定着率を高める。	④教職員自己評価アンケートを実施する。	自己評価アンケートは実施出来ていないが、東京労働局より次世代育成支援事業所認定マーク「くるみん」を取得した。短時間勤務等本学教職員に対する仕事と子育ての両立支援が上場企業のレベルに達していることが公的に認定された。（人事課） 自己評価アンケートの実施に向け人事課と打ち合わせを行ったが、アンケート実施には至らなかった。（企画部）
⑤青戸看護専門学校閉校後に対する看護師確保体制の確立。	⑤青戸看護専門学校閉校後の看護師確保対策を検討する。	看護職員の計画的な人事異動は実施されていないが、平成21年4月に向けて看護部に対して計画的な人事異動を少人数より実施した。
3. 事務の効率化・合理化に関する目標		
①適正な IT グランドデザインを構築し、IT 戦略を策定する。	①IT グランドデザインを策定し、IT 戦略を再構築する。	(5) 電子カルテの導入を検討と併せて、IT あり方検討委員会で、「本学が目指す電子カルテシステムの定義と導入計画（案）」を提案した。今後は厚生労働省のグランドデザインや他大学の動向を注視しながら、効果判定作業を進める。
②附属4病院にオーダリングシステムを導入し効率化を患者満足度の向上を図る。	②附属病院オーダリングシステム（二次）を確実に導入する。	レジメンオーダについては、システム機能実装は完了しているものの、運用調整が滞っている。また、処置オーダについても各科調整が進展していない状況である。
③附属4病院にオンライン請求システムを導入する。	③附属4病院オンライン請求システムを導入する。	本院は平成20度3月診療分より実施、青戸は11月診療分、第三は平成21年2月診療分、柏は平成21年1月診療分より開始した。

中 期 計 画	平成20年度事業計画	平成 20 年 度 実 施 結 果
④ネットワークの更新と再構築を行う。	④効率的、経済的なネットワークシステムに更新する。	ベンダーが決定し、柏病院業務系は作業を完了した。平成21年度上半期には柏病院認証系、西新橋業務系・認証系を更新すべく作業中である。また、第三病院については、新たな計画を策定すると共に青戸病院はリニューアル時に更新予定。
<p>Ⅲ. 財務の改善に関する目標</p> <p>1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標</p> <p>①予算実績管理体制を強化して効率的な運用推進の仕組みを策定する。</p> <p>②経営改善重要項目ごとに検討組織を設置し改善を推進する。</p>	<p>①財務委員会を設置して財務計画の策定、およびその検証を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機関別の中期財務計画を策定する。 ・収支状況の月次把握システムを作成する。 ・レセプト未請求と患者未収金を把握し改善する。 <p>②青戸病院と第三病院の収支構造を改善するためにあり方検討とマスタープランを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金獲得のため補助金対象の調査を実施し申請の徹底を図る。 	<p>新財務システム導入の遅れから委員会立ち上げまでは至っていない。平成21年度の業務目標として継続して検討する予定である。</p> <p>中期財務計画案は素案の段階で、平成21年度の業務目標として継続して検討する予定である。</p> <p>現在、新財務システムと旧システムとのデータ整合性を検証している。H21. 4. 1以降のデータは発生主義で捉えられるため、H20年度決算終了後本格的に月次決算に向けてソフト面でのシステムを構築する。</p> <p>レセプトの未請求（保留レセ）については、スケジュールを立てながら請求に繋げ、年度末までに昨年比マイナス約4億5千万円の減少となった。</p> <p>窓口未収金については、発生前の防止策として、高額療養限度額認定の推進（患者への広報強化）により減少した。</p> <p>青戸病院は運営会議、DPC対策委員会、リニューアルTF等で経営改善策を検討・推進した。原価計算上6期ぶりの黒字達成見通し。（青戸）</p> <p>第三病院は7月からのDPC導入以後も大きな障害等もなく順調に稼働しており、出来高請求比で約5%のプラスとなっている。DPC導入に向けて院内に組織横断的なプロジェクトチームを設置し、検査やレントゲン、注射といった包括項目についてジェネリックの使用促進、高額検査リスト作成による情報提供を行ったことによる成果であると思われる。病院全体でDPC導入後についても分析と検討改善を継続し、医療収入増に向けて一丸となって取り組んでいる。（第三）</p> <p>①私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の平成22年度申請に向け、事業内容や他大学の選定状況等の調査結果を大型プロジェクト対策委員会に報告した。この報告結果を踏まえ、同委員会は21年度中における事業の学内公募や予算化等の必要性についての方針を確定した。</p> <p>②私立大学等経常費補助金（特別補助）の増額を目指した「医学研究科研究推進費」について特別補助申請を行い、交付を受けた。なお、特別補助の総額は平成19年度に対し、平成20年度は約1億円の増額となった。</p> <p>③各種研究助成公募事業については、教育研究助成委員会と連携して学内イントラネット「研究推進のページ」、教授会議、学内掲示板に随時公開するとともに内容調査をした結果、申請対象なる部署については個別に所属長あてに案内し、応募申請の徹底を図った。</p>

中 期 計 画	平成20年度事業計画	平成 20 年 度 実 施 結 果
③科学的な分析に基づく医療収支の改善を推進する。	③疾病別の医療収入及び原価率を把握し、改善を推進する。	①医療構造分析・適正化タスク・フォースを設置し、改善検討を開始した。(本院) ②青戸病院はDPC導入に伴い、分析ソフト及びコンサルタントを活用し、疾病別のDPCと出来高比較分析を中心に収入改善に取り組んでいる。(青戸) ③第三病院はDPC導入に伴い、分析ソフト及びコンサルタントを活用し、各診療部毎の病別DPCと出来高比較分析(出来高比5%のプラスを維持)を中心に収入改善に取り組んだ。全28診療部長面談を年2回実施し、その際に分析資料の説明とヒアリングも実施した。(第三) ④診療部ごとの疾病別増収例、減収例について具体的な説明と今後に向けた対策について、各診療部がコスト改善に取り組んだ結果、7月～21年2月までのDPCと出来高の比較では、プラス7.8%となっている。(柏) ⑤分析ソフトを使って疾病別医療収入の把握および疾病別原価計算を行い、各病院にフィードバックした。(企画部)
2. 経費の抑制に関する目標 ①物流の見直し、購入組織の見直し、個別、疾病別の医療材料費を把握することにより改善を推進する。 ②エコ活動を推進し、電気・ガス・水道・重油・電話・コピー・酸素等の経費削減を図るための具体策を実行する。 ③IT グランドデザインに基づくIT 投資計画、包括的なIT 関連経費の適正化を推進する。	①物流全般を慈恵実業に集約し、一括購入、物流効率化で経費を削減する。 ・遅滞なくSPD業者を変更する。柏病院は変更を検討する。 ②電気・ガス・水道・重油・電話・コピー・酸素等の経費削減を検討する。 ③中期的なIT グランドデザインの策定、IT 関連経費の統合・廃止による削減、価格見直しを実施する。	(用度担当)一括購入、価格交渉で一定の成果を得たが、平成20年度は慈恵実業との請求方法の見直しを実施した。一括購入、それによる全体的な価格交渉は一時中断したが、平成21年度に再開する。 (用度担当)青戸病院、第三病院はSPD業者を7月より変更し、購入単価での改善を図った。柏病院については、既存業者を変え、手術室増室とICU増室に対応すべく、物流について検討中である。 (施設担当) ①省エネ対策として学術情報センター図書館書庫の照明292台と事務室の照明器具29台も更新した。約8,000kwh/年の電力節減が図れた。中央棟と大学1号館の空調用冷温水ポンプのインバータ化を実施した。約90万kwh/年の電力削減約1,000万円/年の電力料金の節約が期待できる。 ②重油……重油購入単価もリアルタイムに引き下げを行っている。 ③コピー……外来・病棟を中心に50台コピー機の更新により、保守費+トナー代を1枚当たり1.5円下げることが出来、年額で約400万円の節減が図れた。 システム費用のあり方について、他大学とベンチマークを実施し、その結果を踏まえて、慈恵大学の適正システム経費のあり方を提示したい。IT グランドデザインの策定、IT 関連経費の統合・廃止による削減、価格見直しには至らなかった。
3. 資産の運用管理の改善に関する目標 ①施設・設備の効率的な維持管理と計画的整備を図る。 ②機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。	①施設・設備計画を策定する組織を設置し、効率的な維持管理を実施する。 ②慈恵実業と協働で機器登録管理システムを策定する。	施設・設備計画の策定組織の設置には至らなかった。慈恵ファシリティーズと協議し、計画策定組織の検討を進める。 財務システムにある固定資産登録は平成21年度より使用可能となった。慈恵実業と協議し、機器の登録管理システムを検討する。
IV. 自己点検・評価の充実に関する目標 ①自己点検・評価を公表し、運営(中期目標・計画、支援、設備整備等)に関わる検討組織の審議に反映できるシステムを構築、運営する。	①前回の結果を公表する。	大学基準協会相互評価報告書(平成15年度発刊)、本学のホームページ、東京慈恵会医科大学記録IV(平成10年度～15年度)、大学自己点検・評価報告書(平成18年発刊)の周知を図り、申請書作成を進めた。(総務)(大学事務部)(企画部)

中 期 計 画	平成20年度事業計画	平成 20 年 度 実 施 結 果
	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年に大学基準協会の評価を受けるための申請書類を作成する。 	<p>大学基準協会へ1/7に草案を提出、3/30に本申請を送付した。(4/1必着)(総務)(大学事務部)(企画部)</p>
V. その他事業運営に関する重要目標 1. 青戸病院リニューアルに関する目標 ①青戸病院TFを設置し、リニューアル計画を推進する。 ②青戸病院リニューアル委員会を設置し、リニューアルTFと連携し、基本事項決定および行政折衝等を推進する。	①基本設計、実施設計までの詳細を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> 開発許可・総合許可・建築確認までの周辺折衝及び整理 ②建築着工までの基本事項を審議決定する。	<p>基本設計を完了し、詳細な実施設計段階に至った。</p> <p>開発許可・総合設計に向け、対外折衝及び整理は順調に進められている。</p> <p>青戸病院リニューアルに向け、基本事項を審議・決定し計画通り順調に進められている。</p>
2. 附属病院外来棟建築に関する目標 ①西新橋キャンパス全体を視野に入れ建築計画を策定する。 ②附属病院の機能分化と西新橋キャンパスの有効利用を考慮した外来棟の基本コンセプトを策定する。	①本院外来棟の建築スケジュール、プロジェクトプランを検討する。 ②本院機能、分院機能、西新橋キャンパスでの教育研究機能も考慮し本院外来棟の基本コンセプトを検討する。	<p>成医会(2008.12.10)で「新外来棟の規模と機能」に関するパネルディスカッションを開催 「現状分析と今後の医療」「他施設に学ぶ」「諸外国に学ぶ」「ITの観点より」「システム工学の立場より」「財務面からの検討」また、外来棟建築準備小委員会を設置することとした。</p> <p>建築専門家を加えて検討を再開することとした。</p>
3. 大学マスタープランの策定に関する目標 ①教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランを策定する	①マスタープラン検討委員会活動を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> 西新橋(国領)キャンパスの教育・研究・診療機能を検討し、マスタープランの概要を策定する。 	<p>建築専門家を加えて検討を再開することとした。</p> <p>建築専門家を加えて検討を再開することとした。</p>
4. 創立130年記念事業に関する目標 ①記念事業に必要な寄付金を募集する。	①寄付金額の目標、実施計画を策定する。	①夏の常任理事会で創立130周年記念事業について検討がなされた。 ②創立130周年の記念記念募金委員会(案)が審議された。委員長は梅澤常務理事、募金目標額は20億円とする。尚、募金は、従来と違った寄付のあり方を検討することになった。
5. 大規模災害時の対応に関する目標 ①大規模災害発生時の4機関連携体制対策指針を整備する。	①マニュアルに基づく4機関合同訓練を実施し、災害発生時の体制を強化する。	<p>災害対策マニュアルに基づく対応を訓練し、災害時の対処における問題点を把握し、事後の対処要領の参考とするため、4病院合同の災害対策訓練を11月6日(木)に実施した。</p>

〔付〕 2. 学校法人 慈恵大学 中期目標・中期計画・平成21年度事業計画

〔本学の理念・目的・使命〕

- 理念：医学・看護学の教育・研究とその実践を通して人類の健康と福祉に貢献する。
- 目的：質の高い医師と看護専門職者の育成と臨床を支える医学・看護学研究を推進する。
- 使命：社会のニーズに応えることのできる医師・看護師・保健師の育成と医学・看護学研究を振興して人類の健康と福祉に寄与する。

〔本学が目指す将来像（ビジョン）〕

- 社会の共感を得て、国際的にも高い評価を受けることができる質の高い医科大学を目指す。

質の高い医学・看護学教育

- (1) 医学・看護学を深く理解し、豊かな人間性を具えた全人的な医療を実践できる医師・看護師・保健師を育成するための特色ある卒前・卒後教育システムを構築する。
- (2) 4 附属病院の特徴を活かした多様な医師・看護師・保健師育成プログラムを策定する。
- (3) 看護学科と看護専門学校は、協力して看護生涯学修の出発となる基礎能力の育成に組織的に取り組む。
- (4) 大学院教育の充実と改善を推進する。

本学の特色ある研究と臨床に還元できる研究の推進

- (1) 本学に継承されている特色ある研究を発展させる。
- (2) 臨床研究と疫学研究を推進するシステムを構築する。
- (3) 臨床を支える医学・看護学研究を推進する。
- (4) 先進医療を開拓するための医学研究を推進する。

質の高い医療の提供

- (1) 社会のニーズに応えることができる質の高い医療を実践できる附属病院を目指す。
- (2) 安心で安全な医療を提供できる医療システムを構築する。
- (3) 高度で先進的な医療を開発し実践する。
- (4) 医師、看護師・保健師としての技術を向上させるための取り組みを行う。
- (5) 附属病院の特色を活かして各附属病院の活性化と機能分化を図る。

130年記念事業

- (1) 130年記念事業を行う。130年史の刊行と募金活動を行う。

〔基本方針〕

平成21年度の基本方針と重点施策

1. 法令遵守の徹底
 - ・教職員の法令遵守精神を向上させる。
2. 医療安全の推進
 - ・医療安全体制を検証し、より良い医療安全システムを構築する。
3. 質の高い医療人の育成
 - ・卒前教育の改善と充実を図る。
 - ・卒後教育を改善して研修医とレジデントの応募者増を図る。
 - ・大学病院連携型高度医療人養成推進事業に参画する。
 - ・看護学科・看護専門学校は、協力して卒業時の技術到達目標に関する評価を周知する。
 - ・看護学専攻修士課程における高度実践看護師のためのプログラムの充実を図る。
4. 安定した財政基盤の構築
 - ・医療収入の増加と医療経費の削減を図る。
 - ・大学における経費の点検を行う。
 - ・機関別の中期財務計画を策定する。
 - ・収支状況の月次把握ができるようにする。
 - ・青戸病院、第三病院の収支構造の改善を図る。
 - ・柏病院の施設整備強化により収益増を図る。
5. 医学・看護学研究の推進
 - ・各講座を中心に行われている特色ある伝統的研究と共に先進的研究を推進する。
 - ・研究推進のための競争的研究資金の獲得を目指す。
 - ・医療現場と連携して看護学研究を振興する。
 - ・臨床研究を推進するための体制を整備する。
6. 広報活動の充実
 - ・広報誌、ホームページを充実させて、本学の教育・研究内容などを社会にアピールする。
 - また、病診連携、病々連携、同窓会への情報発信に活用する。
7. 大学基準協会の認証評価を受ける。
8. 青戸病院、第三病院、柏病院のDPC対応を推進する。
9. 青戸新病院着工に具体的な準備を進める。
10. 本院外来棟建築に関する検討を開始する。

I. 中期目標・中期計画期間

平成19年4月1日から平成25年3月31日までとする。

II. 「中期目標・中期計画・平成21年度事業計画」の項目

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成21年度事業計画
<p>I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標</p> <p>1. 教育に関する目標</p> <p>(1) 教育の成果に関する目標</p> <p>○卒前教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広く深い教養を身につけた医師・看護師を育成する。 エビデンスに基づいた医療判断が出来る医師・看護師を育成する。 医学生の実臨床能力の向上を図る。 研究的態度を身に付けた医師・看護師を育成する。 国際感覚を持った医師・看護師育成のために外国語教育を充実させる。 医師・看護師・保健師国家試験合格率の改善を図る。 学習効果を適切に評価する。 入学後の学習支援を行い大学教育が滞りなく行えるように配慮する。 卒前教育における大学間連携を推進する。 自ら学ぶ態度を涵養する。 	<p>I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1. 教育に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 教育の成果に関する措置</p> <p>①教養教育のあり方を検討する。</p> <p>②医学科と看護学科でエビデンスに基づいた判断能力を涵養するカリキュラムを改善充実させる。</p> <p>③研究的態度を涵養するカリキュラムを改善充実させる。</p> <p>④外国語教育の充実を図る。</p> <p>⑤学生の個性を尊重した教育を実施する。</p> <p>⑥国家試験を視野に入れた評価方法の改善を図る。</p> <p>⑦大学間連携を推進する。</p>	<p>学事課 看護学科 (教学委員会)</p> <p>学事課 (教学委員会)</p> <p>学事課 看護学科 (教学委員会)</p> <p>学事課 (教学委員会)</p>	<p>①-1 医学科新カリキュラムの導入効果を検証する。 ・看護学科の新カリキュラムを実施する。</p> <p>①-2 高学年への教養科目導入を検討する。</p> <p>②研究室配属期間を延長する。</p> <p>③臨床実習時間を延長し、参加型実習にした効果を検証する。</p> <p>④今年度より開始する医学科と看護学科を分けてクラス編成する方式の実態調査と検討を行う。</p> <p>⑤選択臨床実習の期間を延長し、自由度を拡大する。</p> <p>⑥国家試験を考慮した試験形式を検証する。</p> <p>⑦4 私立医大や首都大学東京などとの連携を継続する。</p>
<p>○大学院教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床を支える研究を推進する。 社会に開かれた大学院となるように改善し、生涯学習の場を提供する。 高い倫理観と判断力に優れた研究者を育成する。 医学教育に優れた研究者を育成する。 臨床研究に優れた研究者を育成する。 研究者育成のためのカリキュラムを策定する。 看護実践を支える看護研究を推進する。 	<p>①豊富な症例を対象とした臨床研究を行うため基盤整備を行う。 ・トランスレーショナルリサーチを推進する環境を整備する。</p> <p>②社会人入学の振興を図る。</p> <p>③研究者に必要な倫理観、判断力を涵養するプログラムを策定する。</p> <p>④共通カリキュラムの改善を図る。</p> <p>⑤看護学専攻修士課程における研究を充実させ質を高める。</p>	<p>学事課 (大学院委員会、研究科委員会)</p> <p>学事課</p>	<p>①臨床研究推進のための検討を行う。</p> <p>②大学院の社会人入学制度の検証を行い更なる改善につなげる。</p> <p>③新設した医学教育のカリキュラムの内容を継続的に検証し充実を図る。</p> <p>④共通カリキュラムの内容を継続的に検討する。</p> <p>⑤看護学専攻修士課程の安定した運用を図る。</p>
<p>(2) 教育内容等に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 優れた人材の獲得に向けた医学科入学試験方法を改善する。 看護学科の志願者増を視野に入れ、入学試験を改善する。 カリキュラムの点検・評価を行い改善する。 問題解決能力涵養のための教育形態を策定する。 臨床能力を向上させるための方略を策定する。 質の高い医療人を育成するための厳正で適切な評価を行なう。 	<p>(2) 教育内容等に関する措置</p> <p>①医学科・看護学科の入学試験を改善する。</p> <p>②医学科と看護学科のカリキュラムを点検し改善する。</p> <p>③モデル・コア・カリキュラムを考慮した医学科の特色あるカリキュラムを継続的に検討する。</p> <p>④医学科の交換留学制度を充実させる。</p>	<p>学事課 看護学科</p> <p>学事課</p> <p>学事課 (教学委員会)</p>	<p>①医学科受験者の詳細な調査を実施し、優秀な学生を獲得する方策を立てる。 ・看護学科の志願者増を図る。</p> <p>②新カリキュラムの実施状況を検証する。</p> <p>③医学科カリキュラムの状況を検証する。</p> <p>④医学科の外国人留学生の受入れ体制を充実させる。</p>

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成21年度事業計画
<ul style="list-style-type: none"> 国際交流を推進する。 卒業教育カリキュラムを改善し公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤レジデント教育プログラムを改善して医学生に公開する。 ⑥高校訪問やオープンキャンパスを積極的に行い、看護学科受験者増を推進する。 ⑦看護学科の定員を増やす。 ⑧看護学科の講義、実習、演習の比率を改善する。 ⑨少人数教育体制の点検・評価を行う。 ⑩看護における臨床技能を高めるために実習方法を改善する。 ⑪看護学科の海外実習を振興する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員・医師人事室 看護学科 学事課 看護学科 (教学委員会) 看護学科 (教学委員会) 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤新プログラムをホームページへ開示し、プログラムの充実を図る。 ⑥看護学科の志願者を増やすために継続して広報活動を行う。 ⑦"看護教育のあり方を検討するプロジェクト"を設置し、看護学科定員増に関連する課題を検討する。 ⑧看護学科の講義、実習、演習の比率を見直し実践能力を向上するよう改善策を検討する。 ⑨少人数教育の効果について点検・評価を行う。 ⑩臨床技能を高める実習を検討する。 ⑪タイの看護教員の講演会の実施、アジア方面への看護研修の計画を立案する。
<p>(3) 教育の実施体制等に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員の適正配置を検討する。 教育環境を整備する。 教員の教育能力の向上に努める。 教員評価を実施する。 	<p>(3) 教育の実施体制等に関する措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教育・研究を考慮した教員の適正配置と教員数を検討する。 ②講義室などの教育環境整備を行う。 ③教育能力向上のための教育研修を実施する。 ④教員・医師人事評価制度の運用と体系的な人事制度を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員・医師人事室 学事課 看護学科 大学事務部 教員・医師人事室 	<ul style="list-style-type: none"> ①教員・医師人事室で教員の適切な人数を把握する。 ②継続的に教育環境やアメニティの改善を図る。 ③-1 継続的に Faculty Development、Staff Development を行い、教育体制の充実を図る。 ③-2 生涯教育のための講演会を継続的に開催する。 ④教員評価システムを教員人事に活用する。
<p>(4) 学生への支援に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生が充実した生活を送ることが出来るように支援する。 留年者に対して学力と精神面の支援を行う。 	<p>(4) 学生への支援に関する措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学生支援のための教員組織を充実させる。 ②奨学金制度を充実させる。 ③精神的支援を必要とする学生のためのシステムを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学事課 看護学科 	<ul style="list-style-type: none"> ①学年担当教員制度を改善する。 ②奨学金授与・貸与方法を改善する。 ③学生健康管理チームの活動を開始する。学生相談室、学生アドバイザー制度の見直しを図る。
<p>(5) 看護専門学校に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護専門学校の質の向上を図る。 定員数の学生を確保する。 適切な看護専門学校の配置を検討する。 	<p>(5) 看護専門学校に関する措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ①看護教員の確保に努める。 ②看護実践を重視した看護教育を行う。 ③学生確保のため積極的に広報活動を行う。 ④学生生活支援を積極的に行う。 ⑤看護専門学校の再編を検討し実行する。再編に向けて4病院を活用した実習カリキュラムを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護専門学校 	<ul style="list-style-type: none"> ①看護教員確保に必要な具体的な措置を講じ、教員を確保する。 ②技術体験・見学体験の機会を増加させる。 ・臨床と基礎をつなげる教育方法の開発を行う。 ③受験雑誌への掲出、ネットサイトと契約など広報活動の充実を図る。 ④学習についていけない学生や生活上で問題のある学生への支援・指導、保護者との連携・協力を図る。 ⑤看護専門学校の再編計画を策定する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成 21 年 度 事 業 計 画
2. 研究に関する目標 (1) 研究水準及び研究成果に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> 臨床を支える質の高い研究を振興する。 論文発表を促進する。 国際的に高い評価を受けることができる研究を推進する。 	2. 研究に関する措置 (1) 研究水準及び研究成果に関する措置 ①教員の職位に応じた論文発表を評価する。 ②国際誌への投稿を推進する。 ③Jikeikai Medical Journal の充実を図る。	学術情報センター 大学院委員会 学事課 大学院委員会 学術情報センター	① - 1 論文の発表数と掲載された論文を自己評価する。 ① - 2 大学院委員会で検討した発表論文基準に照らして研究業績の評価を検討する。 ②国際誌への投稿推進策を策定する。 ③MEDLINE 掲載を目標に Jikeikai Medical Journal の掲載論文の質と量の充実を図る。
(2) 研究実施体制等の整備に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> 研究環境を整備する。 臨床研究を推進する体制を構築する。 先進的研究実施体制を作る。 寄付講座制度を活用する。 大学の研究費予算を見直す。 効率的な人員配置をする。 	(2) 研究実施体制等の整備に関する措置 ①臨床研究支援体制を構築する。 ②先端研究を促進する体制を作る。 ③トランスレーショナル研究推進体制を作り振興する。 ④寄付講座を振興する。	総合医科学研究センター 先端医療研究推進委員会 大型プロジェクト対策委員会 iPS 細胞研究会 先端医療研究推進委員会 iPS 細胞研究会	① - 1 疫学研究と臨床研究を更に振興させるための組織を整備する。 ① - 2 共同利用研究施設を整備する。 ②アンケート結果を参考に大型研究費申請の準備をする。 ③現在進行中のトランスレーショナル研究を推進する。大型研究費の採択に向けて研究組織や研究内容の充実を図る。 ④新たな寄付講座の開設に向けて取り組む。
(3) 総合医科学研究センターに関する目標 <ul style="list-style-type: none"> 各研究所・研究室の活動を定期的に点検・評価する。 競争的研究資金の獲得を目指す。 各研究所・研究室の特色ある研究を推進する。 研究支援部門の充実を図る。 	(3) 総合医科学研究センターに関する措置 ①大学の自己点検・評価を推進し外部評価を受ける。 ②研究成果を積極的に開示する。 ③各研究所・研究室の特色ある研究を推進し、情報公開に努める。	総合医科学研究センター 運営委員会	①自己点検評価を実施し、評価結果を公開する。 <ul style="list-style-type: none"> 研究支援体制を充実させるため、センターの組織を改編する。 ②研究所の合同研究発表会の開催を検討する。 ③ホームページの学術研究欄を学術リポジトリページとのリンクを考慮して整備する。
(4) その他 <ul style="list-style-type: none"> 医学・看護に関する情報を公開し社会に貢献する。 	(4) その他の目標に関する措置 ①知的財産を社会に還元するために市民公開講座を積極的に開催する。	教育センター (公開講座推進委員会)	①補助金を活用して市民公開講座を継続して積極的に開催する。
3. 附属病院（4病院）に関する目標 (1) 医療安全の推進 <ul style="list-style-type: none"> 医療安全体制を強化する。 4 附属病院の連携を強化する。 全国の私立医科大学病院の医療安全推進に貢献する。 	3. 附属病院（4病院）に関する目標を達成するためにとるべき措置 (1) 医療安全の推進に関する措置 ①医療安全管理体制の点検・評価を実施する。 ②迅速対応体制を確立する。 ③私立医科大学病院間の相互ラウンドを実施する。	医療安全管理部	①システム工学の視点で医療安全管理体制を点検し、改善策を立案・実践する。 <ul style="list-style-type: none"> フロアリスクマネージャーが担当部門の評価・点検とスタッフ教育を行える体制を構築する。 ②医療問題への迅速対応体制の認知度を高める。 ③私立医科大学病院間の相互ラウンド制度を更に推進する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成 21 年度 事業 計画
(2) 先進医療の推進 ・患者ニーズにこたえる先進医療に取り組む。	(2) 先進医療の推進に関する措置 ①医療の質と技術向上のための取り組みを推進する。	臨床研修センター	①低侵襲手術を始めとした先進医療トレーニングシステムを周知させ振興する。
(3) 患者サービス・病診連携の推進 ・患者中心の医療を円滑に推進する。 ・患者支援のボランティアが参加しやすい受入れ体制を作る。	(3) 患者サービス・病診連携の推進に関する措置 ①医療連携を進める具体的な体制整備を行う。(医師・看護師・SW 等が協働できる体制) ②患者の受診をサポートする。(紹介診療予約、医療案内など) ③退院・転院・在宅医療などの支援業務を一体化する。	患者支援・医療連携センター管理課 業務課 患者支援・医療連携センター管理課	①BSC を用いて患者支援・医療連携センター等の協働体制を整備する。 ②患者をサポートするボランティアの受入れを積極的に行う。 ③退院・転院・在宅医療支援組織を設置し患者支援を推進する。
(4) 効率的な医療の推進 ・附属 4 病院で効率的な DPC 運用を図る。 ・職種間の効率的な協働体制を構築する。 ・科学的根拠に基づく医療の効率化を推進する。	(4) 効率的な医療の推進に関する措置 ①DPC に対応したクリニカルパスを普及し、治療の標準化、医療の安全と効率化を図る。 ②医師、看護師、コメディカル、事務職の効率的な業務分担の推進を図る。 ③ 4 病院共通操作性オーダーリングシステムの導入を検討する。	業務課(青戸・第三・柏) 業務課(クリニカルパス委員会) 薬剤部 企画部 人事課 教員医師 人事室 システム課	①- 1 青戸病院、第三病院、柏病院の DPC の検証と分析を行い増収につなげる。 ①- 2 DPC に対応したクリニカルパスの導入を推進する。 ①- 3 後発薬品導入を推進する。 ①- 4 外来疾病別原価分析を実施する。 ②関係部署間で協力して担当業務、業務分担を見直す。 ③ 4 病院のオーダーリングシステム導入計画を策定する。
(5) 予防医学の推進 ・大学として予防医学に貢献する。 ・スポーツウェルネスクリニックとスポーツ医学の再興。	(5) 予防医学の推進に関する措置 ①総合健診・予防医学センターと各病院との連携を強化する。 ②スポーツ・ウェルネスクリニックとスポーツ医学研究を見直す。	総合健診・予防医学センター 整形外科 リハビリテーション科	①総合健診・予防医学センターと各病院との情報を共有し、円滑に診療へ移行させる。 ②- 1 一般人を対象とした運動療法・栄養指導を継続実施し拡大させる。 ②- 2 体力医学研究を推進し学会発表等を行い研究の活性化を図る。
●附属病院（本院）に関する目標 (1) 医療の質の向上を図る。	●附属病院（本院）に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①特定機能病院としての機能を充実させる。 ②東京都認定がん診療病院としての機能を充実させる。 ③人材育成（スキルアップ）を行う。 ④院内研修制度の充実を図る。	管理課（運営会議担当委員会） 管理課・診療情報室 患者支援・医療連携センター 薬剤部 人事課 教員医師 人事室 教員医師 人事室	①特定機能病院としての機能を充実させるため、各診療科へ病院としての支援策強化や実施申請方法の簡素化を行う。 ②院内がん登録の促進、がん相談支援の院内体制整備。がん薬物療法の体制整備の充実を図るため、レジメン登録を推進する。 ③関係部署と協力し、各科のキャリアパスの作成を推進する。 ・キャリアパスが既にある部門のキャリアパスの取り纏めを行う。 ④「家庭医・再研修コース」を開設し、4 病院学内公募を開始する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成21年度事業計画
(2) 先進（高度）医療を開発し、施行する。	①鏡視下手術トレーニングコースの充実を図る。	臨床研修センター	①STEP1及びMCQに関するeラーニングシステムの導入とSTEP2の継続的な開催について検討する。
(3) 医療安全管理体制の充実と推進を図る。	①医療安全に関する組織横断的な活動を推進する。	医療安全管理部	①医療安全に関する組織横断的な活動として研修医・レジデント・新規採用医師への医療安全教育を実施する。
(4) 患者・家族の満足度の向上を図る。	①インフォームド・コンセントを徹底する。	管理課 医療安全推進室	①インフォームド・コンセントの実施状況の調査を行い問題点の抽出を図り改善策を検討する。
(5) 地域連携促進と極め細やかな医療サービスを提供する。	①患者支援・医療連携センターの機能充実を図る。	患者支援 医療連携センター	①患者支援医療連携センターの機能を再整備するためBSCを着実に実行する。
(6) 臨床研究を促進する。	①臨床試験の支援体制を充実させる。	臨床試験支援センター 臨床疫学研究室 分子疫学研究室	①臨床研究コーディネーターのレベル向上と治験の推進を図る。 ・臨床疫学研究室（新設）や分子疫学研究室と連携し、臨床研究を推進する。
(7) 効率的医療を推進する。	①オーダリングシステム導入による効率的な運用を図る。 ②効率的な診療体制の構築を図る。 ③手術室の効率運用を図る。 ④救急患者受入れの体制整備を行う。	業務課 システム課 ICU 看護部 (外来委員会) 手術部 中央材料室 救急部	①オーダリングシステム第2期を導入し、効率的な二次利用を行う。 ②-1 ICUの増床により診療の効率化を図る。 ②-2 外来点滴室の有効活用を図る。 ③-1 手術室の利用枠管理を徹底する。 ③-2 中央材料室業務の効率化に向けて継続的に改善を図る。 ・病棟器材の回収・搬送を増加させる。 ・1次洗浄の中央化を病棟部門へ拡大。 ④救急患者受入れ増加のため体制を整備する。 ・臨床管理能力の向上 ・コアカリキュラムの改善 ・地域救急隊との勉強会実施 ・ICUとの有機的な連携
(8) コスト管理の強化と収益性の向上を図る。	①月次医療収支額を把握する。 ②DPCデータの他大学とのベンチマークを実施する。 ③医療材料のSPD業務の再編を行う。	事務部 企画部 事務部 財務部 企画部	①月次医療収支額に基づくコスト管理の強化、収益性の向上を検討する。 ②5大学ベンチマークプロジェクトを継続的に推進する。 ③大学全体の物流全般に関する将来計画を策定する。 ・医療材料、医療消耗品の使用状況を適宜把握できるシステムを策定する。
(9) 法令遵守の徹底を図る。	①施設基準等の定期点検を行う。 ②慣例的に行っている業務手順を法令遵守の視点で見直す。	事務部 管理課	①施設基準に照らして検証し、未実施のものを明確にし、実施実現に向けて検討を行う。 ②病院機能評価を受審する。 ・病院機能評価受審に向け、標準作業書の整理を行う。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成 21 年度 事業 計画
(10) 個人情報管理を徹底する。	①学内個人情報管理規定を遵守する。 ②電子媒体による情報管理を徹底する。	総務課・ 管理課 (個人情報 保護委員会) 総務課 (個人情報 保護委員会)	①定期的な研修会や講演会を実施し、個人情報管理を徹底する。 ②電子媒体の管理により情報を把握し、紙媒体の情報離散を減少させる。
(11) 情報公開の条件を整備する。	①診療情報を評価するシステムを構築する。	管理課 企画部	①関係部署と共同し、診療情報評価システムを構築するため情報収集を行う。
(12) 教職員の職場満足度を向上させる。	①働きやすい環境整備等を行う。 ②女性教職員・女性医師の復職を支援する。 ③職種間の業務分担を見直す。	管理課 人事課 教員医師 人事室 教員医師 人事室 管理課 看護部 人事課 人事課 医療管理室	①職場環境の整備を検討し、具体的な改善を実施する。 ②病児保育の導入・院内保育を検討する。21年度は「病児預かり」を開始する。 ・短時間勤務の活用を推進する。 ③職種ごとに担当する業務内容を見直し、業務分担と連携を再構築する。
●青戸病院に関する目標 (1) 管理運営を強化する。	●青戸病院に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①開かれた組織体制を構築する。 ②迅速な意思決定が出来るように組織を強化する。 ③各運営委員会を活性化し、病院長の諮問機関としての役割を強化する。	青戸病院 (運営会議 ・BSCWG) 運営会議	①青戸病院 BSC の見直しと各部門への BSC の落としこみを行う。 ②病院組織を再整備し、統治権限を明確にする。 ③運営委員会を活性化するため、役割を見直し再編成する。
(2) 財政基盤を磐石にする。	①十分な内部留保ができるよう経営の安定化を図る。 ②発生主義に基づく予算管理、収益性分析、生産性分析による経営課題を解決できるシステムを構築する。	運営企画会 事務部	①-1 材料費、一般経費の管理を強化する。 ①-2 医師定数の見直しに着手する。 ②-1 収益性分析を実施して対応策を講じる。 ②-2 生産性分析を実施して対応策を講じる。
(3) オープン・システムを構築する。	①附属 4 病院連携、地区医師会、連携医療施設、行政とのネットワーク整備をする。 ②学内連携を図ることによって、診療、教育体制を強化するとともに、教育研修制度を整備する。 ③東京都看護職員復職支援研修施設として対象者を受け入れる。	患者支援 医療連携 センター 運営委員会 看護部 事務部	①-1 登録医制度を推進する。 ①-2 病病連携ネットワークを構築する。 ②メディカルカンファレンスを一層充実(継続)させる。 ③看護師再教育制度の内容を充実させ地域へ貢献する。
(4) 診療体制及び重点機能を強化する。	①総合内科・救急医療の協働体制を確立し、患者受入体制を強化する。 ②手術室の物流を改善し効率運用を図ることによって手術数を増加させる。 ③医療の効率化、透明化、標準化を図る。 ④患者フローの視点で、入院から退院・転院まで一貫したコーディネイトを行う。 ⑤ICU・CCU を設置する。	運営会議 運営委員会 運営委員会 看護部 患者支援医療 連携センター 運営企画会 運営委員会	①総合内科病棟を設置する。 ②オペラマスターによる手術材料管理を徹底する。手術室運用の効率化を図る。 ③DPC に併せクリバスの導入拡大を図る。 ④病床管理システムを導入し、PFM を推進する。 ⑤22年度準 ICU の設置に向けて構造設備・運用案を整備する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成21年度事業計画
(5) 病院リニューアルを実施する。	①大学病院、地域中核病院として患者志向の機能的な病院を建築する。(平成23年竣工を目指す。)	リニューアル委員会 リニューアルTF	①-1 リニューアルTF_フェイズIVの検討推進と新病院建築準備室の強化を図る。 ①-2 実施設計を完了して、建築着工する。 ①-3 情報システム要求仕様書を作成する。 ①-4 行政折衝、住民対応を遅滞なく行い建築工事を着工する。
●第三病院に関する目標 (1) 信頼される地域中核病院になる。	●第三病院に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①診療に関する情報を公開する。 ②地域住民や行政への医療啓蒙行事を更に充実させる。 ③患者に対する対応を見直し改善を図り、積極的に患者を受入れる。	第三病院業務課 第三病院管理課 第三病院運営会議	①-1 診療科研究業績、診療成績を開示する。 ①-2 第三病院 BSC の改定と各部門 BSC を作成する。 ②各種イベント、市民公開講座等を調布市と連携するなどして積極的に開催する。 ③救急、(中央) 診療部門の患者対応の改善を図る。
(2) 財政基盤を磐石にする。	①医療材料コストを見直す。	第三病院管理課	①患者単位の手術材料コスト管理を実施する。
(3) 優秀な人材を確保する。	①診療部を評価する。	第三病院管理課	①学術・診療・運営に関する院内評価を行う。
(4) 特色ある医療を強化する。	①森田療法センターを本学の特色ある医療として内外に強く再アピールする。	第三病院管理課	①森田療法センターと共に特色ある診療科を積極的に紹介する。
(5) 信頼関係に基づいた病診・病病連携を実践する。	①病診連携、病病連携のための強化を図る。	第三病院業務課 第三病院管理課	①-1 糖尿病地域連携バスを確立し、実践する。 ・病診・病病連携の強化策を講じる。 ①-2 診療科横断的な高齢者医療勉強会の開催、医師会・行政との高齢者医療に関する意見交換会を開催する。
(6) 「お年寄りにも優しい病院」を目指す。	①高齢者に対する対応策を検討する。	第三病院運営会議	①療養病床のあり方の検討を進める。
(7) 癒しの病院環境を醸成する。	①施設改修による療養・職場環境改善を持続的に実践する。 ②入院患者向け行事を開催する。	第三病院管理課	①病室のトイレ転換について継続検討、2C 病棟の改修工事について検討する。 ②各種「癒しの行事」を継続開催する。
●柏病院に関する目標 (1) DPC に対応した医療の標準化・効率化を推進する。	●柏病院に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①包括化による減収を回避する。 ②DPC 導入に合わせ医療の効率化、標準化による安全を確保する。	柏病院 DPC 導入 TF クリパス委員会 柏病院業務課	①DPC 導入による検証後、クリパスの導入拡大等医療の効率化、標準化を図る。 ②DPC データを用いて第三病院等とのベンチマーク分析を実施する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成 21 年度 事業 計画
(2) がん診療連携拠点病院として必要な高い診療機能を整備する。	①がん診療連携拠点病院として必要な施設を整備する。 ②がん診療連携拠点病院として必要な地域連携を整備する。	柏病院 地域がん 診療連携 拠点病院 運営委員 会	①外来化学療法室と病棟で行っている化学療法を外来部門に集中するための体制を整備して対応する科を拡大する。 ②医師会・千葉大学・地域の病院が共同しバス構築を行う循環型地域医療連携システムの構築に積極的に参加する。
(3) 手術件数を増加させると共に、手術増加に対応できるシステムを構築する。	①手術件数増加に伴う対応策を検討し、救急受入れの困難を回避する。	柏病院 手術部 管理課	①-1手術室の増室、小手術室の拡張、ICU・CCUの拡張改修工事を引き続き実施する。 ①-2手術室の増室、ICUの増床に対応する物流（SPD）の改善を慈恵実業と協働で改善し、コスト削減や効率化を図る。
(4) 病院機能を充実させる。	①地域（柏市）が求める外来、入院機能の拡充、高度化を検討する。	柏病院 将来構想 検討委員 会 柏病院 PACS 設置準備 委員会 柏病院 将来構想 検討委員 会	①-1将来構想検討委員会にてメディカルセンター化構想を検討する。 ①-2PACS/RISシステムの稼動を開始し、運用の安定化を図る。 ①-3将来構想検討委員会にて歯科外来設置の必要性を検討する。 ①-4将来構想検討委員会にて患者アメニティ向上を検討する。
(5) 電子カルテの導入を検討する。	①導入によるメリット、デメリットを検討する。	システム課	①運用検討部会の中で電子カルテ導入について検討する。
II. 業務運営の改善及び効率化に関する目標 1. 運営体制の改善に関する目標 ・理事会機能の強化を図る。 ・法令遵守の徹底を図る。 ・広報活動を充実する。 ・法人運営の総合的計画立案機能を強化する。	II. 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 1. 運営体制の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①理事会の構成、運営組織を見直す。 ②慈恵大学行動憲章・行動規範を徹底する。 ③補助金、業務等の内部監査の実施により、内部統制の強化を推進する。 ④個人情報保護の継続的注意を喚起する。 ⑤本学の情報（社会貢献、研究成果、医療貢献）を学内外に発信する。	人事課 監査室 総務課 （個人情報 保護委員 会） 広報課	①法人運営を効率的に進める組織体制の確立を推進する。 ②関係部署と協力し4月入職以外の新入職員と既就職者に対し、慈恵大学行動憲章・行動規範の周知プログラムを作成する。 ・教職員に対して、慈恵大学行動憲章・行動規範を周知する仕組みを作る。 ③補助金監査、業務監査を実施する。 ④外部講師による講演会を実施する。 ・意識向上に対する対策を講じる。 ⑤-1大学、附属病院に関する情報収集と広報手続き運用方法の仕組みを確立する。 ⑤-2「The JIKEI」「慈大新聞」を活用し同窓へ積極的に情報発信する。 ・大学の精神を頻回に発信する仕組みを作る。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成 21 年度 事業 計画
	⑥有事の際の広報体制確立と情報統制を確立する。 ⑦事業計画の実施状況を確認する。 ⑧BSC を普及拡大し、目標と進捗を把握、評価する。	広報課 企画部	⑥マスコミ対応マニュアルを作成し、管理当直者、夜勤医師等に周知する。 ⑦BSC 的な考えに基づく事業計画の実施プランを策定する。 ⑧BSC 冊子の発刊、BSC10部門への拡大を実施する。
2. 人材活用に関する目標 ・人材育成のための教育制度を構築する。 ・業務の効率化を図り人件費を抑制する。	2. 人材活用に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①職員の人材育成制度を強化する。 ②人事評価システムを充実させる。 ③業務の見直し、配置人員の見直し、業務効率化と人件費抑制を図る。 ④教職員の定着率を高める。 ⑤青戸看護専門学校閉校後に対する看護師確保体制を確立する。	人事課 教員医師 人事室 システム課 教員医師 人事室 人事課 人事課 給与課 人事課 企画部 人事課 人事課 看護部	①新任管理職員研修プログラム 2 年目を実施し、検証する。 ②教員による個別入力を徹底する。 ・教員人事への活用を図る。 ③- 1 IT、業務改善、アウトソーシングによる人員計画を策定する。 ③- 2 人件費抑制対策を検討し、抑制策を策定する。 時間外手当抑制の具体策を策定し実行する。 ③- 3 各部門の業務標準作業書を作成する。 ④教職員自己評価アンケートを実施する。 ⑤計画的な人事異動の拡大により看護師を確保する。
3. 事務の効率化・合理化に関する目標 ・IT 導入による効率化を実現する。	3. 事務の効率化・合理化に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①適正な IT グランドデザインを構築し、IT 戦略を策定する。 ②附属 4 病院にオーダリングシステムを導入し、効率化と患者満足度の向上を図る。 ③ネットワークの更新と再構築を行う。 ④経営管理データを一元管理し、経営判断を迅速に行える環境を構築する。	システム課 企画部	①最新の動向に関する情報を収集しながら電子カルテシステムの定義を見直し、それらを含めてシステム全般の導入計画を策定する。 ②附属病院オーダリングシステム（二次）を確実に導入し、データ二次利用（DWH）の利用拡大を進める。 ③本院・柏病院は 3 ヶ年計画、青戸病院はリニューアルの中でネットワークシステムの更新を行い、第三病院について更新計画を策定する。 ④経営管理データの一元管理をする。
Ⅲ. 財務の改善に関する目標 1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標 ・安定した経営基盤を確立する。 ・機動的な小グループ（タスク・フォース）の取り組みにより経営改善を推進する。 ・青戸病院、第三病院の収支構造を改善する。 ・科学研究費補助金・経常費補助金の獲得・増加に努める。	Ⅲ. 財務の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①予算実績管理体制を強化して効率的な運用推進の仕組みを策定する。	経理課 企画部 財務部 経理課 業務課	①- 1 財務委員会を設置して財務計画の策定、およびその検証を行う。 ①- 2 新財務システムを活用し収支状況の月次把握システムを作成する。 ①- 3 未集金発生予防策を講じる。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成21年度事業計画
	<p>②経営改善重要項目ごとに検討組織を設置し改善を推進する。</p> <p>③科学的な分析に基づき医療収支の改善を推進する。</p>	<p>青戸病院 第三病院</p> <p>柏病院</p> <p>研究支援課 大型プロジェクト 委員会</p> <p>業務課(本 院、青戸、 第三、柏) 企画部</p>	<p>②-1 青戸病院と第三病院の収支構造を改善するためにあり方を検討し、マスタープランを作成する。</p> <p>②-2 柏病院の患者動向・周辺医療機関状況を分析し、将来計画を策定する。</p> <p>②-3 補助金獲得のため補助金対象の調査を実施し申請の徹底を図る。</p> <p>③疾病別の医療収入の把握とタイムリーな原価計算作業を行い、改善を推進する。</p>
<p>2. 経費の抑制に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物流の効率化、一括購入により経費を抑制する。 ・各種資源の消費を削減する。 ・IT 関連経費の適正化を図る。 	<p>2. 経費の抑制に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①物流の見直し、購入組織の見直し、個別、疾病別の医療材料費を把握することにより改善を推進する。</p> <p>②医療経費の抑制を図る。</p> <p>③エコ活動を推進し、電気・ガス・水道・重油・電話・コピー・酸素等の経費削減を図るための具体策を実行する。</p> <p>④IT グランドデザインに基づく IT 投資計画、包括的な IT 関連経費の適正化を推進する。</p>	<p>施設課</p> <p>管理課 企画部</p> <p>施設課</p> <p>財務部 総務部 企画部</p>	<p>①物流全般を慈恵実業に集約し、一括購入、物流効率化で経費を削減する。</p> <p>②医療経費の抑制に向け検討組織を策定する。</p> <p>③西新橋キャンパスと全学対象の省エネルギー推進委員会を設置する。</p> <p>④システム経費のベンチマークを実施し、適正金額設定を検討する。</p>
<p>3. 資産の運用管理の改善に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学的かつ経営的視野に立った資産の効率的な運用を図る。 	<p>3. 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①施設・設備の効率的な維持管理と計画的整備を図る。</p> <p>②機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。</p>	<p>施設課</p> <p>財務部</p>	<p>①施設・設備計画を策定する組織を設置し、効率的な維持管理を実施する。</p> <p>②慈恵実業と協働で機器登録管理システムを策定する。</p>
<p>IV. 自己点検・評価の充実に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点検・評価結果を公表し、改善につなげる。 	<p>IV. 自己点検・評価の充実に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①自己点検・評価を公表し、運営（中期目標・計画、支援、設備整備等）に関わる検討組織の審議に反映できるシステムを構築、運営する。</p>	<p>総務課 大学事務部</p>	<p>①-1 平成20年度に行った自己点検評価をホームページで公開する。 ・大学基準協会の評価結果をホームページに掲載し PR する。</p> <p>①-2 大学基準協会の実地審査の準備を進める。</p>
<p>V. その他事業運営に関する重要目標</p> <p>1. 青戸病院リニューアルに関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本方針・基本コンセプトに基づく新病院を開設する。 	<p>V. 財務の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1. 青戸病院リニューアルに関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①青戸病院 TF を設置し、リニューアル計画を推進する。</p> <p>②青戸病院リニューアル委員会を設置し、リニューアル TF と連携し、基本事項決定および行政折衝等を推進する。</p>	<p>青戸リニュー アル委員会</p>	<p>①-1 平成21年10月に実施設計を完了する。</p> <p>①-2 平成21年5月総合設計許可申請 平成21年8月統合設計許可・確認申請に向けて進める。</p> <p>②建築着工までの基本事項を審議決定する。</p>

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成21年度事業計画
<p>2. 附属病院外来棟建築に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本院外来棟の建築（着工：平成24年度目標）。 	<p>2. 附属病院外来棟建築に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①西新橋キャンパス全体を視野に入れ建築計画を策定する。</p> <p>②附属病院の機能分化と西新橋キャンパスの有効利用を考慮した外来棟の基本コンセプトを策定する。</p>	<p>マスタープラン検討委員会</p>	<p>①マスタープラン検討会を通じ本院外来棟の建築スケジュール・プロジェクトプランを検討する。</p> <p>②本院機能、分院機能、西新橋キャンパスでの教育研究機能も考慮し本院外来棟の基本コンセプトを建築専門家などを加えて再開する。</p>
<p>3. 大学マスタープランの策定に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明確な長期マスタープランを策定する。 	<p>3. 大学マスタープランの策定に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランを策定する。</p>	<p>マスタープラン検討委員会</p>	<p>①-1 建築専門家などを加えてマスタープラン検討委員会活動を再開する。</p>
<p>4. 創立130年記念事業に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実現に必要な寄付金を確保する。 	<p>4. 創立130年記念事業に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①記念事業に必要な寄付金を募集する。</p>	<p>130年記念事業委員会</p>	<p>①「創立130年記念募金」を平成22年度より開始するための準備を開始する。</p>
<p>5. 大規模災害時の対応に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害発生時の危機管理体制を構築する。 	<p>5. 大規模災害時の対応に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①大規模災害発生時の4機関連携体制対策指針を整備する。</p>	<p>総務課</p>	<p>①大規模災害発生時の4病院の連携を図るため、継続して、災害対策訓練を計画、実施する。</p>